

茨城県教育財団文化財調査報告第422集

# 宮後遺跡 2

一般国道245号道路改築事業  
地内埋蔵文化財調査報告書

平成29年3月

茨城県常陸大宮土木事務所  
公益財団法人茨城県教育財団



茨城県教育財団文化財調査報告第422集

# 宮<sup>みや</sup>後<sup>ご</sup>遺跡 2

一般国道245号道路改築事業  
地内埋蔵文化財調査報告書

平成29年3月

茨城県常陸大宮土木事務所  
公益財団法人茨城県教育財団



## 序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて、埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県常陸大宮土木事務所による一般国道245号道路改築事業に伴って実施した、ひたちなか市宮後遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、平成22年度調査区と併せて、縄文時代から奈良・平安時代までの集落の様子が明らかになりました。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県常陸大宮土木事務所に厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、ひたちなか市教育委員会をはじめ、御指導、御協力いただきました関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成29年 3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 野 口 通



# 例 言

- 1 本書は、茨城県常陸大宮土木事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成27年度に発掘調査を実施した、茨城県ひたちなか市部田野1,745番地ほかに所在する宮後遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。  
調査 平成27年4月1日～6月30日  
整理 平成28年4月1日～6月30日
- 3 発掘調査は、調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。  
首席調査員兼班長 寺内 久永  
次席調査員 舟橋 理  
調査員 根本 康弘
- 4 整理及び本書の編集・執筆は、整理課長後藤一成のもと、調査員根本康弘が担当した。

# 凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 41,480 \text{ m}$ 、 $Y = + 66,840 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C…、西から東へ 1, 2, 3…とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c…j, 西から東へ 1, 2, 3…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 調査区の呼称については、平成 22 年度には道路西側が南から A～E ブロック、道路東側が南から F・G ブロック、平成 27 年度は南から H, I…L 区と呼称することとして調査を実地した。

3 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P - ピット PG - ピット群 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑  
遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品  
土層 K - 攪乱

4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土  炉・火床面  
 竈部材・粘土範囲  柱当たり  
●土器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品 - - - - - 硬化面

5 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

6 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は ( ) を、推定値は [ ] を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

7 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

8 今回の報告分で、整理の段階で欠番とした遺構は次の通りである。

欠番 SK25

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
宮後遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	5
第1節 位置と地形	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 縄文時代の遺構と遺物	10
竪穴建物跡	10
2 古墳時代の遺構と遺物	13
竪穴建物跡	13
3 奈良・平安時代の遺構と遺物	32
竪穴建物跡	32
4 その他の遺構と遺物	45
(1) 掘立柱建物跡	45
(2) 土坑	46
(3) 溝跡	47
(4) ピット群	47
(5) 遺構外出土遺物	48
第4節 まとめ	53
写真図版	PL 1～PL 8
抄 録	
付 図	



# みやご 宮後遺跡の概要

## 遺跡の位置と調査の目的

宮後遺跡は、ひたちなか市の南東部、中丸川と本郷川の合流地点から北東側の、標高26～27mの南北に延びる台地の南端部に立地しています。

一般国道245号の改築工事に伴い、遺跡の状況を図や写真に記録保存するため、平成27年度に茨城県教育財団が発掘調査を行いました。



## 調査の内容

今回の調査では、<sup>たてあな</sup>たてあな<sup>たても</sup>たても<sup>の</sup>の<sup>あと</sup>あとが10棟確認でき、内訳は縄文時代が1棟、<sup>こ</sup>古<sup>ふん</sup>墳<sup>じ</sup>時<sup>だ</sup>代<sup>い</sup>が3棟、<sup>な</sup>な<sup>ら</sup>奈良<sup>・</sup>・<sup>へい</sup>へい<sup>あん</sup>安<sup>し</sup>時<sup>だ</sup>代<sup>い</sup>が6棟です。その他では、時期がはっきりしない<sup>ど</sup>ど<sup>こ</sup>土<sup>くわ</sup>坑<sup>5</sup>基、<sup>み</sup>み<sup>ぞ</sup>溝<sup>跡</sup>3条、<sup>ほ</sup>ほ<sup>った</sup>た<sup>て</sup>掘<sup>た</sup>た<sup>て</sup>掘<sup>た</sup>て<sup>ば</sup>ば<sup>ら</sup>ら<sup>た</sup>た<sup>て</sup>も<sup>の</sup>の<sup>あと</sup>あと1棟、ピット群2か所を確認しました。



調査区遠景（北上空から）



古墳時代の建て替えられた竪穴建物跡



古墳時代の竪穴建物跡から土器が出土した様子



柱穴から土器が出土した様子



竈から土器が出土した様子



柱穴から出土した土器



竈から出土した土器

## 調査の成果

縄文時代の竪穴建物跡から、漁網に使う<sup>せきすい</sup>石錘が見つかりました。当時、近辺に網を使って漁ができる水域があったことが分かります。古墳時代の竪穴建物跡の中には、建て替えられたものがありました。また、柱を抜き取った穴に意図的に土器を埋納しており、建物を廃絶する際に<sup>まつ</sup>祀りを行った痕が見られました。前回の調査結果と併せて見ると、当集落は古墳時代から平安時代にかけて営まれていたことが分かります。

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

平成17年2月1日、茨城県常陸大宮土木事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道245号道路改築事業地内における埋蔵文化財の所在の有無、及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成17年2月22日に宮後遺跡の現地踏査を、平成20年1月22日、同年12月25日、平成21年3月5・6日及び平成22年1月26日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成20年2月7日、平成21年3月24日及び平成22年2月15日、茨城県教育委員会教育長は茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、事業地内に宮後遺跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成27年2月10日、茨城県常陸大宮土木事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づき、土木工事等の通知を提出した。平成27年2月13日、茨城県教育委員会教育長は茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

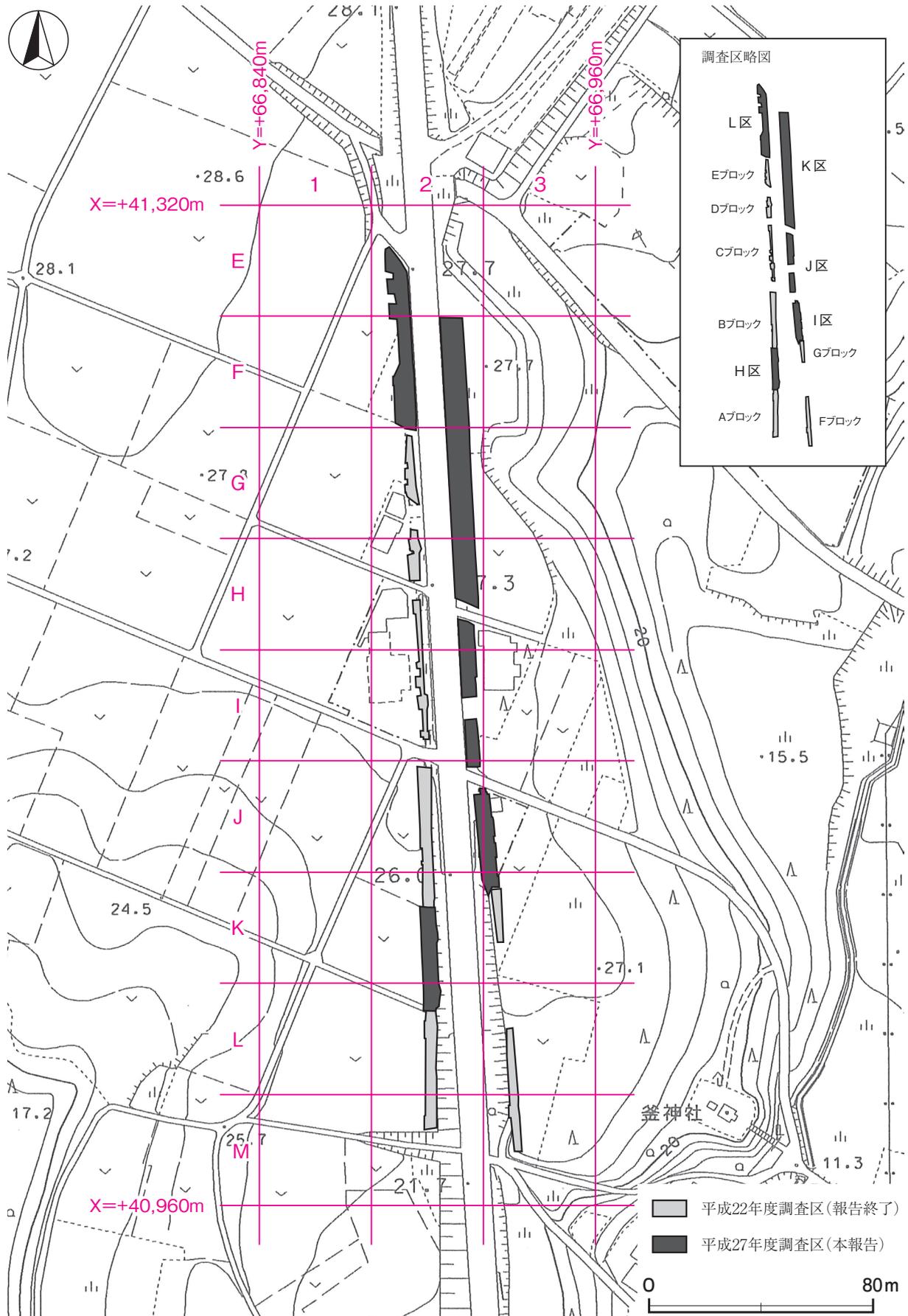
平成27年2月18日、茨城県常陸大宮土木事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道245号道路改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成27年2月20日、茨城県教育委員会教育長は茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、宮後遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県常陸大宮土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成27年4月1日から6月30日まで発掘調査を実施した。

## 第2節 調査経過

宮後遺跡の調査は、平成27年4月1日から6月30日までの3か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程 \ 期間	4月	5月	6月
調査準備 表土除 遺構確認	[Shaded bar spanning 4/1 to 5/10]		
遺構調査	[Shaded bar spanning 4/15 to 6/10]		
遺物洗浄 写真整理	[Shaded bar spanning 4/15 to 6/25]		
撤収	[Shaded bar spanning 6/25 to 6/30]		



第1図 宮後遺跡調査区設定図（ひたちなか市地形図2,500分の1）

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

宮後遺跡は、茨城県ひたちなか市部田野 1,745 番地ほかに所在している。ひたちなか市は、茨城県の中央部からやや北東部に位置し、東は太平洋に臨み、北は那珂郡東海村、那珂市、西から南にかけて水戸市、南東は大洗町と接している。

地域の大部分は、北西側の那珂市から続く標高 30 m 前後の那珂台地である。那珂台地は久慈川と那珂川に挟まれ、那珂川に流入する中丸川・大川・本郷川等の大小の河川によって樹枝状の支谷が刻まれており、谷底には肥沃な沖積地が形成されている。台地と低地との境界は比高 20～30 m の急崖になっている。さらに、那珂川に沿って河岸段丘が、太平洋沿いには砂丘が形成されている。

地質は、第三紀層（凝灰質シルト岩）の磯崎層を基盤としており、その上部は砂によって形成されている。さらにその上部には、第四紀層で、礫・砂・泥からなるの見和層（茨城粘土層を含む）、礫・砂からなる上市層、関東ローム層が堆積している<sup>1)</sup>。

当遺跡は、中丸川と本郷川の合流点の北東部で、東水戸道路ひたちなかインターチェンジ付近から南へ 1 km ほど細長く延びる標高 26～27 m の舌状台地平坦部の東縁部に立地している。当遺跡周辺の台地と低地との比高は 21～22 m である。調査前の現況は畑地・宅地・雑種地である。

### 第2節 歴史的環境

ひたちなか市には、国指定史跡の虎塚古墳<sup>とらづか</sup>、馬渡埴輪製作遺跡<sup>まわたり</sup>、県指定史跡の十五郎穴横穴群<sup>いゅうごろうあな</sup>〈39〉等、多くの遺跡が所在している<sup>2)</sup>。ここでは、宮後遺跡の周辺遺跡について触れることとする。

旧石器時代の遺跡は、那珂川やその支流周辺の台地上に点在している。那珂川左岸の三反田下高井遺跡<sup>みつたんだしもたかい</sup>〈32〉、本郷川左岸の後野遺跡<sup>うしろの</sup>〈57〉、大川左岸の西原遺跡<sup>にしはら</sup>等で石器集中地点が確認されている。後野遺跡では細石刃と船底型細石刃核が出土しており、太平洋沿岸部における北方系細石刃文化の南限となっている。

縄文時代の遺跡は、多くが三反田の丘陵上や那珂川の支流周辺の台地上に立地しており、県内有数の遺跡数である。当遺跡の周辺では、早期から晩期の集落遺跡が見られる。竪穴建物跡が確認された遺跡は、中丸川左岸の館出遺跡<sup>たてだし</sup>〈41〉（中期）、同右岸の大田房貝塚<sup>だいたっぽう</sup>〈21〉（晩期）や三反田蜆塚貝塚<sup>みつたんだしいづか</sup>〈38〉（前期から後期）、本郷川左岸の差洗遺跡<sup>さしよ</sup>〈72〉（早期）、同右岸の君ヶ台遺跡<sup>きみがだい</sup>〈53〉（中期）等がある。また、前述の大田房貝塚や三反田蜆塚貝塚、君ヶ台貝塚〈54〉のほかにも多数の貝塚が所在している。

弥生時代の遺跡は、那珂川やその支流によって形成された沖積地周辺の台地上に分布しており、この時代の遺跡数は県内最多である。中期前半からの遺跡が見られ、本郷川左岸の部田野猪Ⅲ遺跡<sup>へたのむじ</sup>〈71〉等で中期前半の猪式土器が採集されている。隣接する差洗遺跡では、中期後半（足洗式期）の土坑墓群や土器棺墓が確認されている<sup>3)</sup>。中丸川左岸の東中根遺跡群<sup>ひがしなかね</sup>に属する大和田遺跡<sup>おおわだ</sup>〈46〉では、環状の溝に囲まれた竪穴建物跡が確認され、炭化粃や多くの土器が出土している<sup>4)</sup>。これらの土器は、後期前半の東中根式土器の標識資料となっている。

古墳時代には、前期に主に那珂川流域に集落が形成され、時期を追って遺跡数が増加し、面的な広がりも見

られるようになる。三反田遺跡<sup>みたんだ</sup>や本郷川左岸の部田野山崎<sup>へたのやまざき</sup>I遺跡〈68〉、鷹ノ巣遺跡<sup>たかのす</sup>〈73〉等では、竪穴建物跡から弥生土器と古墳時代前期の土師器が共伴して出土しており、弥生時代から古墳時代への過渡期の様相を示している。三反田下高井遺跡では、前期の方形周溝墓4基、中期の鍛冶工房跡5基、中期から後期の粘土採掘坑などが確認された<sup>5)</sup>。中期から後期にかけては、集落の増加に伴う生産基盤が拡大したことを背景として、多くの古墳が築造された。当遺跡の周辺には、中丸川左岸の笠谷古墳群<sup>かさや</sup>〈40〉、部田野古墳群<sup>へたの</sup>〈13〉、同右岸の宮前古墳群<sup>みやまえ</sup>〈31〉、本郷川右岸の虎塚古墳群、同左岸の馬渡古墳群<sup>まわり</sup>〈60〉等がある。これら古墳群に埴輪を供給していた馬渡埴輪製作遺跡は、5世紀後半から6世紀代に操業していたものである。

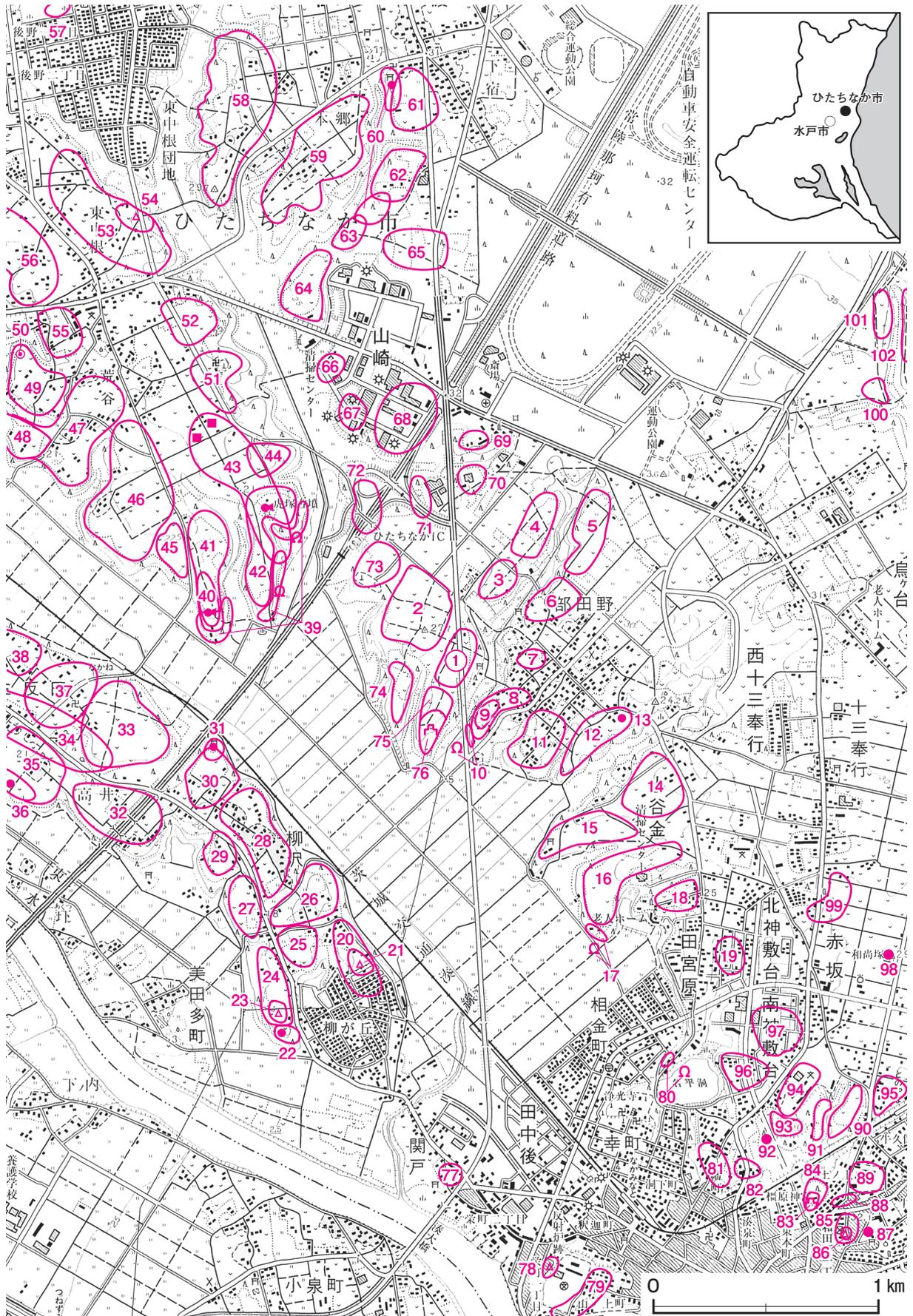
律令期には、市域の大部分は那賀郡に属し、部田野地区は幡田郷に比定されている。東中根遺跡群では、8～10世紀の竪穴建物跡と版築状遺構が確認されている<sup>6)</sup>。那珂川左岸の三反田下高井遺跡では8～10世紀の竪穴建物跡が確認され、円面硯、風字硯、緑釉陶器、緑釉緑彩文陶器、灰釉陶器、帯金具等が出土している<sup>7)</sup>。墓域としては、中丸川左岸の新堤横穴群<sup>にいづみ</sup>〈17〉、同左岸の部田野横穴群〈10〉、本郷川右岸周辺の十五郎横穴群がある。十五郎横穴群は、4つの支群からなり、その総数は300基を超えると考えられている。このように、古墳時代から奈良・平安時代にかけての当地域は、遺跡数の増加が著しく、文化の盛行の様子がうかがわれる。

中世の遺跡は少ないが、那珂川左岸の新平館跡<sup>にいひら</sup>、中丸川左岸の中根城跡<sup>なかね</sup>〈48〉、本郷川右岸の大山館跡<sup>おおやま</sup>、同左岸の尼ヶ柵館跡<sup>あまがね</sup>〈76〉が知られており、いずれも台地突端部に位置している。

※ 文中の〈 〉内の番号は、第2図及び表1の当該番号と同じである。なお、本章は、既刊の『茨城県教育財団調査報告』第354集を改編したものである。

註

- 1) 茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査 那珂湊』茨城県 1991年3月
- 2) 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図(地名編・地図編)』茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 榎村宣行「一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 差洪遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第103集 1995年9月
- 4) ひたちなか市遺跡調査会『東中根遺跡群発掘調査報告書』2002年3月
- 5) 田所則夫ほか「一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 三反田下高井遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第128集 1998年3月
- 6) 註4に同じ
- 7) 註5に同じ



第2図 宮後遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「ひたちなか」）

表1 宮後遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	宮後遺跡		○	○	○	○			52	中根北谷北遺跡		○	○	○	○		
2	部田野西原遺跡	○				○			53	君ヶ台遺跡	○	○	○	○	○		
3	石沢遺跡		○			○	○		54	君ヶ台貝塚		○					
4	北西原遺跡		○			○	○		55	野沢前遺跡			○				
5	西浦見遺跡		○			○	○		56	石光遺跡		○		○	○		
6	中浦見遺跡		○			○			57	後野遺跡	○	○					
7	宮前貝塚		○						58	本郷西遺跡			○	○	○		
8	上ノ内遺跡		○			○	○		59	本郷東遺跡			○	○	○		
9	上ノ内貝塚		○						60	馬渡古墳群				○			
10	部田野横穴群						○		61	西上宿南遺跡				○	○		
11	部田野西富士山遺跡		○	○		○	○		62	前原C遺跡				○	○		
12	部田野富士山遺跡		○	○		○	○		63	前原B遺跡			○	○	○		
13	部田野古墳群					○			64	前原A遺跡		○	○				
14	小谷金東遺跡		○	○		○	○		65	西並木下遺跡		○		○	○		
15	小谷金遺跡		○	○		○			66	山崎遺跡		○					
16	新堤遺跡		○	○					67	部田野山崎II遺跡		○	○				
17	新堤横穴群						○		68	部田野山崎I遺跡		○	○	○	○		
18	田宮原I遺跡		○	○					69	部田野猪II遺跡		○	○				
19	田宮原II遺跡		○	○					70	部田野猪I遺跡		○					
20	柳沢十二所遺跡	○	○	○		○	○		71	部田野猪III遺跡		○	○				
21	大田房貝塚		○	○					72	差渋遺跡		○	○				
22	道理山古墳群					○			73	鷹ノ巣遺跡		○	○	○	○		
23	道理山貝塚		○						74	釜神上遺跡			○	○			
24	道理山遺跡	○	○	○		○			75	尼ヶ砦遺跡		○	○	○			
25	寺脇遺跡		○	○		○			76	尼ヶ砦館跡							○
26	御所内I遺跡		○	○		○			77	峰ノ山遺跡		○					
27	御所内II遺跡			○	○	○			78	小川貝塚		○					
28	前方遺跡			○	○				79	北山ノ上遺跡	○	○	○	○			
29	鍛冶屋遺跡						○	○	80	館山横穴						○	
30	坂ノ上遺跡		○	○		○	○		81	八幡ノ上遺跡		○	○	○	○		
31	宮前古墳群					○			82	大部坂砂利山遺跡		○					
32	三反田下高井遺跡		○			○	○		83	富士ノ上館跡						○	
33	柳沢原山遺跡		○	○		○	○		84	富士ノ上I遺跡		○	○	○			
34	三反田古墳群					○			85	和田ノ上遺跡		○	○	○			
35	上高井遺跡		○			○	○		86	和田貝塚		○					
36	高井古墳群					○			87	和田ノ上古墳群				○			
37	天王前遺跡					○	○		88	富士ノ上貝塚		○					
38	三反田蜆塚貝塚		○						89	富士ノ上II遺跡			○				
39	十五郎穴横穴群					○	○		90	半分山遺跡		○	○	○	○		
40	笠谷古墳群					○			91	猪谷津遺跡		○					
41	館出遺跡		○	○		○	○		92	ほんぼり山古墳					○		
42	指渋遺跡		○	○		○	○		93	船窪遺跡	○	○	○	○	○		
43	虎塚古墳群					○			94	廻り目遺跡			○	○	○		
44	下原遺跡		○						95	浅井内遺跡				○	○		
45	笠谷遺跡		○	○					96	鍛冶屋窪遺跡		○	○	○	○		
46	大和田遺跡		○	○		○	○		97	神敷台遺跡			○	○	○		
47	東中根清水遺跡			○	○	○			98	和尚塚				○			
48	中根城跡							○	99	深茂内館跡							○
49	東中根堂山遺跡			○					100	谷坂沢遺跡		○		○	○		
50	福島藩士の墓								101	谷坂沢北遺跡		○		○	○		
51	北谷遺跡			○	○	○			102	上中丸遺跡		○		○			

# 第3章 調査の成果

## 第1節 調査の概要

宮後遺跡は、ひたちなか市の南東部に位置し、中丸川と本郷川の合流点の北東部、標高27～28mの南北に細長く延びる台地縁辺部に立地している。調査面積は1,864㎡で、調査前の現況は、畑地、宅地、雑種地である。

調査の結果、竪穴建物跡10棟（縄文時代1、古墳時代3、奈良・平安時代6）、掘立柱建物跡1棟（不明）、土坑5基（不明）、溝跡3条（不明）、ピット群2か所（不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に19箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、弥生土器（広口壺）、土師器（坏・高坏・甕・甑）、須恵器（坏・高台付坏・蓋）、土製品（土玉・支脚）、石器（剥片・打製石斧・磨製石斧・砥石）などである。

## 第2節 基本層序

調査区北部の台地上の平坦部（F2f9区）にテストピットを設定した。

第1層は畑地造成時の盛土層である。褐色を呈し、ロームブロックを中量含み、粘性・締まりともに弱い。層厚は30～40cmである。

第2層は褐色のソフトローム層である。粘性・締まりともに普通である。層厚は35～48cmである。

第3層は明褐色のソフトローム層である。鹿沼パミス粒子を少量含み、粘性・締まりはともに普通である。層厚は3～10cmである。

第4層は橙色のハードローム層である。鹿沼パミス粒子を中量含み、粘性は普通で、固く締まっている。層厚は4～25cmである。

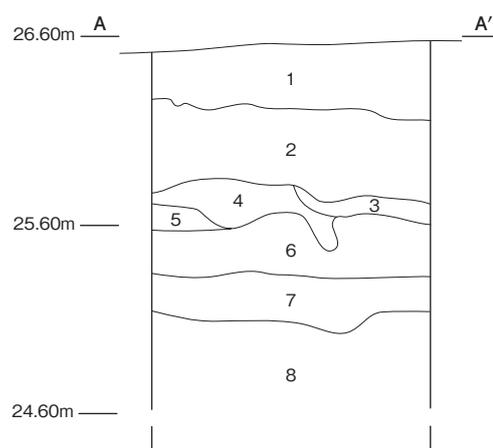
第5層は黄橙色の鹿沼軽石層である。粘性は弱く、締まりは普通である。層厚は2～13cmである。

第6層は褐色のハードローム層である。粘性は普通で、固く締まっている。層厚は15～34cmである。

第7層はにぶい褐色のハードローム層である。粘性は普通で、固く締まっている。層厚は18～30cmである。

第8層はにぶい褐色の粘土層への漸移層である。粘性は強く、固く締まっている。下層が未掘のため層厚は不明である。

遺構は、第2層の上面で確認した。



第3図 基本土層図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

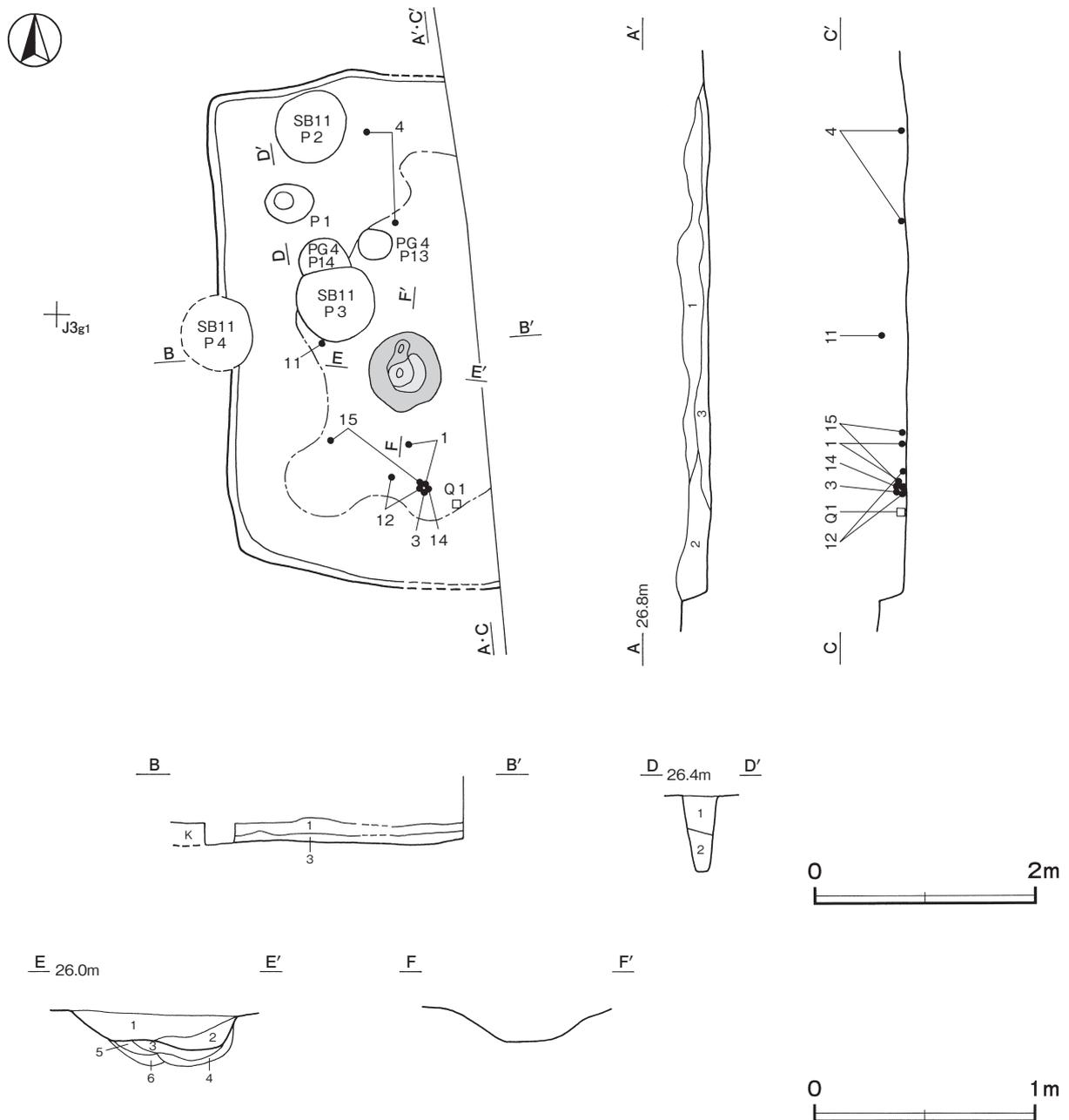
当時代の遺構は、竪穴建物跡1棟を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴建物跡

#### 第22号竪穴建物跡（第4～6図，PL 1）

位置 調査区南部（I区）のJ3fl区，標高27mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第11号掘立柱建物，第4号ピット群に掘り込まれている。



第4図 第22号竪穴建物跡実測図

**規模と形状** 東部が調査区域外へ延びているため、南北軸は4.72mで、東西軸2.26mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、南北軸方向はN-3°-Wと推定される。壁は高さ5~22cmで、外傾している。  
**床** ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

**炉** 中央部からやや南寄りに付設されている。長径75cm、短径67cmの楕円形で、床面を16cmほど掘りくぼめた地床炉である。第3~6層は、炉床の構築土である。

**炉土層解説**

- |                        |                |
|------------------------|----------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量   | 4 暗褐色 ローム粒子微量  |
| 2 暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 | 5 暗褐色 焼土粒子微量   |
| 3 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック多量 |

**ピット** 長径43cm、短径35cmの楕円形で、深さは78cmである。規模と配置から、支柱穴と考えられる。

**ピット土層解説**

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 2 黒褐色 ロームブロック少量 |
|-----------------|-----------------|

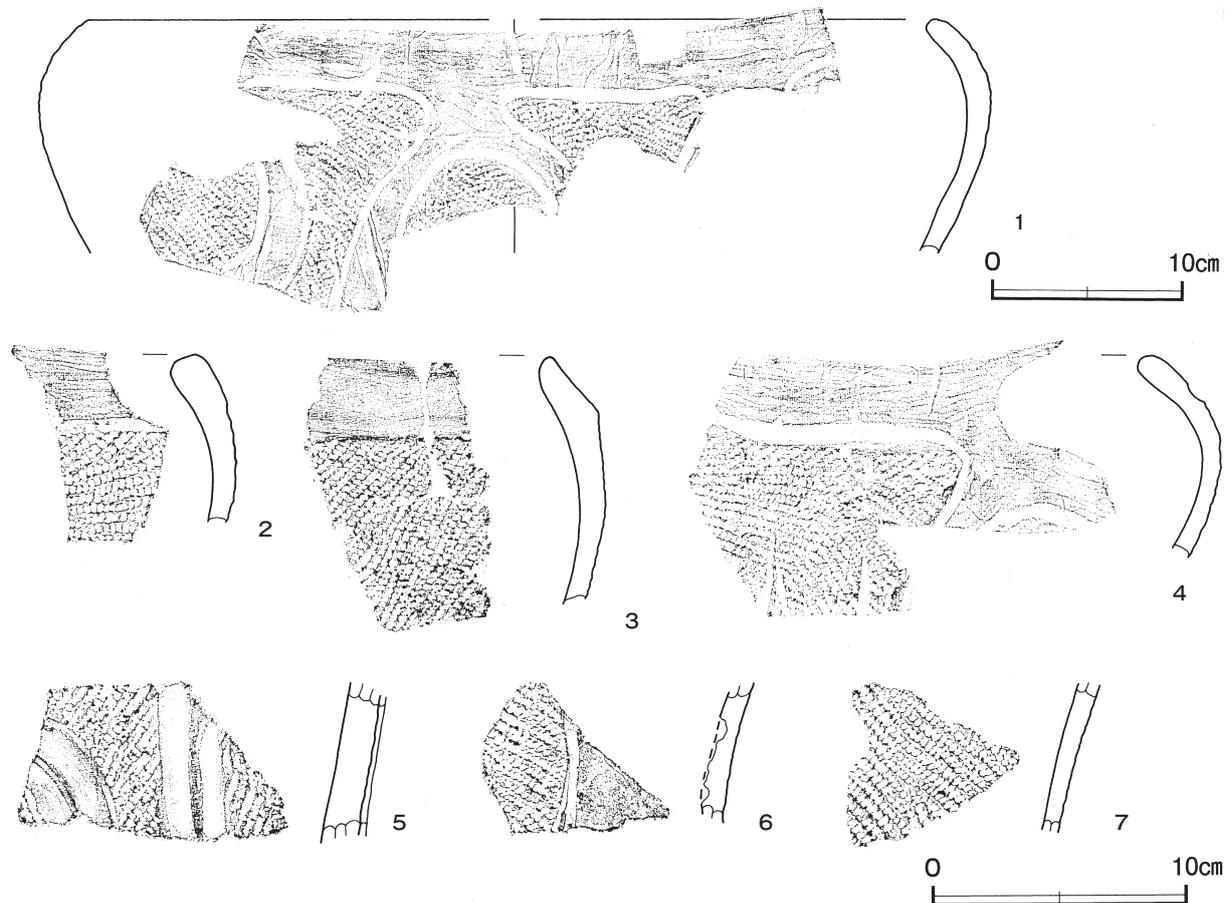
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

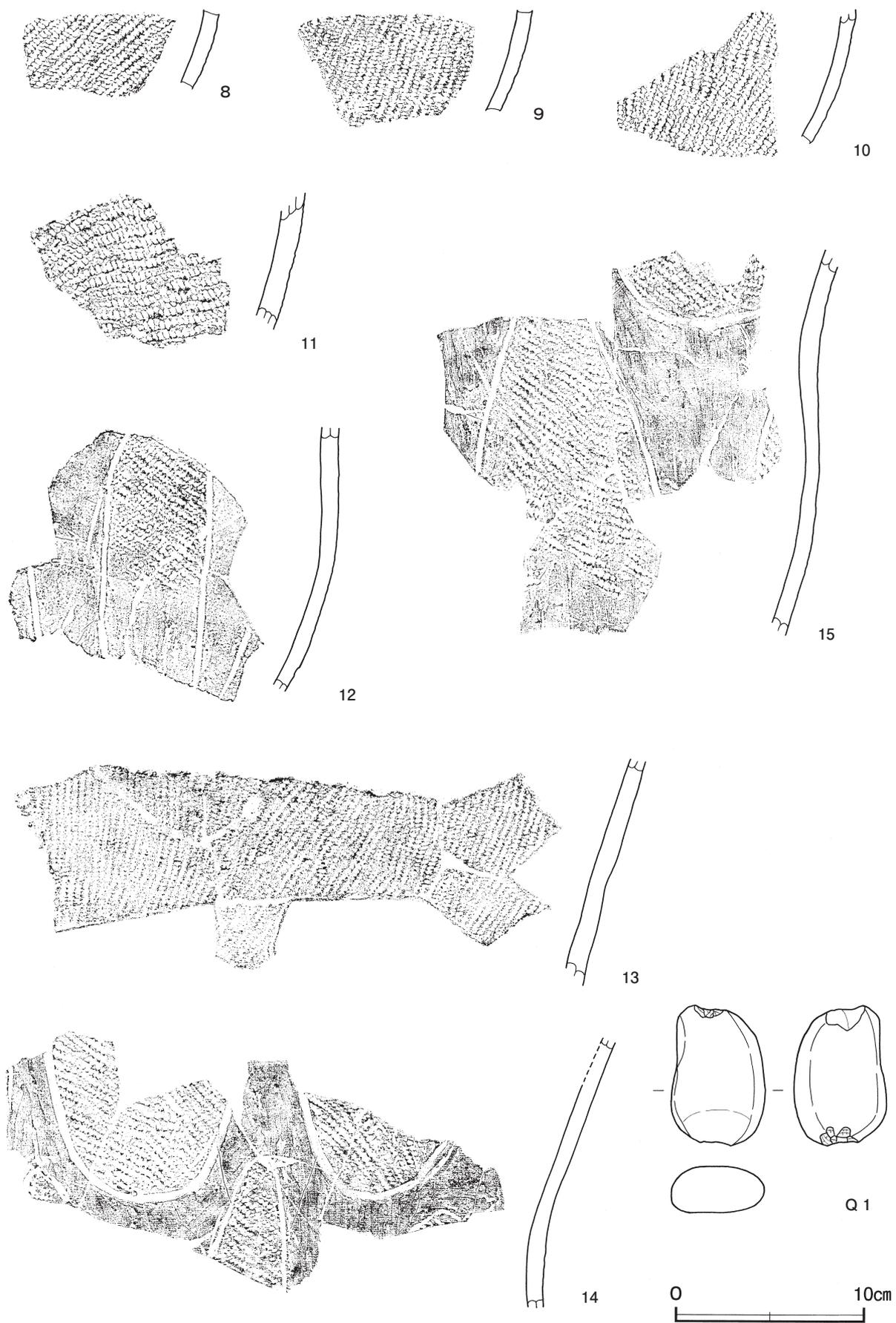
- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 |                 |

**遺物出土状況** 縄文土器片166点(深鉢),石器1点(石錘)のほか,土師器片4点(甕),須恵器片5点(坏),陶器片1点(碗)が出土している。1・3・12・14・15は床面から,4・Q1は覆土下層から,11は覆土上層から出土している。6は炉の覆土中から出土している。

**所見** 時期は,出土土器から中期末葉と考えられる。



第5図 第22号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第6图 第22号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 22 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 5・6 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[42.0]	(12.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線による区画内に単節縄文 LR を充填	床面	10% PL 8
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	横走する沈線の下に単節縄文 LR (横)	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部下に断面三角の隆帯が横走し、下位に単節縄文 RL (横)	床面	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線による区画内の単節縄文 LR (縦・横の回転)を残し、他は磨消	覆土下層	PL 8
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	低い隆帯の両側に幅広のなぞり 地文は単節縄文 RL (縦)	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	屈曲する沈線区画内の単節縄文 LR (縦)を残し、他は磨消	炉覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文 LR (縦)	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (縦)	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	単節縄文 RL (縦)	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文 LR (横)	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 RL (縦)	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線による区画内の単節縄文 LR (縦)を残し、他は磨消	床面	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	単節縄文 RL (縦)	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線による区画内の単節縄文 LR (縦)を残し、他は磨消	床面	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線による区画内の単節縄文 LR (縦)を残し、他は磨消	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石錘	7.6	5.0	2.5	131.0	砂岩	扁平な石の両端を打ち欠く	覆土下層	

## 2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 3 棟を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

### 竪穴建物跡

#### 第 18 号竪穴建物跡 (第 7～10 図, PL 1)

**位置** 調査区南西部 (H 区) の L 2 b6 区、標高 26 m ほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 西部が調査区域外へ延び、東部は道路建設時に削平されているため、南北軸は 8.40 m で、東西軸は 4.00 m しか確認できなかった。平面形は方形と推定され、主軸方向は N - 13° - W である。壁は高さ 34 ~ 55cm で、ほぼ直立している。

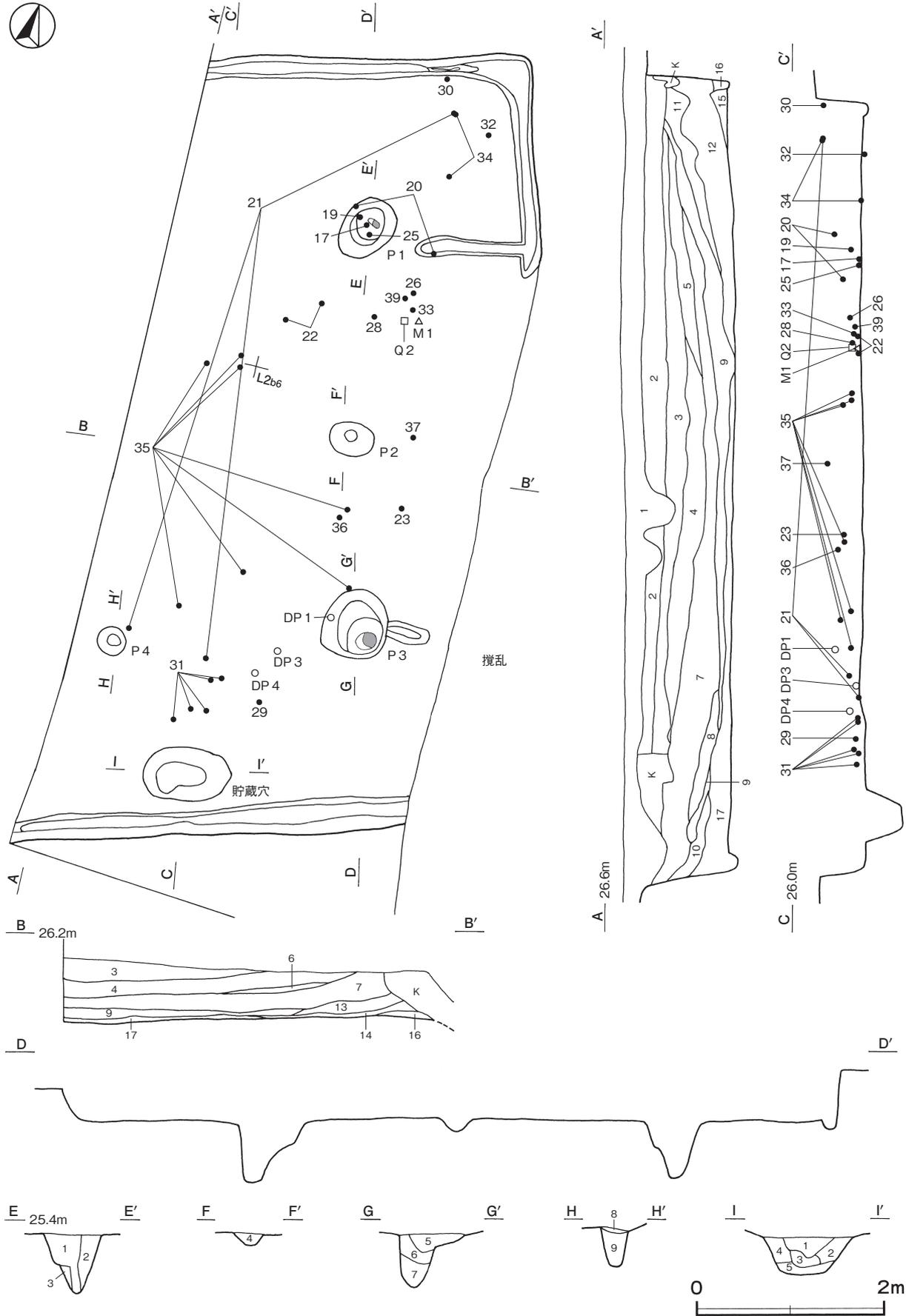
**床** 平坦な貼床で、全面が踏み固められている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。貼床は、北東コーナー部の東西 1.2 m、南北 1 m ほどの範囲を 5 ~ 25cm 掘り込み、黒色土混じりのロームで構築されている。床の硬化部分が全体に及んでいるので、構築時に隅々まで固められたと考えられる。東の壁下から P 1・P 3 に向かう、幅 14 ~ 21cm、深さ 7 ~ 9cm の間仕切り溝 2 条を確認した。

**竈** 西側土層面北端の下端部に、竈の袖部とみられる明褐色の粘土層を確認した。竈は、調査区域外にある北壁のほぼ中央に付設されていると考えられる。

**ピット** 4 か所。P 1・P 3 は深さ 63 ~ 67cm で、規模と配置から支柱穴である。いずれも柱の抜き取り痕が確認され、柱が抜き取られた後、ロームブロックを含む暗褐色土などで埋め戻されている。第 2 層は P 1 の埋土で、第 1・3 ~ 6 層が埋め戻された土層である。P 2・P 4 は補助柱穴と考えられる。

#### ピット土層解説

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 3 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量   | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |



第7図 第18号竖穴建物跡実測図

- |       |                          |       |         |
|-------|--------------------------|-------|---------|
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 黒色土ブロック・炭化材微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量                | 9 褐色  | ローム粒子中量 |
| 7 褐色  | ロームブロック多量                |       |         |

**貯蔵穴** 南壁下に位置している。長径 89cm, 短径 57cmの楕円形で, 深さは 45cmである。底面は皿状で, 壁は外傾している。覆土はロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

**貯蔵穴土層解説**

- |       |                   |       |           |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量   |
| 2 黒色  | ロームブロック中量         | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒色  | ローム粒子微量           |       |           |

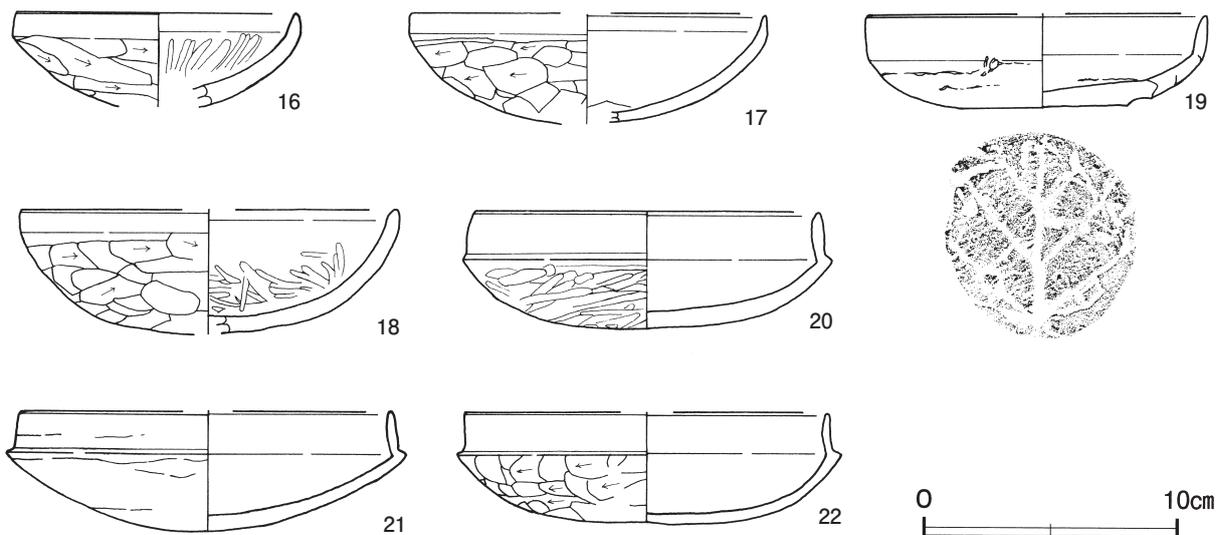
**覆土** 16層に分層できる。第8～13・17層は, ロームブロックや黒色土ブロック, 砂質粘土ブロックを複雑に含んでおり, 埋め戻されている。他はレンズ状の堆積をしており, 自然堆積である。建物の廃絶後, 周囲から埋め戻され, その後窪地が自然に埋まっていったと考えられる。

**土層解説**

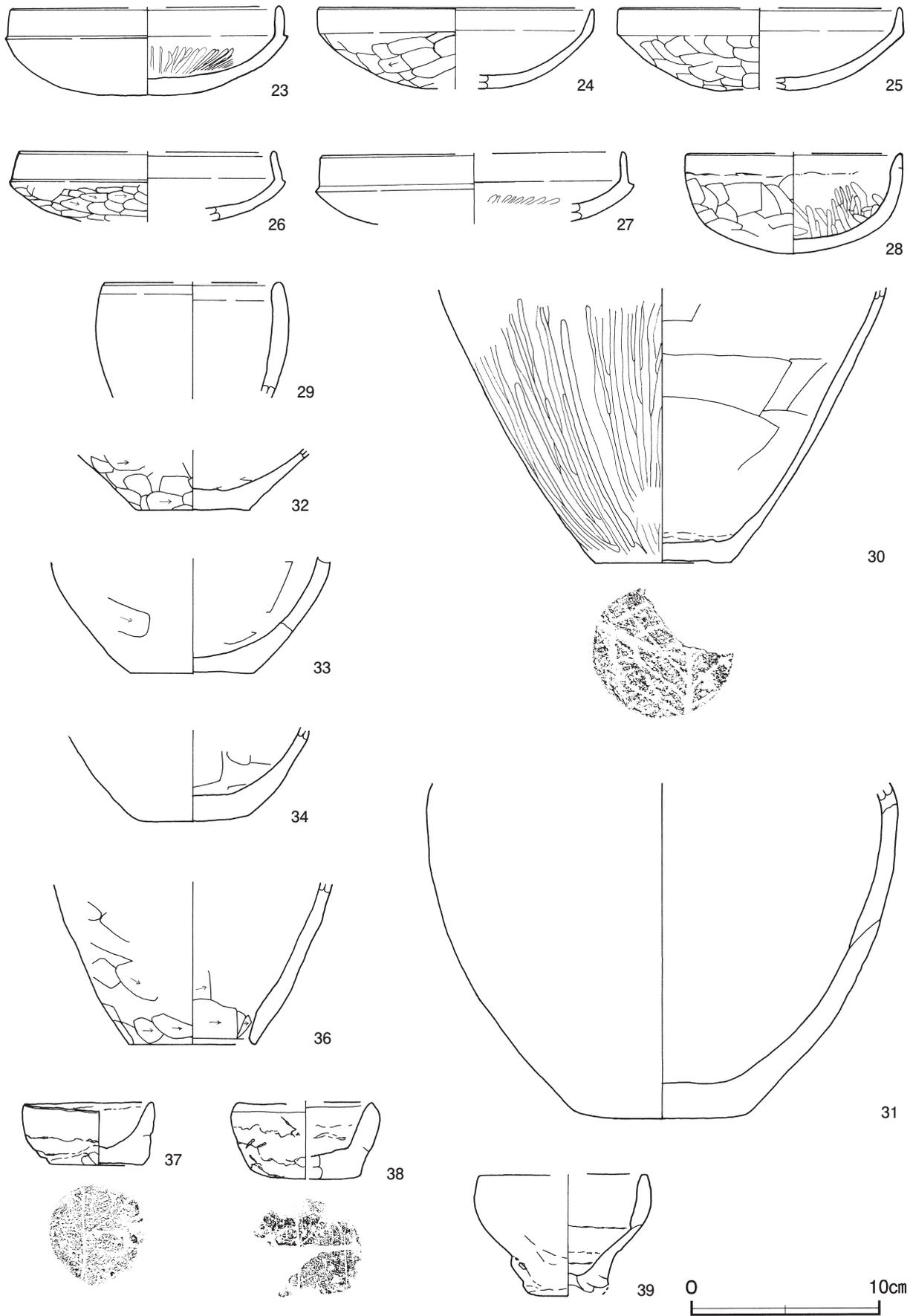
- |       |                           |        |                             |
|-------|---------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | 耕作土                       | 10 黒褐色 | ロームブロック中量, 黒色土ブロック少量        |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量              | 11 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・焼土粒子微量    |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量           | 12 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 黒色土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・黒色土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 13 黒色  | ロームブロック中量                   |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量           | 14 黒褐色 | ロームブロック中量                   |
| 6 黒褐色 | 炭化材少量, 焼土粒子微量             | 15 明褐色 | 粘土ブロック多量                    |
| 7 黒褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量          | 16 黒色  | ロームブロック・粘土ブロック中量            |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 黒色土粒子微量     | 17 黒色  | ローム粒子多量                     |
| 9 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化材微量          |        |                             |

**遺物出土状況** 縄文土器片 68点 (深鉢), 弥生土器片 90点 (広口壺), 土師器片 1848点 (坏 459, 碗 2, 高坏 57, 鉢 14, 甕 1263, 甌 50, 手捏土器 3), 須恵器片 8点 (坏 5, 甕 3), 土製品 5点 (土玉 1, 管状土錘 1, 支脚 2, 不明 1), 石器 8点 (磨石 2, 敲石 2, 凹石 2, 砥石 1, 浮子 1), 鉄製品 1点 (鍬カ) が, 覆土中や床面から散乱した状態で出土している。17・22・25・27・32・34は, 床面及び覆土下層から出土した破片が接合されたもので, 完存率は低い。21は広範囲に散乱した破片が接合されたものである。

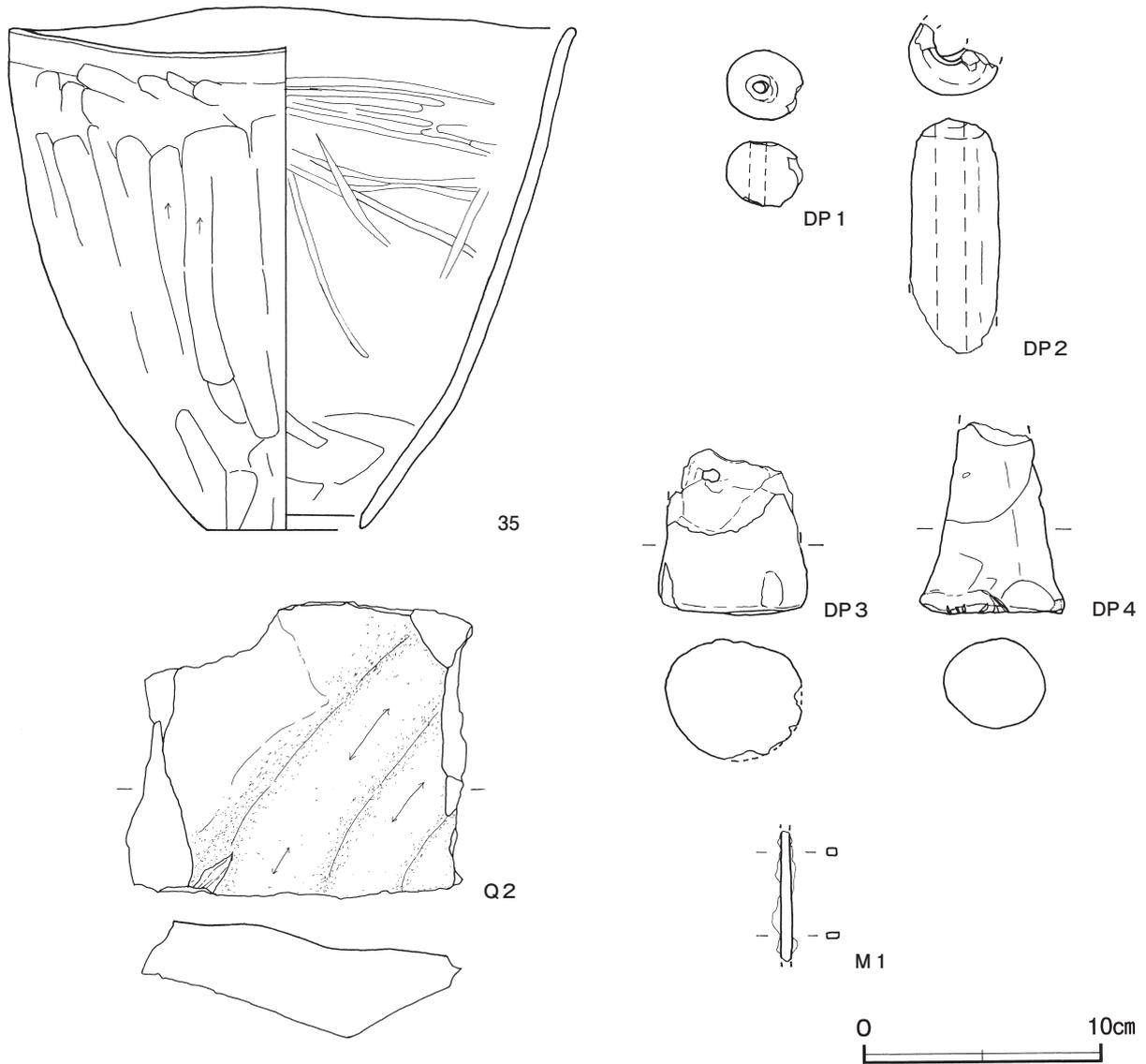
**所見** 時期は, 出土土器から 6世紀後葉に比定される。



第8図 第18号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第9图 第18号竖穴建物跡出土遺物実測图(2)



第 10 図 第 18 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)

第 18 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 8 ~ 10 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	土師器	坏	11.1	(3.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 底部内面放射状のヘラ磨き	P 3 覆土中	80% PL 6
17	土師器	坏	[14.0]	4.3	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 底部内面ナデ	覆土下層	20%
18	土師器	坏	[14.8]	4.9	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 底部内面多方向のヘラ磨き	覆土上層	30%
19	土師器	坏	[13.5]	3.7	6.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 外面ナデ 底部内面横ナデ 底部木葉痕 輪積痕が残る	覆土下層	80%
20	土師器	坏	13.6	4.7	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面・底部内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き	覆土中層	80% PL 6
21	土師器	坏	[14.6]	4.7	-	長石・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 底部内面ナデ	覆土下層	50% PL 6
22	土師器	坏	[14.4]	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面・底部内面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り	覆土下層	30%
23	土師器	坏	[14.2]	4.8	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 底部内面放射状ヘラ磨き	覆土中層	二次焼成 40%
24	土師器	坏	14.6	4.3	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 底部内面ナデ	覆土下層	二次焼成 50% PL 6
25	土師器	坏	[15.0]	4.4	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 底部内面ナデ	覆土下層	二次焼成 50%
26	土師器	坏	[13.6]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り	覆土下層	二次焼成 20%
27	土師器	坏	[16.0]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面放射状のヘラ磨き	覆土下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
28	土師器	椀	[11.4]	5.4	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横ナデ 内面横位ヘラナデ 体部内面ヘラ磨き 外面手持ちヘラ削り	覆土下層	二次焼成10%
29	土師器	椀	[9.2]	(6.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位ナデ 体部外・内面ナデ	覆土下層	二次焼成10%
30	土師器	甕	-	(14.7)	7.2	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面縦位ヘラ磨き 体部内面横位ヘラナデ 体部内面指ナデ 底部木葉痕	覆土上層	20%
31	土師器	甕	-	(18.1)	9.0	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面ナデ 内面横位ヘラナデ	覆土下層	二次焼成30% PL 7
32	土師器	甕	-	(3.3)	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	10%
33	土師器	甕	-	(6.2)	6.5	長石・石英・雲母・小礫	にぶい橙	普通	外面ナデ 一部手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土上層	10%
34	土師器	甕	-	(4.9)	6.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	二次焼成10%
35	土師器	甕	23.9	21.3	6.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ナデ後粗い横位・斜位のヘラ磨き 下端ヘラ削り 外面縦位のヘラ削り	覆土下層	70%
36	土師器	甕	-	(8.8)	[6.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ナデ後手持ちヘラ削り 内面ナデ 孔周辺ヘラ削り	覆土上層	10%
37	土師器	手捏土器	6.7	3.4	4.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 外・内面下半ナデ 底部木葉痕	覆土上層	90% PL 7
38	土師器	手捏土器	[7.0]	4.1	[5.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外面横ナデ 外・内面下半ナデ 底部木葉痕	覆土下層	30%
39	土師器	手捏土器	[8.6]	6.6	[4.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外・内面ナデ 底部の孔を焼成前に粘土で塞ぐ	覆土下層	60% PL 7

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土玉	3.2	(2.7)	0.7	(25.9)	長石・石英	にぶい橙	全面ナデ調整	覆土上層	PL 8
DP 2	管状土錘	3.7	9.9	(1.2)	(75.5)	長石・石英・雲母	にぶい橙	全面ナデ調整	P 3 覆土中	二次焼成

番号	器種	最大径	最小径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 3	支脚	6.3	(5.4)	(7.0)	(215.5)	長石・石英	にぶい橙	全面ナデ調整	覆土下層	
DP 4	支脚	6.1	3.2	(8.2)	(186.9)	長石・石英	にぶい橙	全面ナデ調整	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	砥石	(12.7)	(14.2)	(4.9)	(982.0)	砂岩	磨面中央に溝状の磨痕	覆土下層	PL 8

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	鎌カ	(5.6)	0.5	0.3~0.4	(3.8)	鉄	断面四角形 先端(?)は厚み減	覆土下層	

## 第19A号竪穴建物跡 (第11~13図, PL 2)

**位置** 調査区南西部 (H区) のK 2i5区, 標高26mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第19B号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 西部が調査区域外へ延びており, 南東隅は道路建設時に削平されているため, 南北軸は6.47mで, 東西軸は3.58mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形, 南北軸方向はN-16°-Wと推定される。壁は高さ20~30cmで, ほぼ直立している。確認できた壁下には, 幅18~22cm, 深さ5cmの壁溝が, 巡っている。東壁下から柱穴に向かって, 幅14~18cm, 深さ5~10cmの間仕切り溝4条を確認した。

### 間仕切り溝土層解説

- |                            |                         |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 黒色土ブロック・ローム粒子少量      | 4 黒褐色 ロームブロック・黒色土ブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック多量             | 5 黒褐色 黒色土ブロック・ローム粒子少量   |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量, 黒色土ブロック微量 |                         |

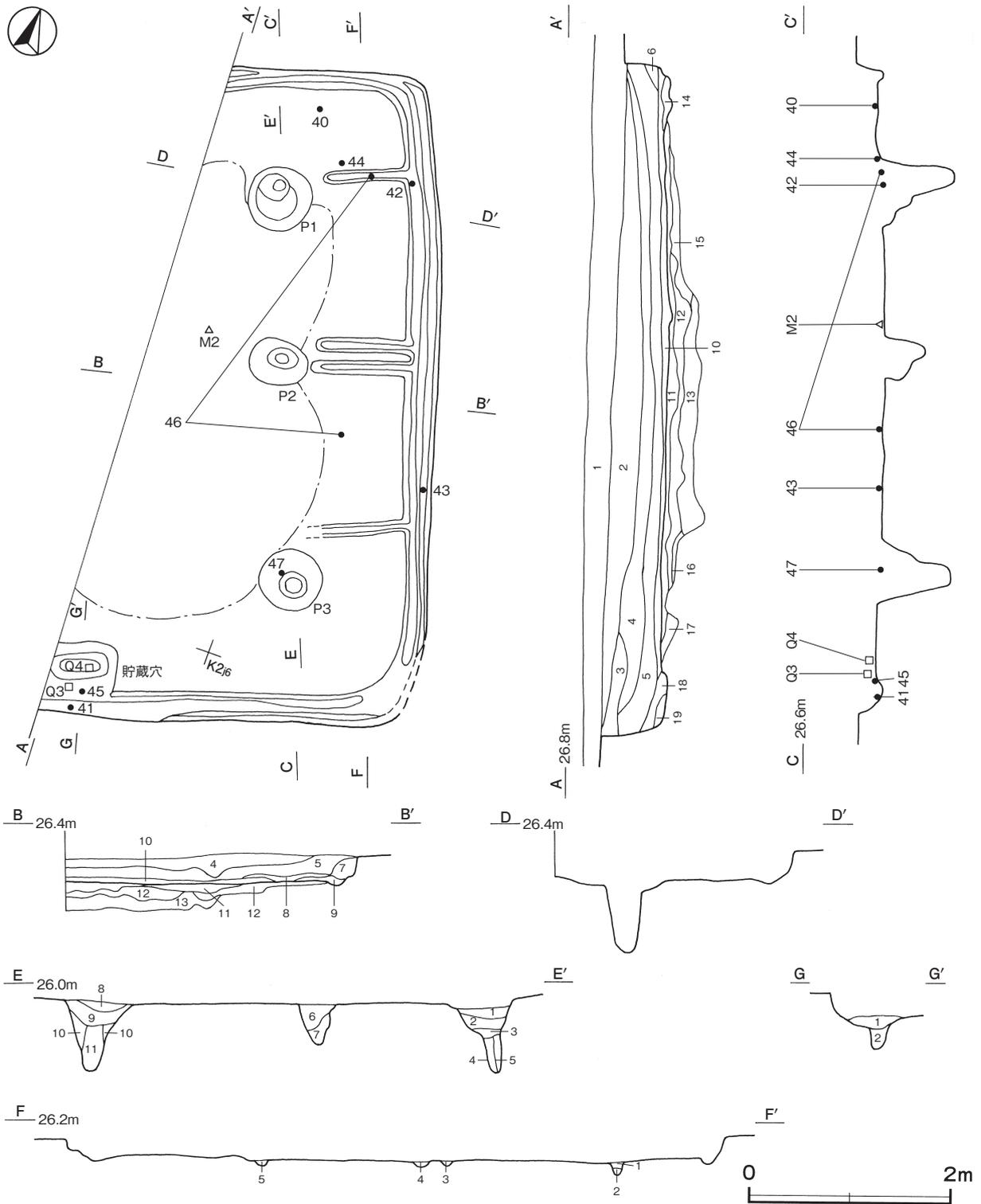
**床** 柱穴を結んだ内側がわずかに下がり, その部分を中心に踏み固められている貼床である。貼床は, 第19B号竪穴建物跡の床の中央部を深さ20cmほど掘り込んで中量のロームブロックを含む黒色土 (第12・13層) で埋め, 北側部分を67~83cm, 東側部分を72~85cm, 南側部分を138~140cm掘り広げてから多量のロームブロックを含む暗褐色土 (第11層) を埋土して構築されている。この建物跡は, 後に東側部分を14~16cm, 南側部分を8~12cm, 北側部分を12cmほど掘り広げ, さらに床の上に3~5cmの厚さでロームブロックを中量含む黒褐色土 (第10層) を敷均して新たな床を構築している。

**貯蔵穴** 南側壁下に付設されていた。長さは58cmまで確認したが、西側部分が調査区域外に延びており、全長は不明である。幅は26cm、深さは32cmである。

**貯蔵穴土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック少量、黒色土ブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

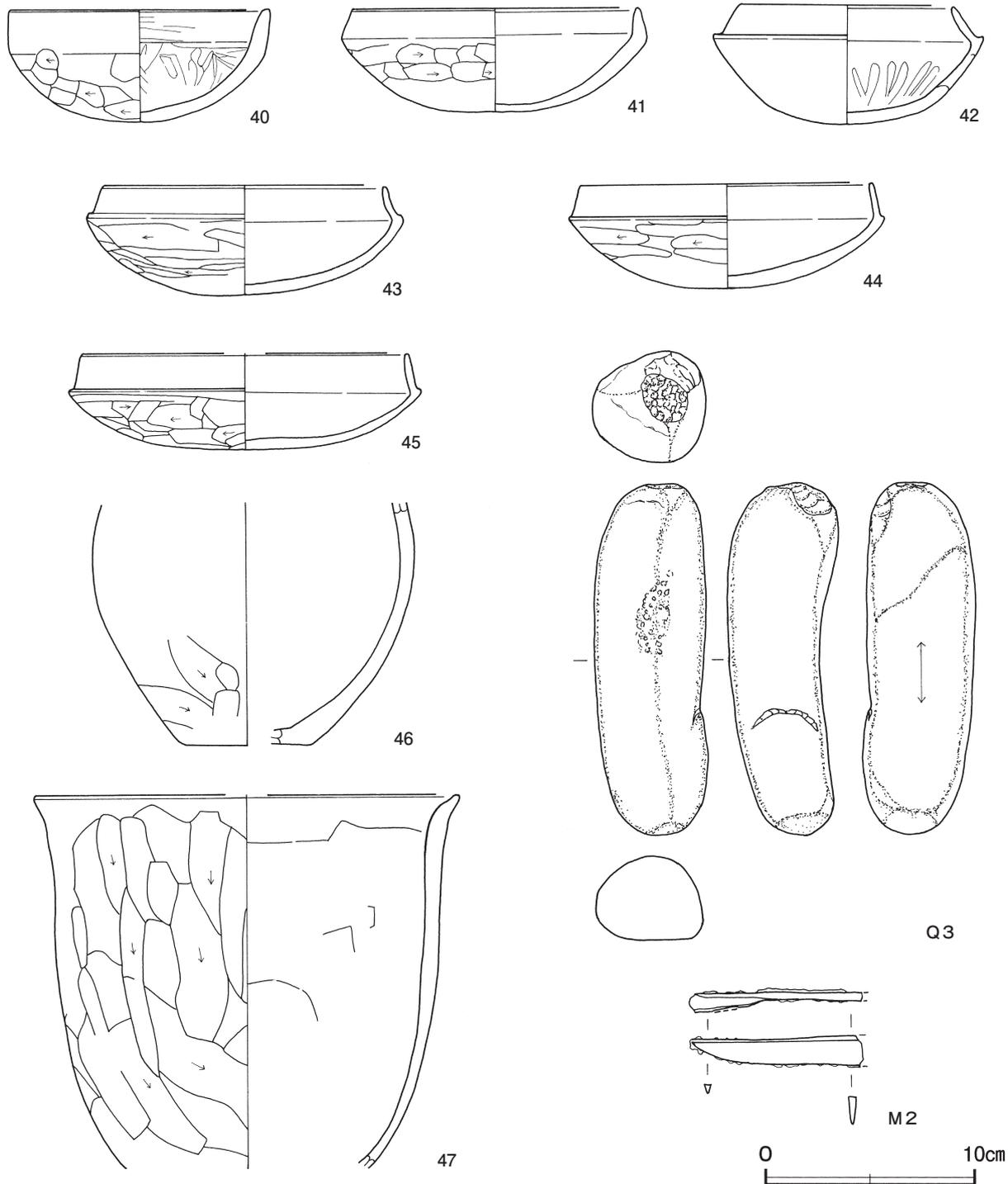


第11図 第19A号竪穴建物跡実測図

ピット 3か所。P 1・P 3は深さ 70cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 2は深さ 42cmで、補助柱穴と考えられる。P 1・P 3の覆土上層には多量の焼土が見られた。焼失前に柱が抜き取られたと考えられる。

ピット土層解説

- |                             |                                 |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化材中量, ローム粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック中量                 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化材微量   | 8 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化材少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量               | 9 極暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量           |
| 4 黒褐色 ローム粒子微量               | 10 極暗褐色 ロームブロック中量               |
| 5 褐色 ロームブロック中量              | 11 極暗褐色 ロームブロック少量               |
| 6 黒褐色 黒色土ブロック・ローム粒子少量       |                                 |



第 12 図 第 19A 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)

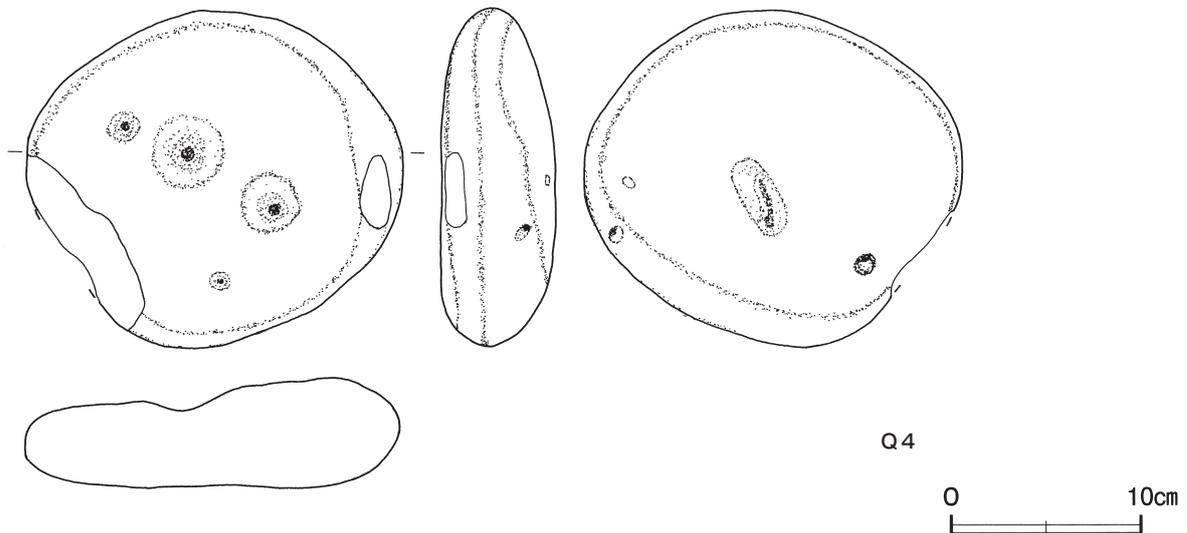
**覆土** 8層に分層できる。ロームブロックを含む層が堆積しており、人為堆積である。第5～8層には焼土が見られ、特に第5・8層は焼土の量が多かった。本跡は焼失家屋で、焼土は屋根に葺かれた土に由来すると考えられる。また、第5層には多量の炭化材が見られ、壁から建物の中央に向かって傾斜した状態で確認された。焼失の際には柱が抜き取られた後だったので、建物の壁や屋根の部材が支えを失い、建物の中央に向かって倒れた状態であったと判断される。北側壁下に砂質粘土ブロックを含む暗褐色土層が見られ、竈の近辺である可能性がある。

**第19A・B号竪穴建物跡土層解説**

- |                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 1 黒褐色 耕作土                             | 13 黒褐色 ロームブロック少量（第19A号竪穴建物跡の貼床構築土）          |
| 2 黒褐色 炭化材・ローム粒子・焼土粒子微量                | 14 暗褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量                     |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量                       | 15 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量                       |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量                | 16 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量                         |
| 5 黒褐色 焼土ブロック・炭化材多量、ローム粒子微量            | 17 褐色 ロームブロック中量、暗褐色土ブロック少量                  |
| 6 極暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量               | 18 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・白色粒子微量                  |
| 7 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量                     | 19 暗褐色 ロームブロック少量                            |
| 8 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子微量                  | 20 暗褐色 粘土ブロック多量                             |
| 9 極暗褐色 黒色土ブロック・ローム粒子少量                | 21 褐色 ローム粒子多量、黒色粒子微量                        |
| 10 黒褐色 ロームブロック中量（第19A号竪穴建物跡の新しい床）     | 22 褐色 ロームブロック中量                             |
| 11 暗褐色 ロームブロック多量（第19A号竪穴建物跡の初期の貼床構築土） | 23 褐色 ロームブロック多量、黒色土ブロック少量（第19B号竪穴建物跡の貼床構築土） |
| 12 暗褐色 ロームブロック中量（第19A号竪穴建物跡の初期の貼床構築土） |   |

**遺物出土状況** 土師器坏6点（40～45）、甕1点（46）、甌カ1点（47）、敲石1点（Q3）、凹石1点（Q4）、刀子1点（M2）が、焼土下位の床面から出土している。建物の焼失前に建物の内部に遺棄されたと考えられ、二次焼成を受けている。そのほか縄文土器片13点（深鉢）、弥生土器片6点（広口壺）、土師器片212点（坏92、高坏4、甕116）、須恵器片3点（盤）、石器1点（磨石）が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉に比定される。



**第13図** 第19A号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）

第19A号竪穴建物跡出土遺物観察表（第12・13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
40	土師器	坏	12.4	5.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ 口縁部内面横位の磨き 体部外面ヘラ削り 内面縦位の磨き	床面	二次焼成 98%
41	土師器	坏	13.6	5.0	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 体部内面ナデ	床面	二次焼成 90%
42	土師器	坏	10.2	5.7	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 体部内面放射状のヘラ磨き	床面	二次焼成 80% PL 6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
43	土師器	坏	13.4	5.3	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面削り後ナデ 体部内面横ナデ	床面	二次焼成 80% PL 6
44	土師器	坏	13.9	5.1	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面削り後ナデ 体部内面ナデ	床面	二次焼成 90%
45	土師器	坏	[15.6]	4.6	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面削り後ナデ 体部内面ナデ	床面	二次焼成 30%
46	土師器	甕	-	(11.7)	[6.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半ナデ 下半手持ちヘラ削り 内面ナデ	床面	二次焼成 20%
47	土師器	甕カ	[20.2]	(18.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位の削り 内面指ナデ及びヘラナデ	床面	二次焼成 20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 3	敲石	17.0	5.4	5.3	644.0	砂岩	両端及び一側面に敲打痕 1面を砥石として使用	覆土下層	
Q 4	凹石	18.0	19.9	6.2	(2686.0)	砂岩	表面に凹み4か所 裏面1か所	覆土下層	

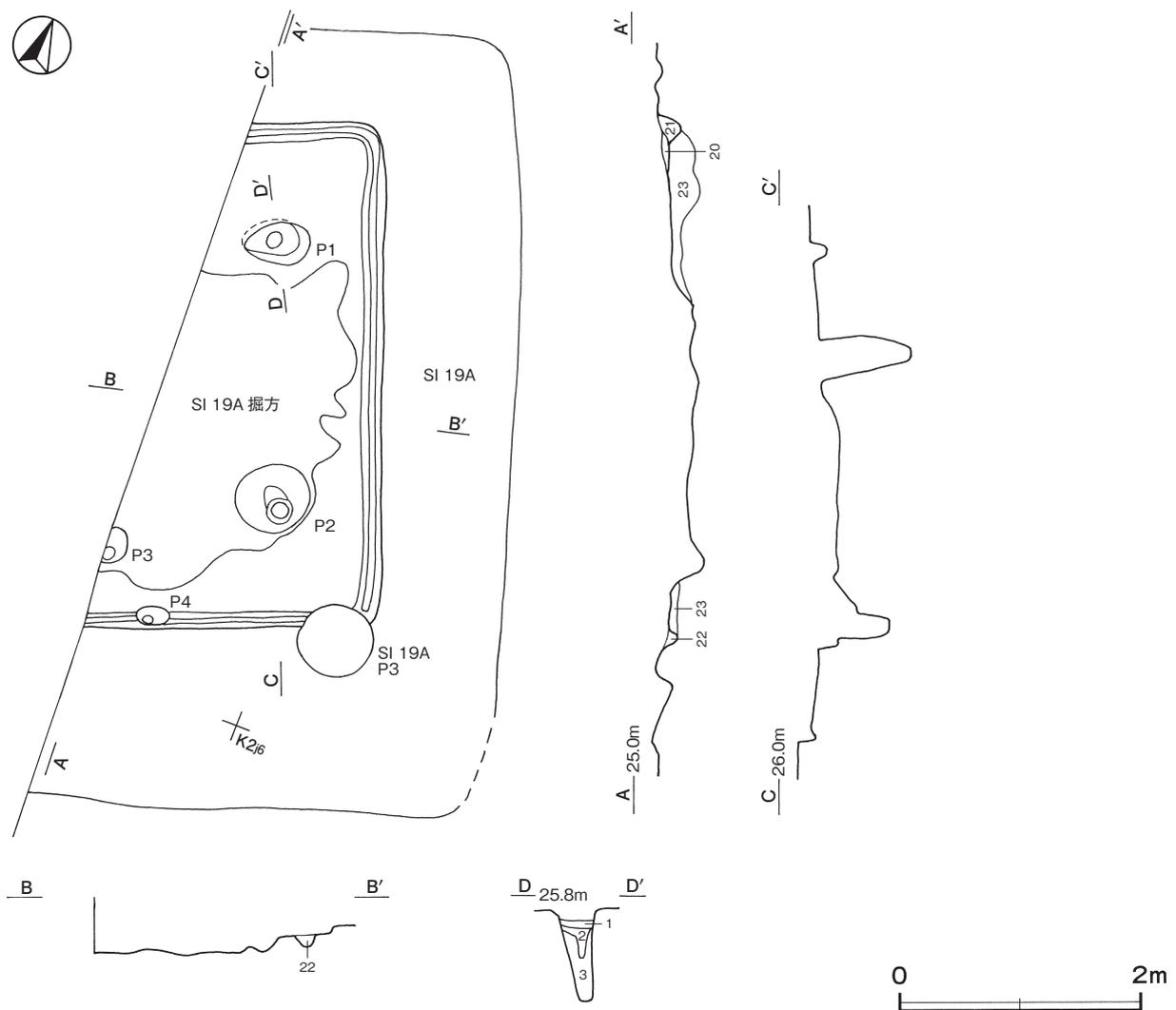
  

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	刀子	(8.0)	1.5	0.4~0.6	(13.9)	鉄	茎部欠損 刃部断面三角形	床面	

### 第19B号竪穴建物跡 (第14図, PL 2)

**位置** 調査区南西部 (H区) のK 2i5区, 標高26 mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第19A号竪穴建物に掘り込まれている。



第14図 第19B号竪穴建物跡実測図

**規模と形状** 西部が調査区域外へ延びており、南北軸は4.20 mで、東西軸は2.39 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、南北軸方向はN - 16° - Wと推定される。壁は、第19A号竪穴建物跡を構築する際に全体が掘り込まれていることから、3～5 cmの高さしか確認できなかった。確認できた壁下には幅12～19 cm、深さ5～14 cmの壁溝が、巡っている。

**床** 中央部の大部分が第19A号竪穴建物跡構築時に掘り込まれており、壁溝に近い部分が確認されただけである。確認できた部分は平坦な貼床で、硬く踏み固められている。貼床は、多量のロームブロックと少量の黒色土ブロックが含まれた層（第23層）を、北側部分で8～30 cm、南側で10 cmほど埋土して構築されている。

**ピット** 4か所。P1・P2は、規模と配置から支柱穴と考えられる。P3は、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

**ピット土層解説**

- |        |                     |      |           |
|--------|---------------------|------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量             |      |           |

**覆土** 壁に近い位置の床面直上に確認された第20～22層だけである。第20層は、多量の砂質粘土を含む暗褐色土層で、近くに竈が構築されている可能性が高い。

**遺物出土状況** 覆土から、縄文土器片2点（深鉢）、土師器片36点（坏8、鉢20、甕8）が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

**所見** 第19A号竪穴建物跡より古く、時期はその直前の6世紀後半と考えられるが、出土土器が細片のため、詳細は不明である。

**第20号竪穴建物跡（第15～21図、PL3）**

**位置** 調査区南西部（H区）のK2f6区、標高26 mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 東半部は道路建設時に削平されているため、南北軸は7.08 mで、東西軸は4.80 mしか確認できなかった。平面形は方形と推定され、主軸方向はN - 20° - Wである。壁は高さ39～46 cmで、直立している。

**床** 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅11～22 cm、深さ3～5 cmの壁溝が、南北の壁下に確認されている。西の壁下から柱穴と建物の中央に向かう、幅18～26 cm、深さ9～11 cmの間仕切り溝3条を確認した。

**間仕切り溝土層解説**

- |       |           |       |         |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 2 黒褐色 | ローム粒子少量 |
|-------|-----------|-------|---------|

**竈** 北壁のほぼ中央に付設されていると推定できる。焚口から煙道部までは110 cmしか確認できなかった。燃焼部幅は39 cmである。火床面はロームで、火熱により赤変硬化しており、焼土の厚さは10 cmに達する。袖部は、地山を袖状に掘り残して基部とし、砂質粘土を含む第17～22層を積み上げて構築されている。火床部は、焚口側では床面と同じ高さであるが、奥に向かって緩やかに高くなる。煙道部は、ロームを壁外へ25 cm掘り込み、火床部から外傾している。

**竈土層解説**

- |       |                           |         |                          |
|-------|---------------------------|---------|--------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量       | 9 におい褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量             |
| 2 灰褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量     | 10 灰褐色  | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量        |
| 3 灰褐色 | ローム粒子少量、砂質粘土ブロック・焼土粒子微量   | 11 灰褐色  | 砂質粘土ブロック中量、炭化粒子微量        |
| 4 灰褐色 | 砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 12 極暗褐色 | 砂質粘土ブロック微量               |
| 5 灰褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子微量             | 13 灰褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 6 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量         | 14 灰褐色  | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量          |
| 7 灰褐色 | 焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量           | 15 暗褐色  | 砂質粘土粒子中量、炭化物・ローム粒子微量     |
| 8 灰褐色 | ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量          | 16 赤褐色  | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子中量        |

- 17 褐色 砂質粘土ブロック多量
- 18 赤褐色 焼土ブロック多量
- 19 暗褐色 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子少量

- 20 褐色 砂質粘土ブロック多量
- 21 褐色 砂質粘土ブロック中量
- 22 暗褐色 砂質粘土ブロック多量

ピット 2か所。P 1は深さ54cm, P 2は深さ49cmで, 規模と配置から支柱穴である。いずれも柱は抜き取られ, 埋め戻されている。

ピット1土層解説

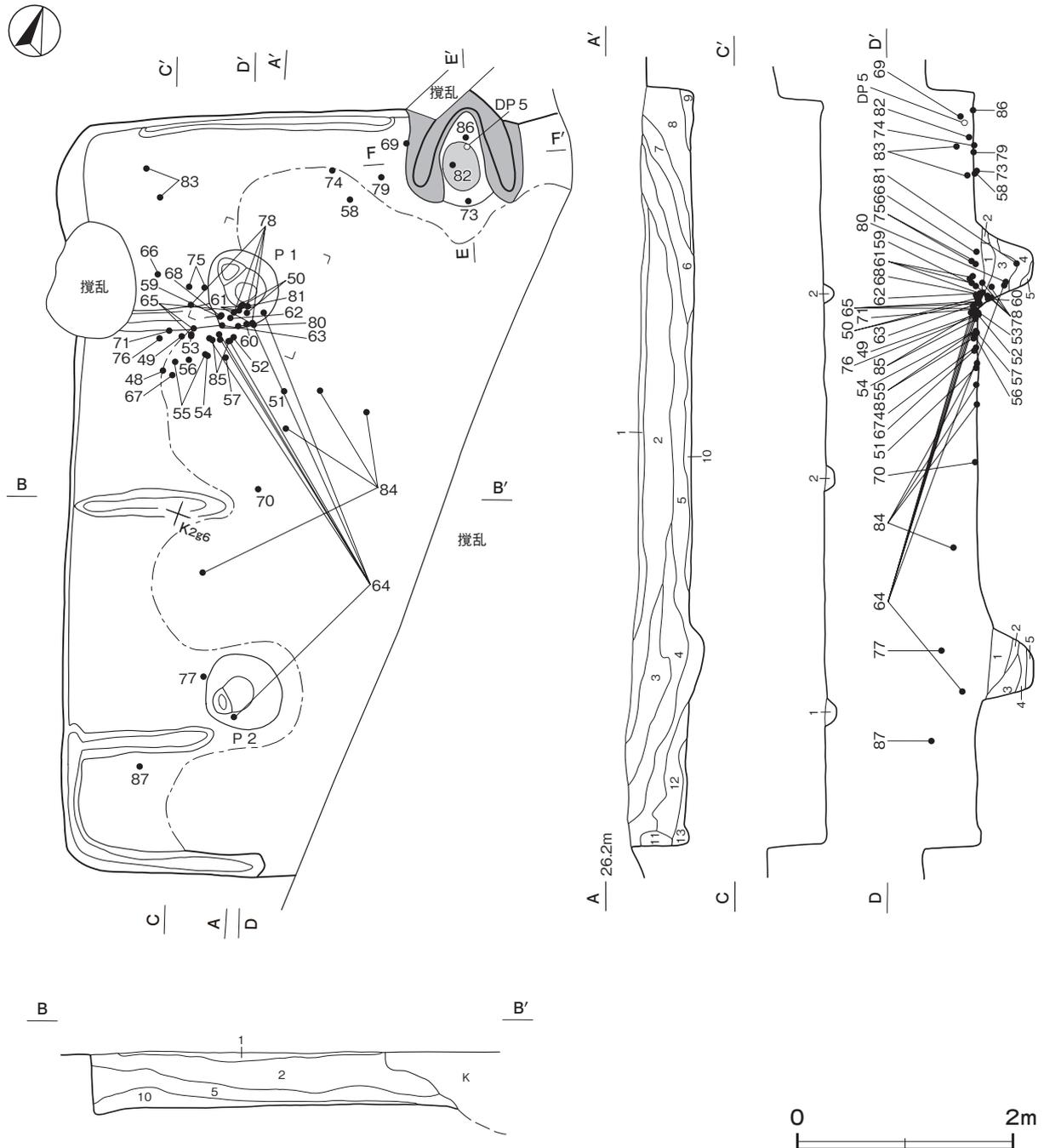
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ロームブロック多量

ピット2土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量



第15図 第20号竪穴建物跡実測図(1)

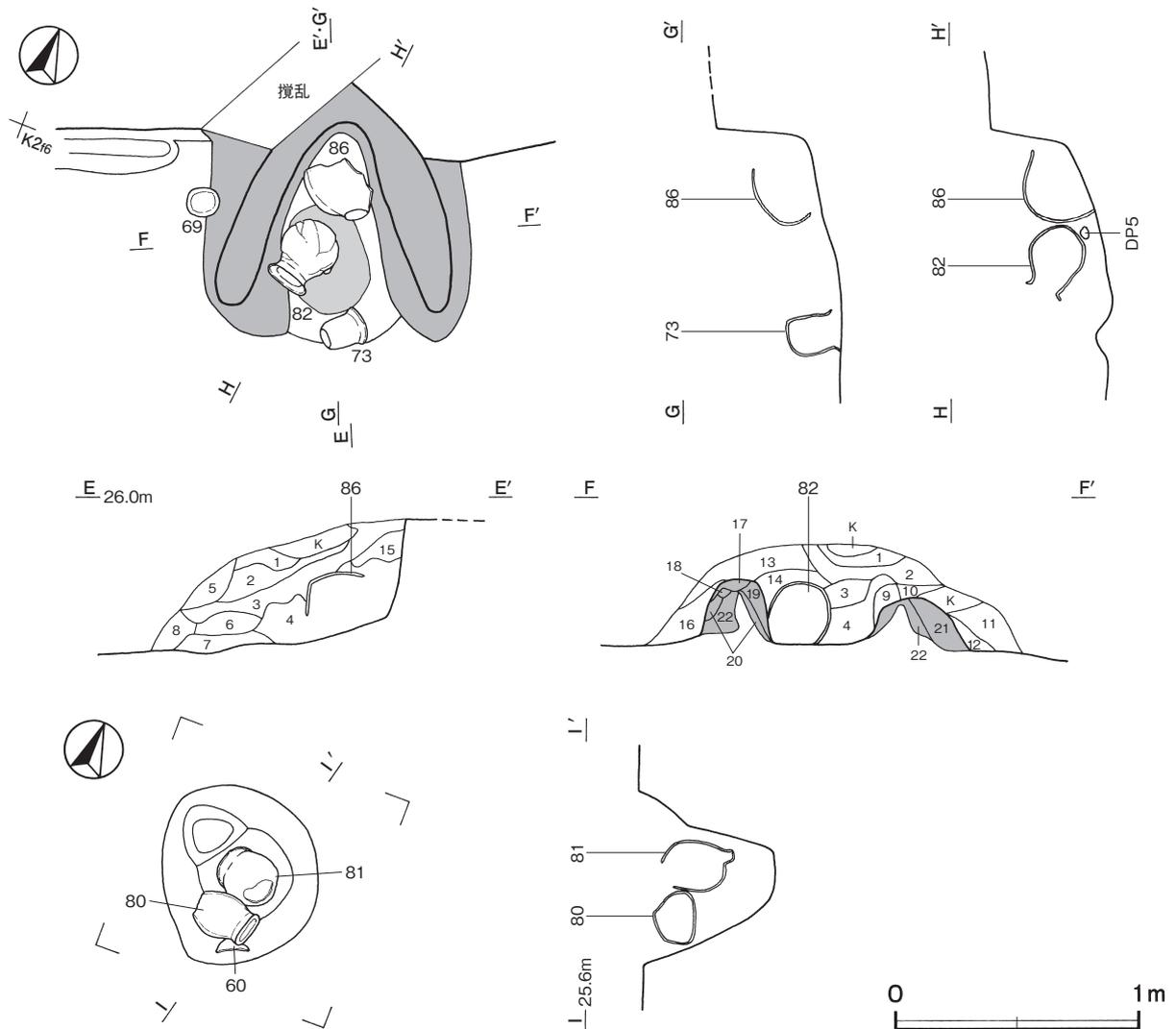
**覆土** 13層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、第5層以下は人為堆積で、建物の周囲から埋め戻されたものと判断される。第1～4層は自然堆積である。

**土層解説**

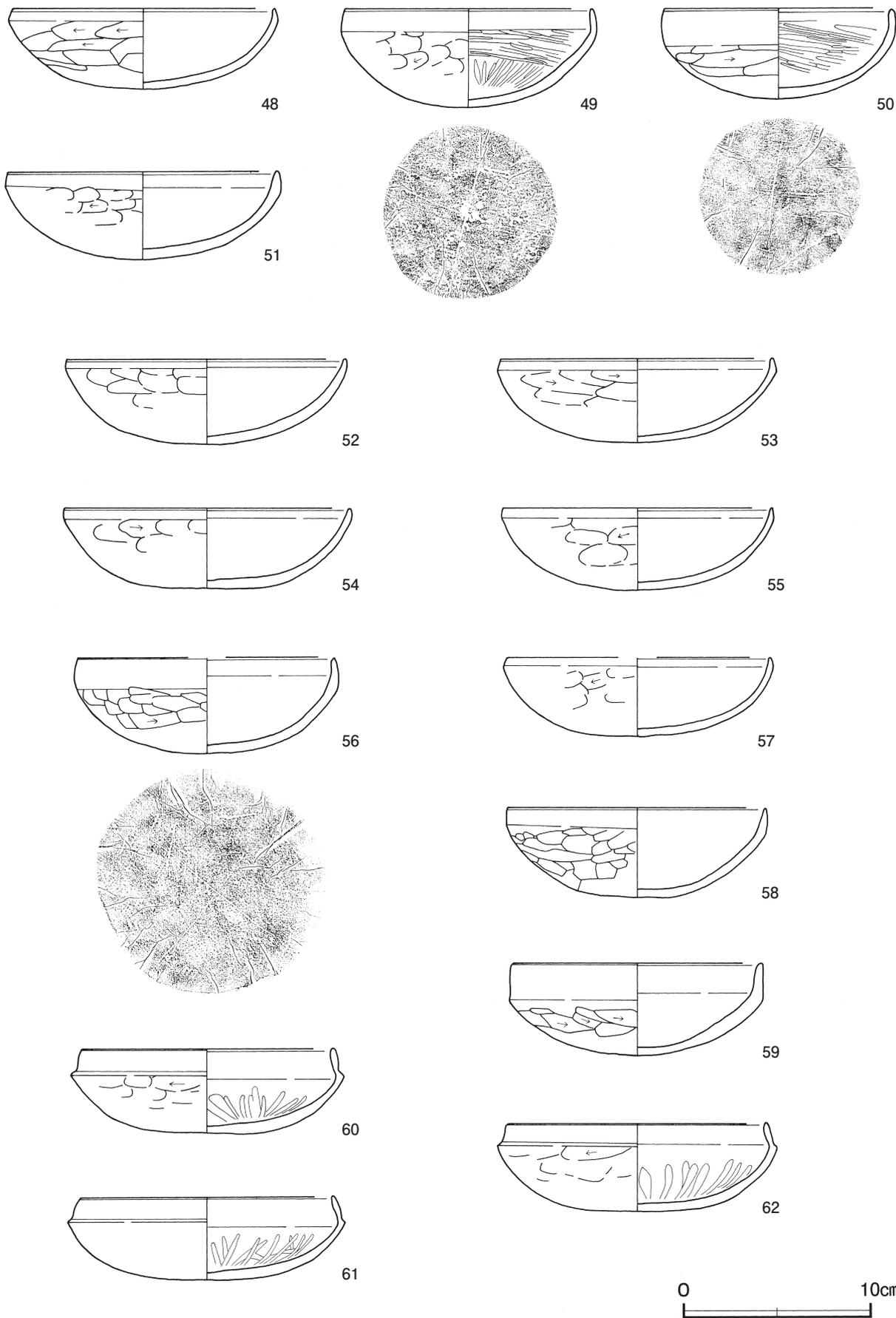
- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量             | 8 暗褐色 ロームブロック中量  |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量     | 9 黒褐色 ロームブロック微量  |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量             | 10 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 極暗褐色 ローム粒子微量            | 11 黒褐色 ローム粒子微量   |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 12 褐色 ロームブロック少量  |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量             | 13 暗褐色 ローム粒子微量   |
| 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量        |                  |

**遺物出土状況** 土師器片 549 点 (坏 87, 碗 5, 高坏 1, 鉢 16, 小形壺 1, 甕 439), 土製品 1 点 (支脚) のほか、縄文土器片 40 点 (深鉢), 弥生土器片 1 点 (広口壺), 須恵器片 9 点 (坏 7, 盤 2), 軽石 1 点 が出土している。ほぼ完形の 60・80 及び底部穿孔された 81 (甌に転用カ) は P 1 の覆土中から出土している。81 の中には 72 が入れられていた。竈内部からは、完形の 82 が正位で、73 が逆位で、半割された 86 が煙道寄りに伏せられた状態で出土している。69 は左袖の外側から、逆位で出土している。

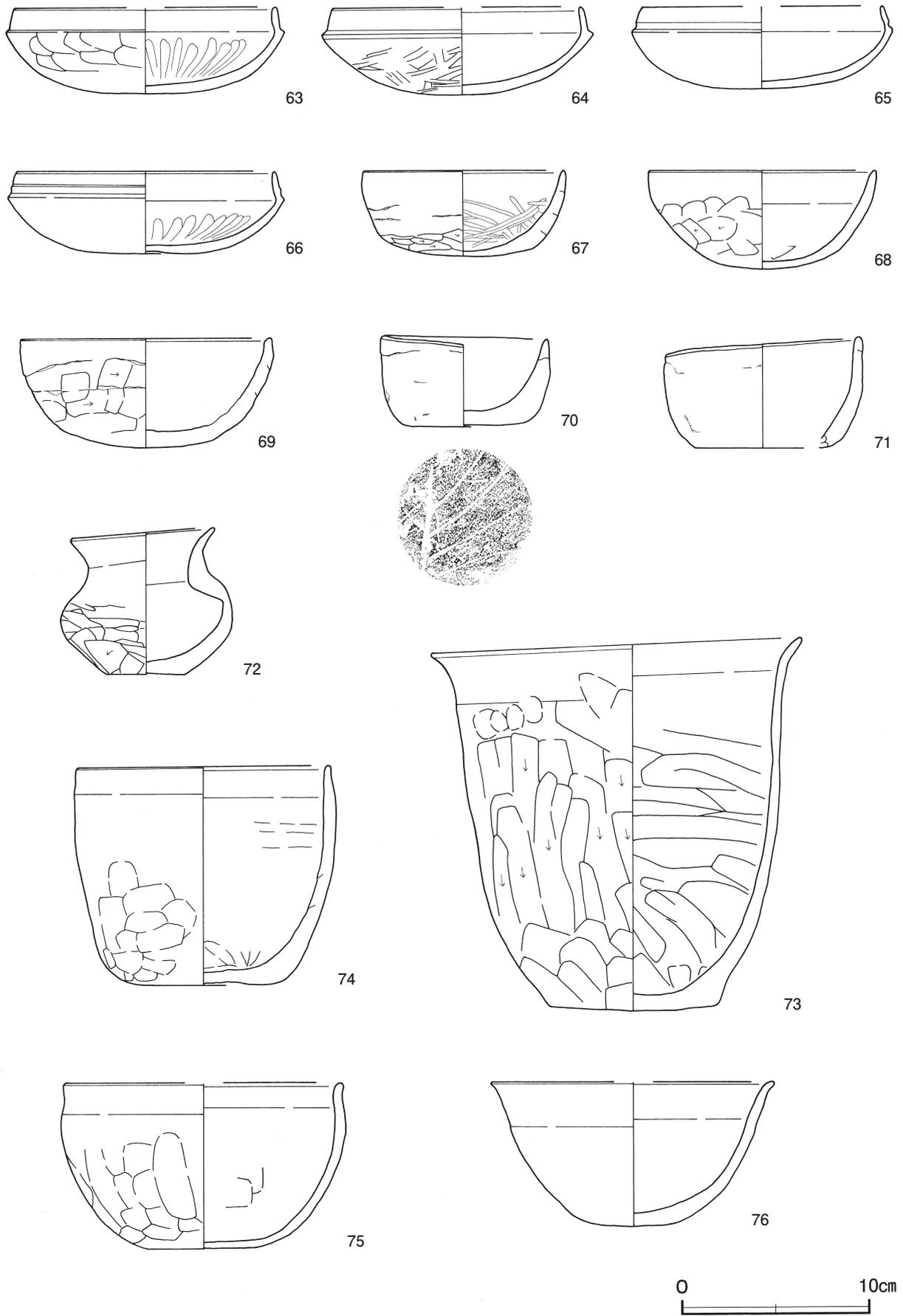
**所見** 時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定される。



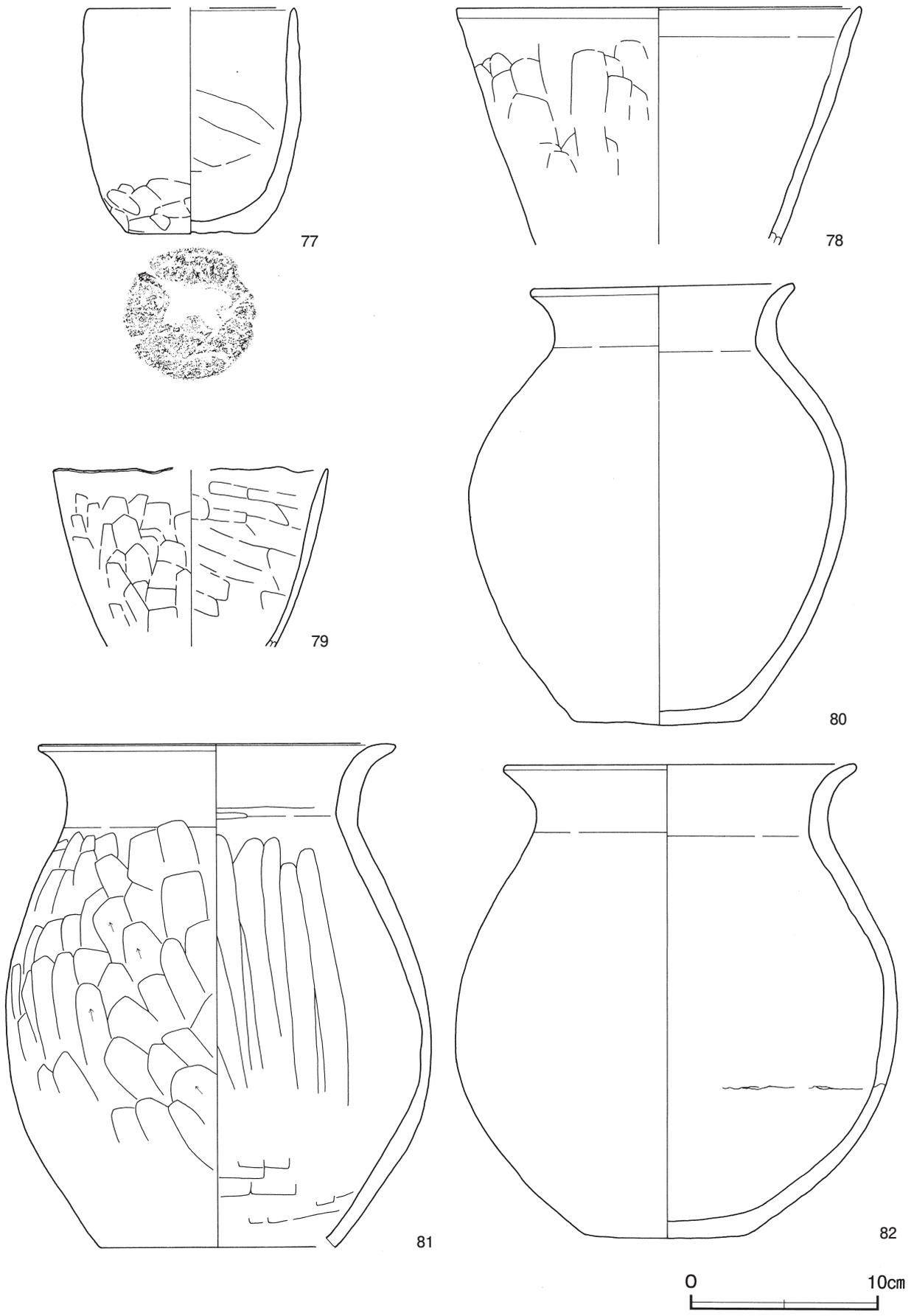
第 16 図 第 20 号竪穴建物跡実測図 (2)



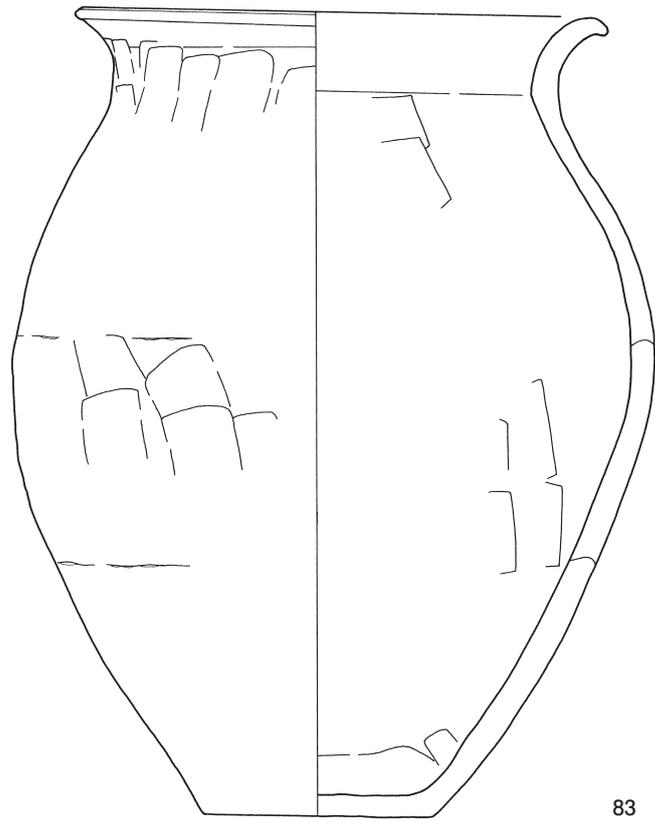
第 17 图 第 20 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



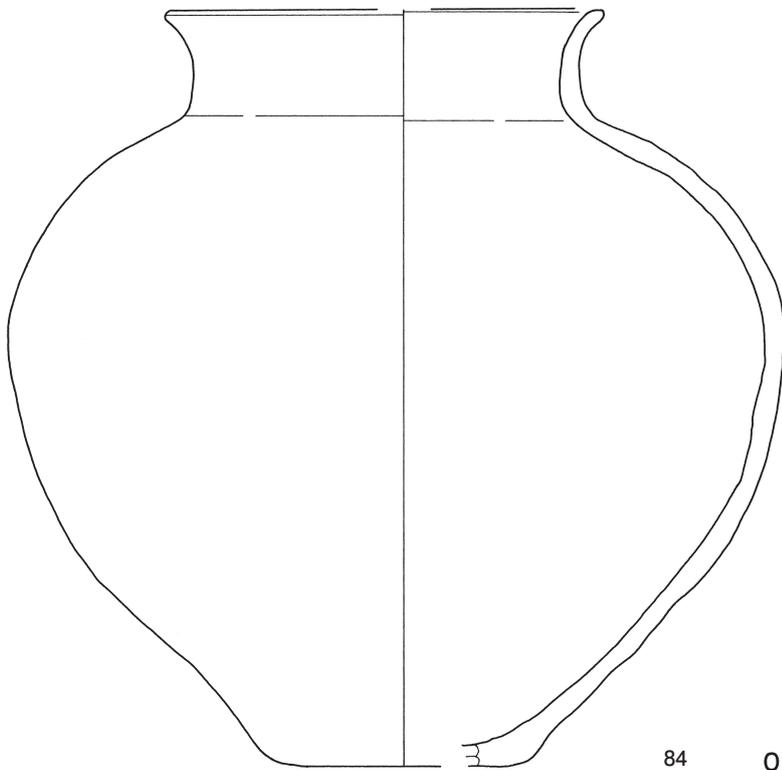
第 18 図 第 20 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第19図 第20号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)



83



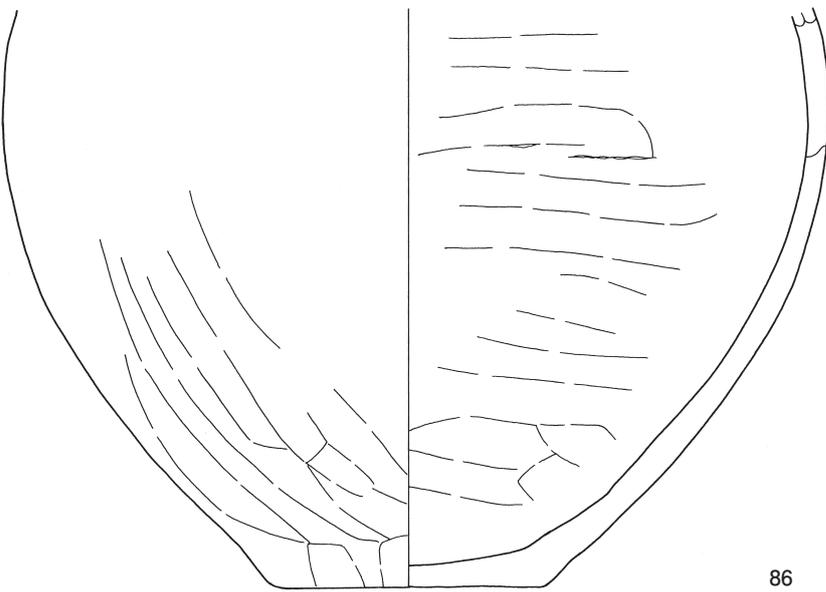
84



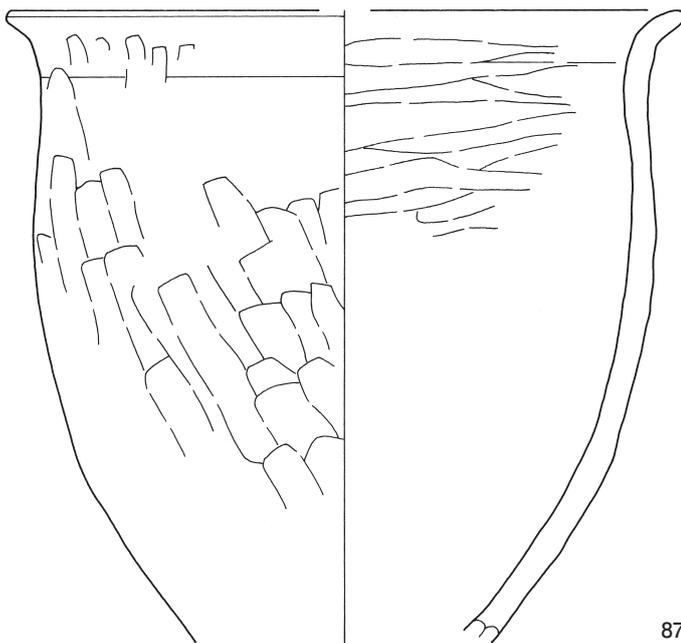
第 20 図 第 20 号 豎穴建物跡出土遺物実測図 (4)



85



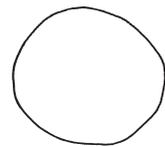
86



87



DP5



第21図 第20号竖穴建物跡出土遺物実測図(5)

第 20 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 17 ~ 21 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
48	土師器	坏	14.0	4.3	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	二次焼成 95%
49	土師器	坏	13.1	5.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面ヘラ磨き 体部外面ヘラ削り後ナデ 底部ヘラ記号	覆土下層	二次焼成 90%
50	土師器	坏	12.3	4.9	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面ヘラ磨き 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面黒色処理 底部ヘラ記号	覆土下層	90% PL 6
51	土師器	坏	14.5	4.8	-	長石・石英・雲母	赤橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面ナデ 体部外面手持ちヘラ削り後ナデ	覆土下層	二次焼成 90%
52	土師器	坏	14.9	4.6	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面ナデ 体部外面手持ちヘラ削り後ナデ	覆土下層	二次焼成 80% PL 6
53	土師器	坏	14.5	4.5	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面ナデ 体部外面手持ちヘラ削り後ナデ	覆土下層	二次焼成 90% PL 6
54	土師器	坏	15.3	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面ナデ 体部外面手持ちヘラ削り後ナデ	覆土下層	80% PL 6
55	土師器	坏	14.3	4.4	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	70%
56	土師器	坏	[13.6]	5.2	-	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面ナデ 体部外面手持ちヘラ削り後ナデ 底部ヘラ記号	覆土下層	50%
57	土師器	坏	[14.0]	4.3	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	二次焼成 50%
58	土師器	坏	13.8	4.8	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 底部ヘラ記号	覆土下層	二次焼成 50%
59	土師器	坏	13.3	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤	普通	口縁部外・内面・底部内面上半横ナデ 底部内面下半ナデ 体部外面手持ちヘラ削り後ナデ	覆土下層	二次焼成 90% PL 6
60	土師器	坏	13.4	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面放射状のヘラ磨き 体部外面ヘラ削り後ナデ 外・内面黒色処理	P1 覆土中	二次焼成 90%
61	土師器	坏	13.6	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面放射状のヘラ磨き 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面黒色処理	覆土下層	90% PL 6
62	土師器	坏	13.8	4.7	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面放射状のヘラ磨き 体部外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	二次焼成 90% PL 6
63	土師器	坏	14.0	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面放射状のヘラ磨き 体部外面手持ちヘラ削り後ナデ	覆土下層	70% PL 6
64	土師器	坏	[13.1]	4.8	-	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部・底部内面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り後ナデ	覆土下層	60%
65	土師器	坏	[12.8]	4.4	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 底部内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面黒色処理	覆土下層	60%
66	土師器	坏	13.7	4.4	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 底部内面放射状のヘラ磨き 外・内面黒色処理	覆土下層	60%
67	土師器	椀	10.8	4.7	8.3	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 体部内面ヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	覆土下層	95% PL 6
68	土師器	椀	12.2	5.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	覆土下層	80% PL 6
69	土師器	椀	13.4	5.9	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ	竈左袖外床面	二次焼成 90% PL 6
70	土師器	手捏土器	8.8	4.9	6.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外・内面横位ナデ 底部木葉痕	覆土下層	80% PL 6
71	土師器	手捏土器	10.2	6.0	7.0	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部上半外・内面横ナデ 外面下半ナデ	覆土下層	80%
72	土師器	小形壺	7.5	8.9	4.1	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面中位横位ヘラナデ 下半手持ちヘラ削り 体部内面ナデ	81 内	二次焼成 95% PL 6
73	土師器	鉢	19.6	20.2	9.0	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のナデ・ヘラ削り 体部内面上半横位のナデ 下半斜位のナデ・ヘラナデ	竈	90% PL 7
74	土師器	鉢	13.5	11.8	8.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面指ナデ 体部外面ヘラナデ	床面	二次焼成 70% PL 7
75	土師器	鉢	[14.8]	8.9	[5.6]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位ヘラナデ 体部内面横位ヘラナデ	覆土下層	二次焼成 40% PL 7
76	土師器	鉢	[15.3]	7.8	6.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土上層	40%
77	土師器	鉢	[11.1]	12.2	7.0	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	体部外・内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土上層	40%
78	土師器	鉢	21.6	(12.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位ヘラナデ 体部内面横位ヘラナデ	覆土下層	50% PL 7
79	土師器	鉢	[14.8]	(9.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面指ナデ 体部外面縦位ヘラナデ 体部内面横位ヘラナデ	床面	20%
80	土師器	甕	13.7	23.9	8.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部・頸部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	P1 覆土中	100% PL 7
81	土師器	甕	18.8	27.2	12.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 頸部内面横位ヘラナデ 体部外面縦位のナデ・ヘラ削り 体部内面縦位のナデ・ヘラナデ 底部穿孔後断面整形	P1 覆土中	90% PL 7 甕に転用か
82	土師器	甕	18.4	25.7	8.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部・頸部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 内面輪積部に入念な指ナデ	竈	90%
83	土師器	甕	20.2	32.4	9.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 頸部・体部外面縦位ヘラナデ 体部内面横位ヘラナデ 底部内面指ナデ	覆土上層	70%
84	土師器	甕	[17.0]	30.2	[10.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面磨減	覆土下層	70%
85	土師器	甕	[31.0]	(18.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面横位ヘラナデ 頸部外面縦位ヘラナデ	覆土下層	二次焼成 40% PL 7
86	土師器	甕	-	(23.1)	10.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	粘土紐巻き上げ 体部外面縦位のヘラナデ 体部内面横位のヘラナデ	竈	40%
87	土師器	甕カ	[25.8]	(25.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位ヘラナデ 体部内面横位ナデ	覆土下層	50%

番号	器種	最大径	最小径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 5	支脚	9.0	4.9	13.5	815.0	長石・石英	灰褐	全面ナデ調整	竈	二次焼成 PL 8

表2 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
18	L 2 b6	N - 13° - W	[方形]	8.40 × (4.00)	34 ~ 55	平坦	全周	2	-	2	-	1	人為 自然	土師器, 石器, 土製品	6世紀後葉	
19A	K 2 i5	N - 16° - W	[方形・ 長方形]	6.47 × (3.58)	20 ~ 30	貼床 平坦	全周	2	-	-	-	1	人為	土師器, 石器	6世紀後葉~ 7世紀前葉	19B → 本跡
19B	K 2 i5	N - 16° - W	[方形・ 長方形]	4.20 × (2.39)	3 ~ 5	貼床 平坦	全周	2	1	1	-	-	自然	土師器	6世紀後半	本跡 → 19A
20	K 2 f6	N - 20° - W	[方形]	7.08 × (4.80)	39 ~ 46	平坦	一部	2	-	-	-	-	人為 自然	土師器, 土製品	6世紀後葉	

### 3 奈良・平安時代の遺構と遺物

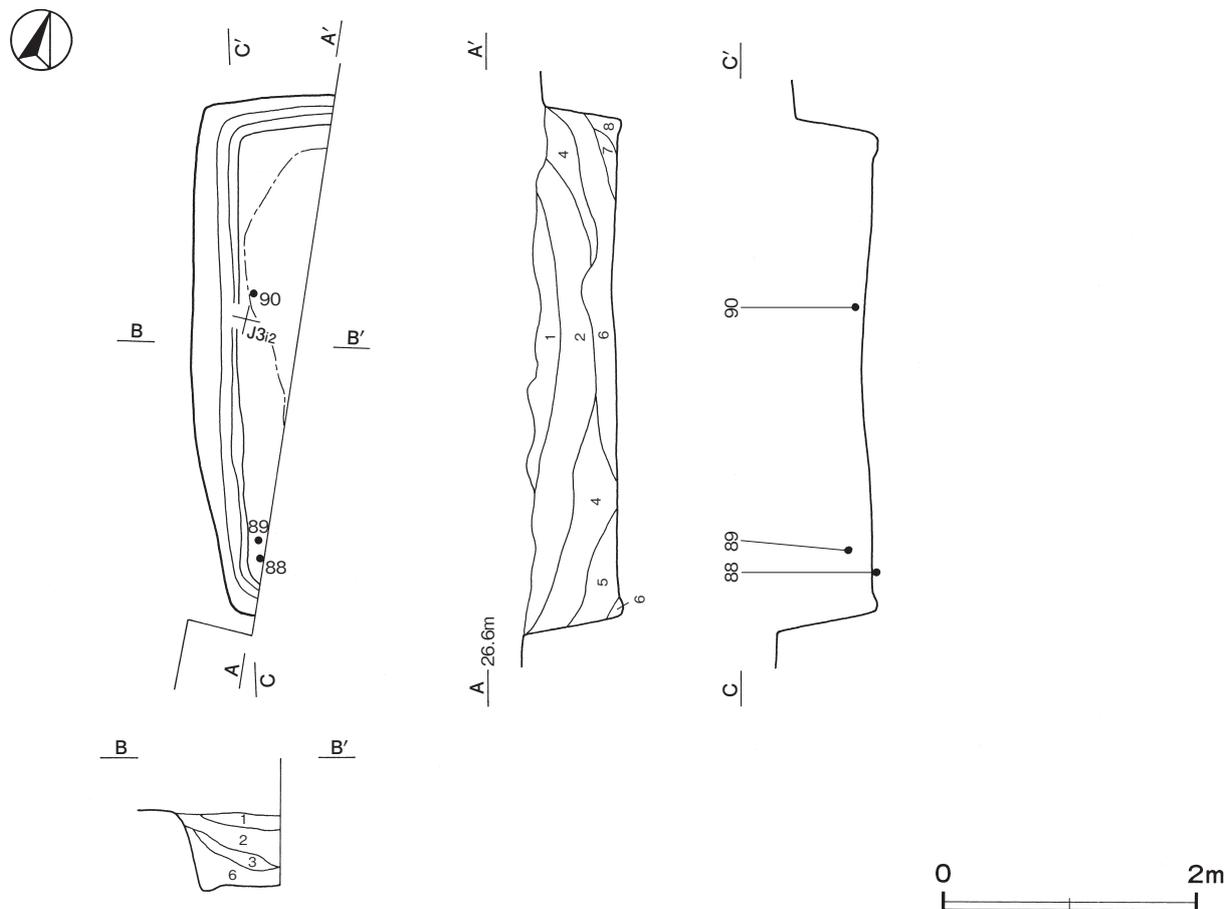
当時代の遺構は、竪穴建物跡6棟を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

#### 竪穴建物跡

#### 第21号竪穴建物跡（第22・23図，PL 4）

**位置** 調査区南東部（I区）のJ 3 h1区，標高27 mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 東部が調査区域外へ延びており，南北軸は4.09 m，東西軸は1.03 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で，南北軸方向はN - 15° - Wと推定される。壁は高さ56 ~ 75 cmで，ほぼ直立している。



第22図 第21号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、壁際から中央部側が踏み固められている。確認された壁下には、幅 20～35cm、深さ 4～6 cm の壁溝が巡っている。

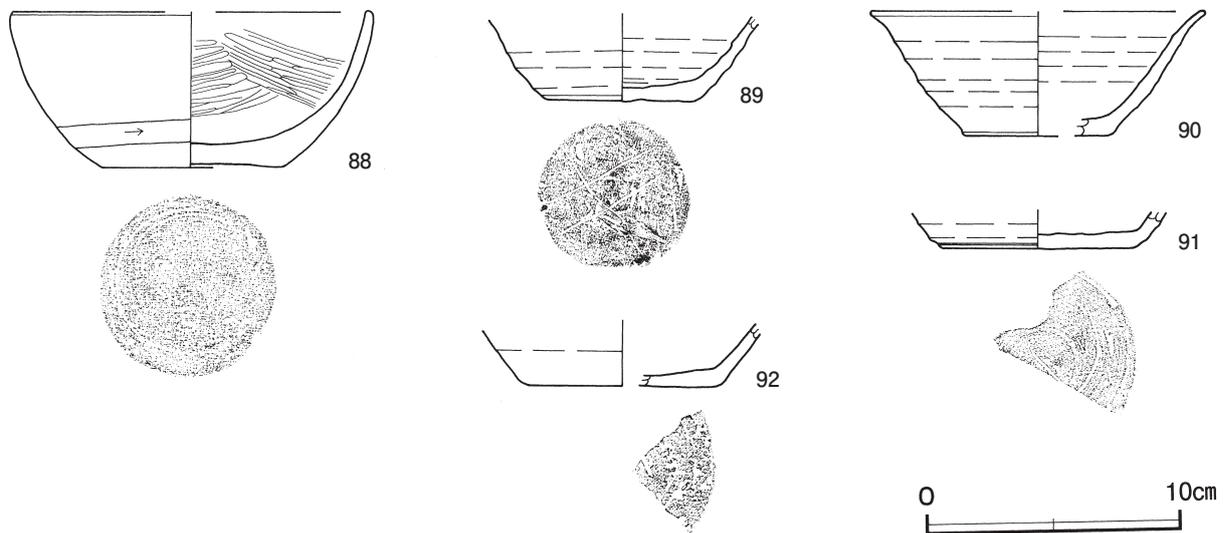
覆土 8層に分層できる。第1～3層は自然堆積で、第4～6層は、ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第7・8層は、廃絶後埋め戻されるまでに流れ込んだ層で、自然堆積である。

土層解説

- |       |           |       |                  |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量   | 5 黒褐色 | ロームブロック少量        |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量        |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量   | 7 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色  | ローム粒子多量、砂質粘土粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片 57点(坏6, 甕51), 須恵器片 11点(坏9, 甕2)のほか、縄文土器片 3点(深鉢), 石器 1点(砥石), 鉄滓 1点が出土している。88は南西隅近くの床面から、89・90は西壁下の覆土下層から、91・92は覆土中から、それぞれ投棄された状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 23 図 第 21 号 縦穴建物跡出土遺物実測図

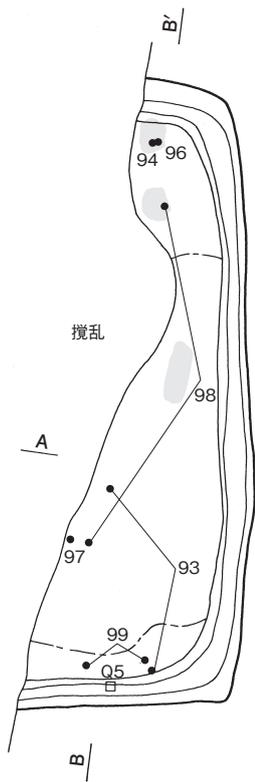
第 21 号 縦穴建物跡出土遺物観察表 (第 23 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
88	土師器	坏	[14.0]	6.2	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 体部内面ヘラ磨き 体部下端・底部右回りの回転ヘラ削り	床面	70% PL 6
89	須恵器	坏	-	(3.5)	6.0	長石・石英・針状物質	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り 底部ヘラ記号	覆土下層	30% 本葉下窯
90	須恵器	坏	[13.0]	5.0	[5.6]	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	体部下端・底部右回りの回転ヘラ削り	覆土下層	10% 本葉下窯
91	須恵器	坏	-	(1.6)	[7.6]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部右回りの回転ヘラ削り	覆土中	10% 本葉下窯カ
92	須恵器	坏	-	(2.6)	[7.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	10% 本葉下窯カ

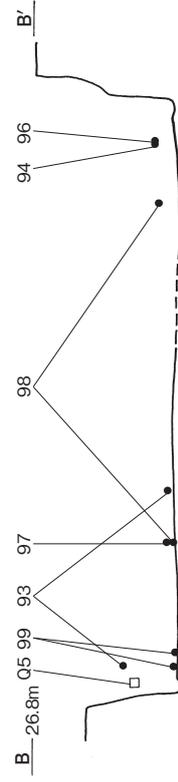
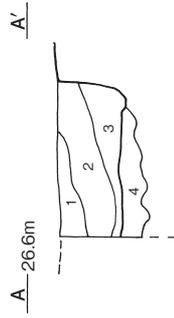
第 23 号 縦穴建物跡 (第 24・25 図, PL 4)

位置 調査区南東部 (I 区) の J 3 d1 区, 標高 27 m ほどの台地縁辺部に位置している。

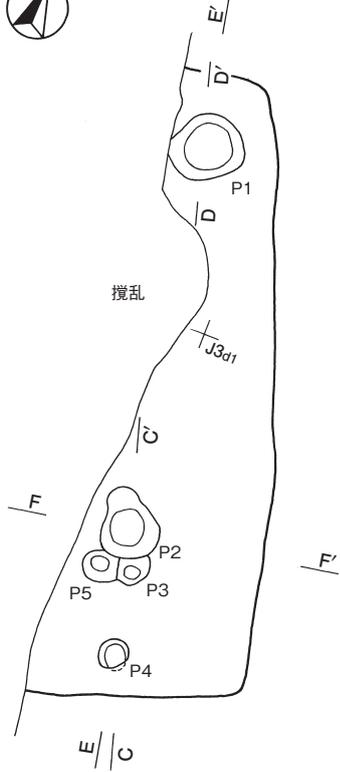
規模と形状 西部が水道管理設工事によって攪乱を受けており、南北軸は 4.97 m で、東西軸は 1.66 m しか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、南北軸方向は N - 16° - W と推定される。壁は高さ 55 ~ 78cm で、ほぼ直立している。



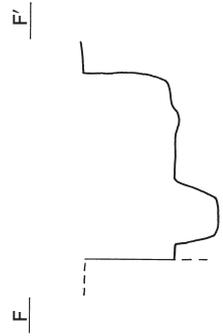
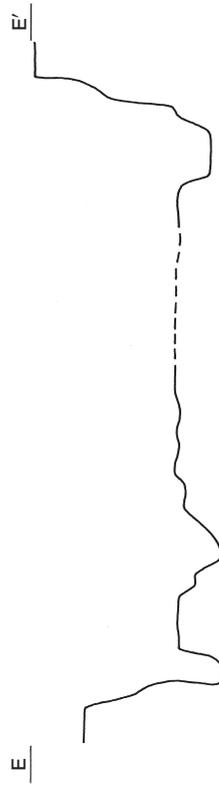
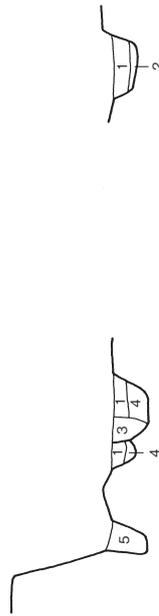
A'



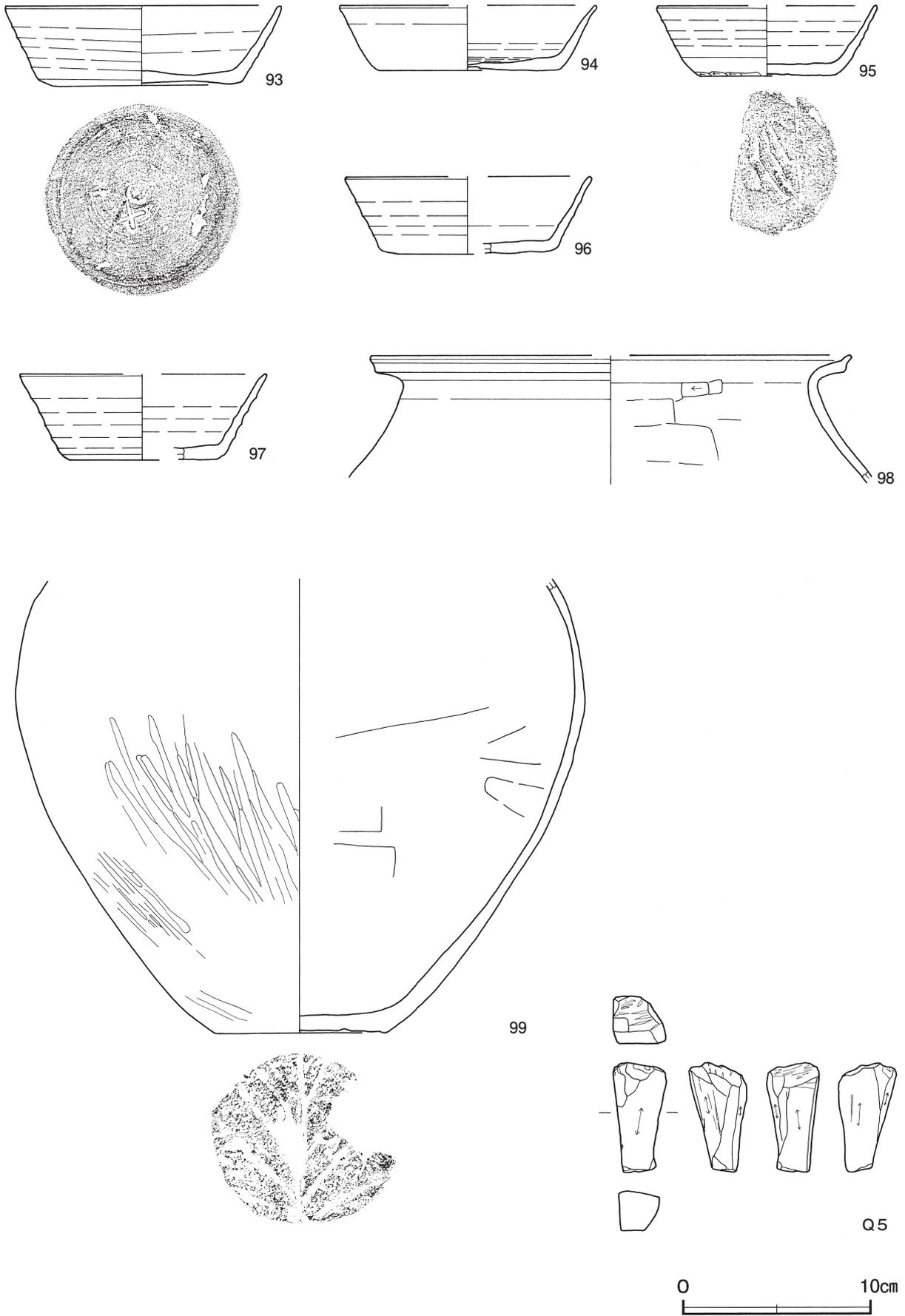
J3e1



C' 26.8m



第24图 第23号竖穴建物迹实测图



第 25 図 第 23 号竖穴建物跡出土遺物実測図

**床** 平坦な貼床で、南壁際及び北東コーナー部を除いて踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む黒褐色土（第4層）を埋土して構築されている。確認された壁下には、幅23～27cm、深さ3～5cmの壁溝が巡っている。北東コーナー部及び東壁際で焼土を確認した。

**ピット** 5か所。掘方調査によって確認した。配置から、P2は主柱穴、P3・P5は補助柱穴、P1・P4は壁柱穴と考えられる。

**ピット土層解説**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 褐色  | ローム粒子多量   | 5 黒褐色 | ローム粒子少量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量   |       |           |

**覆土** 3層に分層できる。第1・2層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3層は、自然堆積である。第4層は、貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                   |       |                  |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化材微量   | 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量     |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・黒色土ブロック少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック多量（貼床構築土） |

**遺物出土状況** 土師器片183点（坏1，碗1，鉢1，甕180），須恵器片15点（坏）のほか、縄文土器片2点（深鉢），弥生土器片1点（広口壺），石器1点（砥石）が出土している。Q5は、南壁際の覆土中層から出土している。93は、覆土上層と床面から出土した破片が接合したものである。94・96～99は、覆土下層から投棄された状態で、95は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

**第23号竪穴建物跡出土遺物観察表（第25図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
93	須恵器	坏	14.6	4.4	9.0	長石・針状物質	灰	普通	底部左回りの回転ヘラ削り 底部ヘラ記号	覆土上層 床面	90% PL 6 木葉下窯
94	須恵器	坏	[13.5]	3.5	[9.6]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土下層	30% 木葉下窯カ
95	須恵器	坏	[11.6]	3.8	[7.2]	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土中	30% 木葉下窯カ
96	須恵器	坏	[13.0]	4.1	[9.4]	長石・石英	灰白	普通	底部左回りの回転ヘラ削り	覆土下層	20% 木葉下窯カ
97	須恵器	坏	[13.1]	4.6	[7.9]	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	底部手持ちヘラ削り	覆土下層	20% 木葉下窯
98	土師器	甕	[25.4]	(6.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 内面一部ヘラ削り 横位ヘラナデ	覆土下層	10%
99	土師器	甕	-	(24.4)	9.1	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部上位ナデ 体部下位縦位ヘラ磨き 体部内面横位ヘラナデ 底部木葉痕	覆土下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	砥石	5.9	2.8	3.1	48.8	流紋岩	砥面4面 上端部に擦痕	覆土中層	PL 8

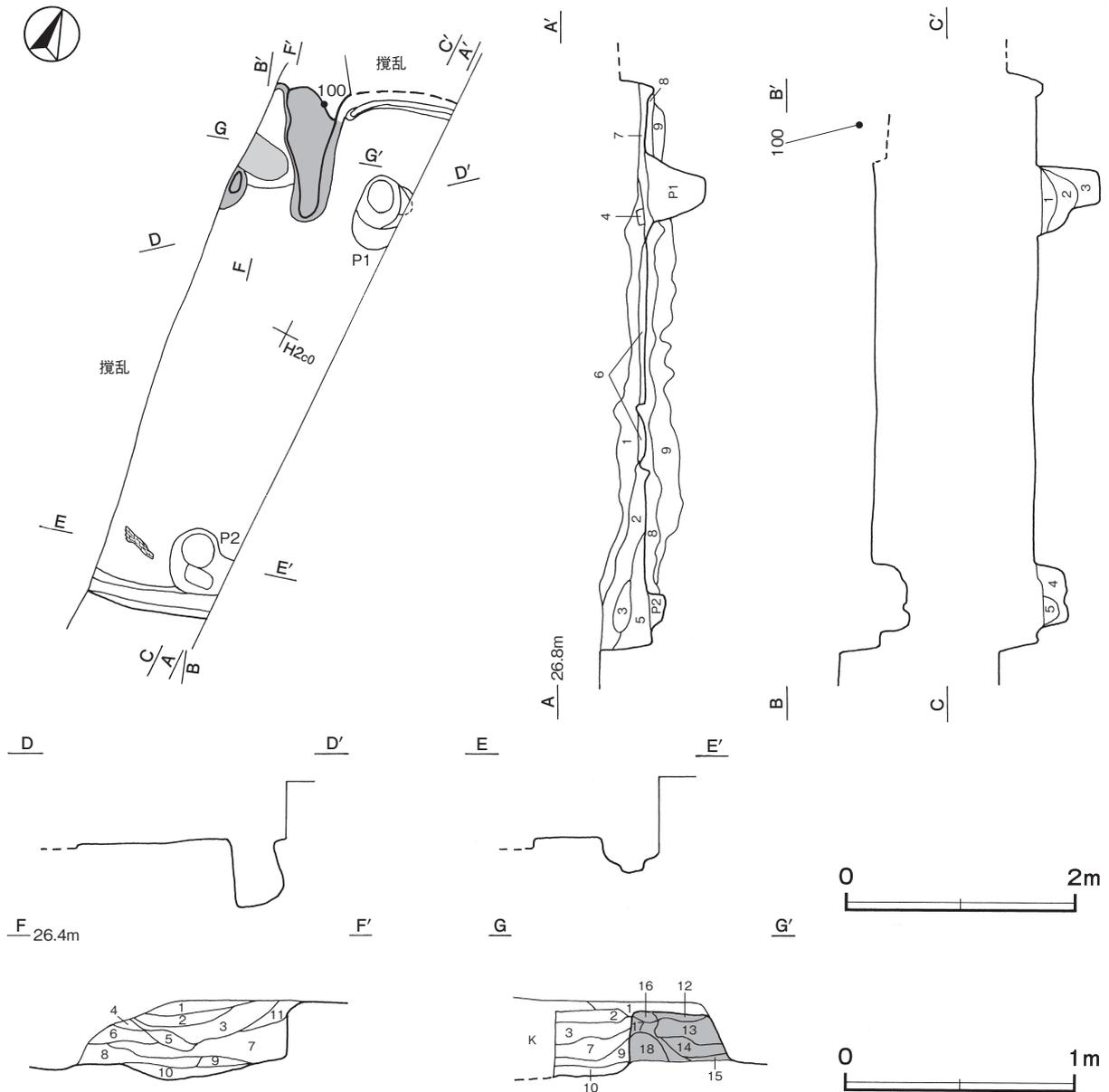
**第24号竪穴建物跡（第26・27図，PL4）**

**位置** 調査区北東部（K区）のH2b9区、標高27mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 東部が調査区域外へ延びており、西部は水道管埋設工事によって攪乱を受けているため、南北軸は4.58mで、東西軸は1.62mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、南北軸方向はN-19°-Wと推定される。壁は高さ25～32cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、全体に踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、幅15～25cm、深さ5～10cmの壁溝が巡っている。

**竈** 北壁に付設されている。西部が攪乱を受けているため、焚口から煙道部までは110cmほどで、燃焼部幅は40cmしか確認できなかった。袖部は、床面上に砂質粘土ブロックを積み上げて構築されている。火床面は床面と同じ高さで、火熱により赤変硬化している。



第26図 第24号竪穴建物跡実測図

竪穴土層解説

- |          |                       |           |                         |
|----------|-----------------------|-----------|-------------------------|
| 1 暗褐色    | ローム粒子・焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量 | 10 にぶい赤褐色 | 焼土層                     |
| 2 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量，焼土粒子少量     | 11 暗赤褐色   | 焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量         |
| 3 暗赤褐色   | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量 | 12 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量     |
| 4 暗褐色    | ローム粒子・焼土粒子少量          | 13 極暗褐色   | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量 |
| 5 明褐色    | 砂質粘土ブロック多量            | 14 暗赤褐色   | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量           |
| 6 暗赤褐色   | 砂質粘土粒子中量，炭化物・焼土粒子少量   | 15 黒褐色    | 焼土粒子・炭化粒子微量             |
| 7 暗赤褐色   | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量  | 16 極暗赤褐色  | 焼土粒子少量，炭化粒子微量           |
| 8 黒褐色    | 焼土ブロック・炭化粒子中量         | 17 黒褐色    | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量           |
| 9 暗赤褐色   | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量       | 18 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量              |

ピット 2か所。P1は深さ59cmで，規模と配置から主柱穴である。P2は深さ28cmで，配置から出入口の施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- |       |                     |       |           |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒色  | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量           | 5 褐色  | ロームブロック中量 |
| 3 褐色  | ロームブロック中量           |       |           |

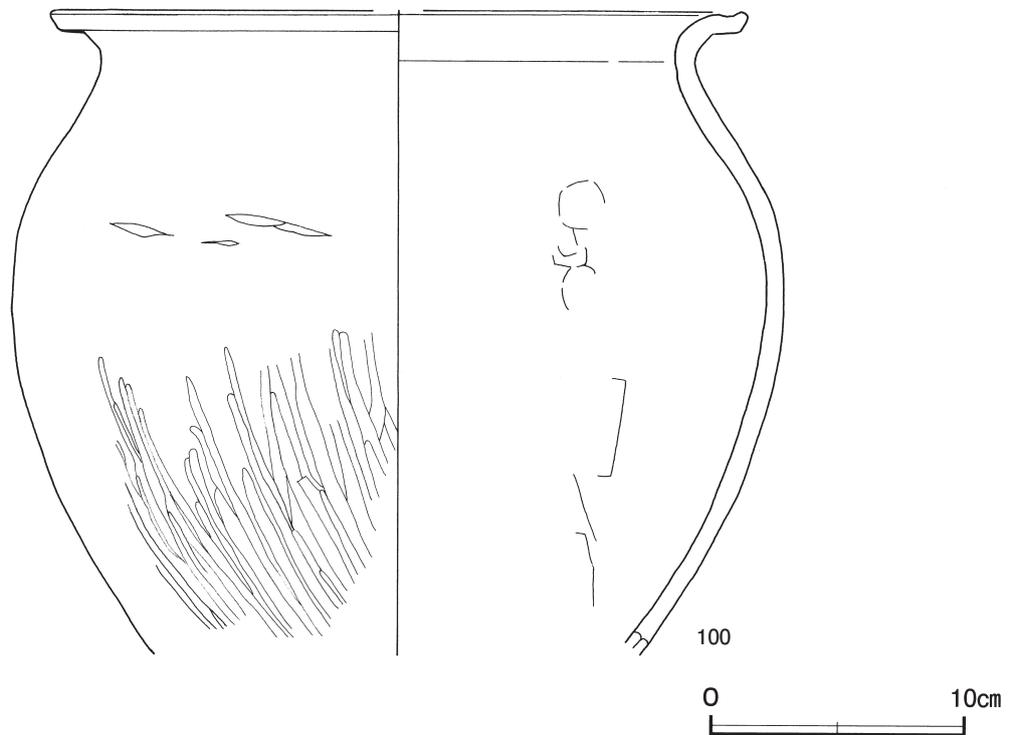
**覆土** 7層に分層できる。第2～7層はレンズ状の堆積をしており、自然堆積である。第1層は、黒色土のブロックが複雑に含まれ、埋め戻されている。第8・9層は、貼床の構築土である。

**土層解説**

- |                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 極暗褐色 黒色土ブロック中量, ロームブロック少量 | 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量      |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色土粒子微量      | 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量    |
| 3 黒褐色 ローム粒子・黒色土粒子少量, 焼土粒子微量 | 8 褐色 ロームブロック多量 (貼床構築土)  |
| 4 黒褐色 黒色土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック中量 (貼床構築土) |
| 5 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量       |                         |

**遺物出土状況** 土師器片 23 点 (甕), 須恵器片 1 点 (坏) のほか, 縄文土器片 11 点 (深鉢), 石器 1 点 (砥石) が出土している。100 は覆土下層から投棄された状態で出土している。また, 南側壁近くから長さ 40cm ほどの炭化材が出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から 8 世紀代と考えられる。



第 27 図 第 24 号 縦穴建物跡出土遺物実測図

第 24 号 縦穴建物跡出土遺物観察表 (第 27 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
100	土師器	甕	[27.2]	(25.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面下位縦位ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ 指頭圧痕	覆土下層	20%

**第 25 号 縦穴建物跡 (第 28・29 図, PL 5)**

**位置** 調査区北東部 (K 区) の G 2 h 8 区, 標高 27 m ほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 西部は調査区域外へ延びるとともに攪乱を受け, 東壁から南東隅にかけては削平されているため, 南北軸は 2.91 m で, 東西軸は 1.73 m しか確認できなかった。平面形は方形または長方形で, 主軸方向は N-0° と推定される。確認された壁は, 高さ 52cm でほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 北部を一段深く掘りくぼめて, ロームブロック

を少量含む第10・11層を埋土して構築されている。

**竈** 北壁の北東コーナー寄りに付設されている。西部の大半が攪乱により失われているため、右袖部と火床面が確認できた。煙道部も失われているため、焚口部から右袖奥まで96cmである。右袖部は、床面から5cmほど掘りくぼめ、砂質粘土ブロックを多く含む第14～16層を積み上げて構築されている。火床面は、赤変硬化している。焚口は、長さ44cm、深さ10cmほどが挿鉢状に掘り込まれている。

**竈土層解説**

1 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	9 黒褐色	ロームブロック少量
2 褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	10 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
3 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子微量	11 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量, 砂質粘土ブロック少量
4 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	12 褐色	砂質粘土粒子多量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	13 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	14 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック多量
7 褐色	砂質粘土ブロック多量	15 暗褐色	ローム粒子中量
8 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子少量	16 褐色	ロームブロック中量, 黒色土ブロック少量, 焼土粒子微量

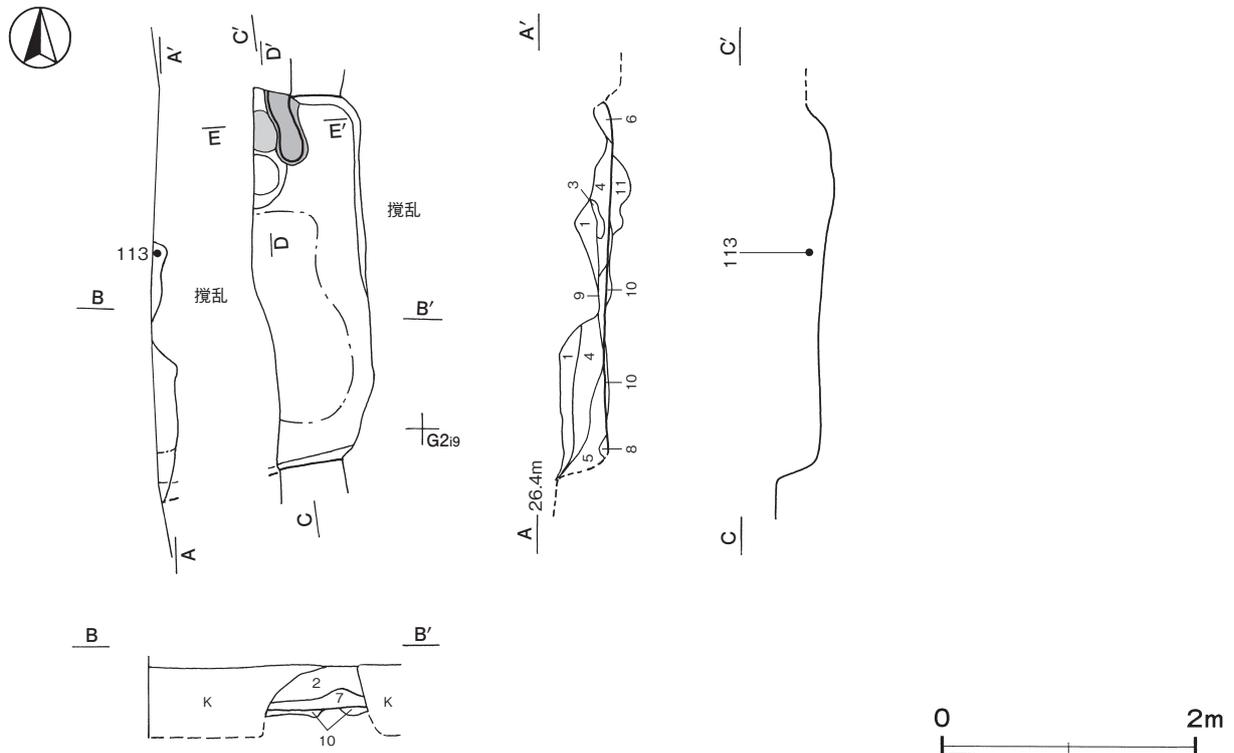
**覆土** 9層に分層できる。ロームブロックや黒色土ブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第10・11層は、貼床の構築土である。

**土層解説**

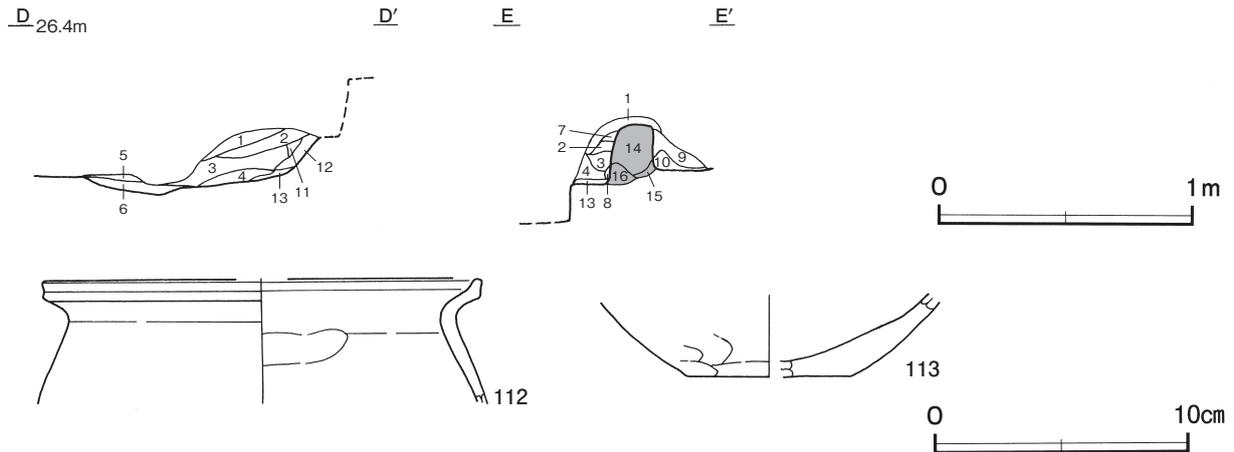
1 黒褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 黒色土ブロック少量	8 黒褐色	ローム粒子少量
3 褐色	砂質粘土ブロック多量	9 黒褐色	ローム粒子・黒色土粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック少量, 黒色土ブロック・焼土粒子微量	10 褐色	ロームブロック多量 (貼床構築土)
5 暗褐色	ロームブロック少量, 黒色土粒子微量	11 極暗褐色	黒色土ブロック中量, ロームブロック少量 (貼床構築土)
6 褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量		

**遺物出土状況** 覆土中から土師器片9点(甕), 須恵器片6点(坏), 竈覆土から土師器片2点(甕), 建物の掘方から土師器片2点(甕)が出土している。112は覆土中から, 113は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀代と考えられる。



第28図 第25号竪穴建物跡実測図



第29図 第25号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第25号竪穴建物跡出土遺物観察表（第29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
112	土師器	甕	[17.2]	(5.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	10%
113	土師器	甕	-	(3.3)	[6.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外・内面ナデ	覆土下層	10%

### 第26号竪穴建物跡（第30～32図，PL 5）

**位置** 調査区北部（L区）のF 2 h3区，標高27 mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 西部が調査区域外へ延び，北東隅は道路建設時に攪乱を受けているため，確認できたのは，南北軸は5.22 mで，東西軸は4.35 mである。平面形は方形で，主軸方向はN - 13° - Eである。壁は高さ16～26cmで，ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で，四隅を除いて，全体的に踏み固められている。貼床は，ロームブロックを含むにぶい褐色土（第14・15層），橙色土（第12層）を埋土し，その上に多量のロームブロックを含む明褐色土（第11層）や褐色土（第10・13層）を敷均して構築されている。東壁の一部を除く確認された壁下には，幅15～25cm，深さ5～13cmの壁溝が巡っている。竈の左前の床面に焼土の堆積が，建物の中央付近の床面には粘土と焼土の堆積があり，建物の廃絶後早い時期に投棄されたとみられる。

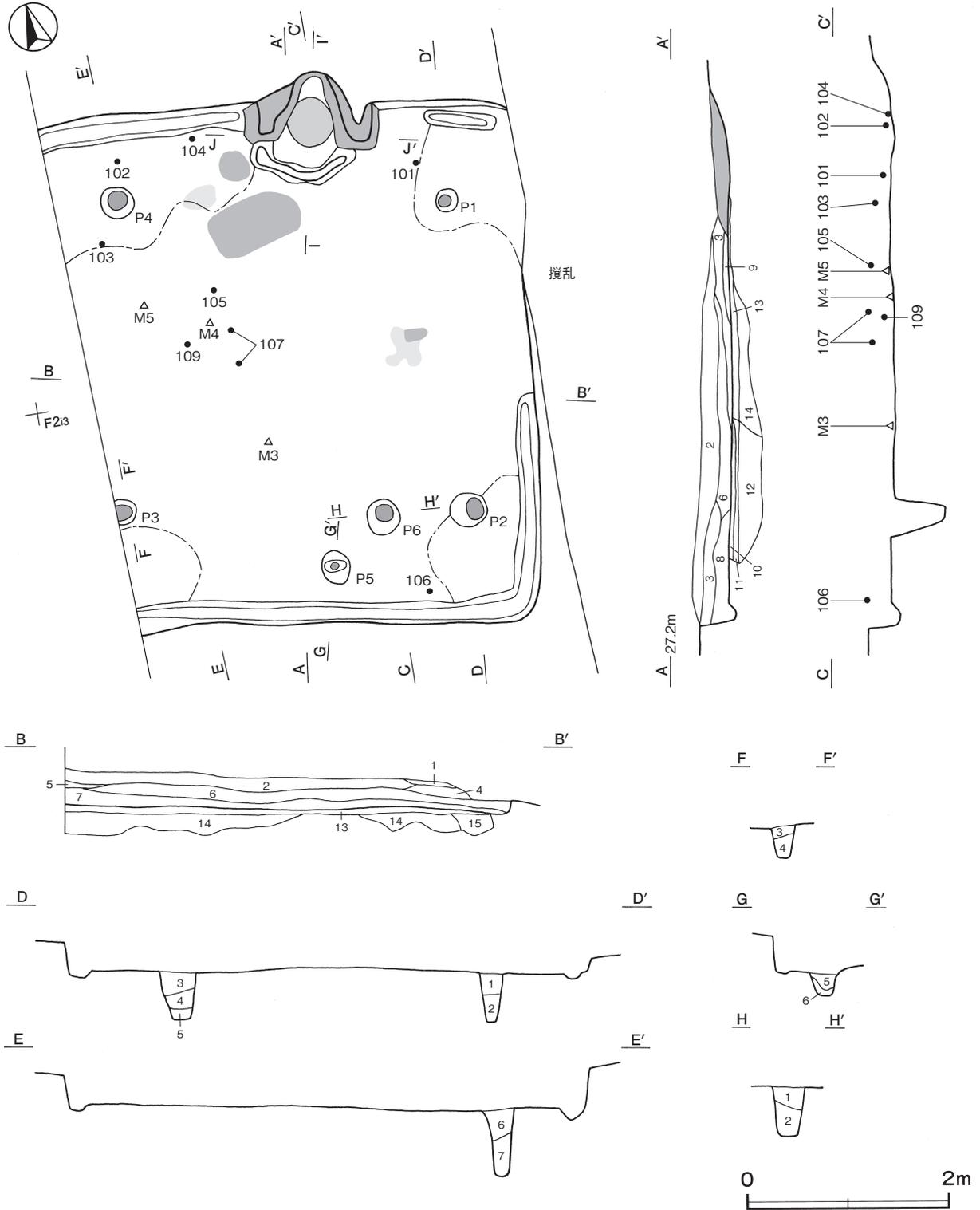
**竈** 北壁に付設されている。建物跡の規模から，北壁のほぼ中央部と推定される。規模は焚口から煙道部まで101cm，燃燒部幅は46cmである。火床面はロームで，火熱により赤変硬化している。袖部はロームを削り出して基部とし，砂質粘土ブロックを含む第21・22層を貼って構築されている。火床部は床面と同じ高さで，煙道部はロームを壁外へ40cmほど掘り込み，火床部から外傾している。焚口の前部には，馬蹄形の幅15～20cm，高さ5 cm前後の土手状の高まりが確認された。

#### 竈土層解説

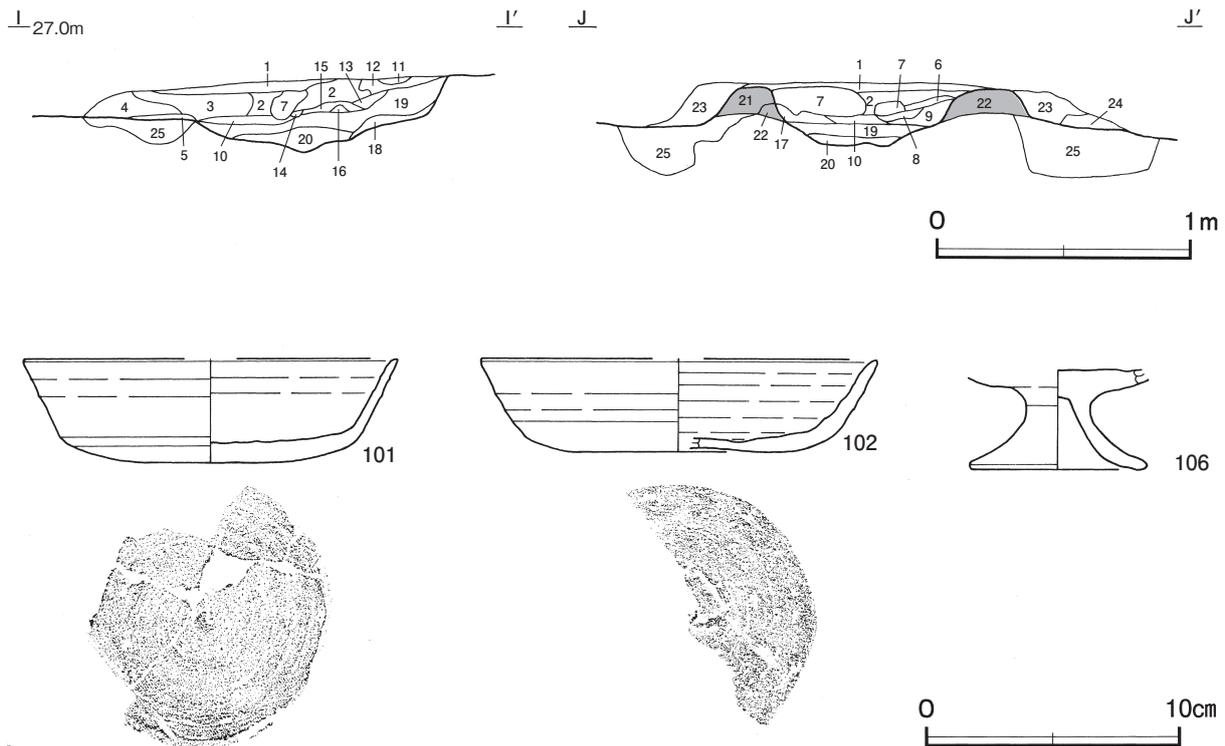
- |          |                        |           |                      |
|----------|------------------------|-----------|----------------------|
| 1 黒褐色    | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量    | 8 暗赤褐色    | 焼土ブロック・炭化粒子少量        |
| 2 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 黒褐色     | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量      |
| 3 灰褐色    | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量   | 10 暗赤褐色   | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量   |
| 4 赤褐色    | 焼土ブロック多量，粘土粒子微量        | 11 灰褐色    | 砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量    |
| 5 暗赤褐色   | 焼土粒子・炭化粒子少量            | 12 極暗赤褐色  | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色    | 砂質粘土ブロック多量             | 13 暗赤褐色   | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量      |
| 7 にぶい褐色  | 砂質粘土ブロック多量             | 14 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量      |

- 15 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量
- 16 暗赤褐色 焼土ブロック多量, 粘土粒子少量
- 17 灰褐色 焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量
- 18 明黄褐色 砂質粘土ブロック多量
- 19 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 20 赤褐色 焼土ブロック多量

- 21 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 22 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量, 炭化粒子中量
- 23 黒褐色 炭化材・焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 24 暗赤褐色 炭化材・ローム粒子・焼土ブロック少量
- 25 灰褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量



第30図 第26号竪穴建物跡実測図



第31図 第26号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ35～70cmで、規模と配置から主柱穴である。P 6は深さ50cmで、補助柱穴と考えられる。P 5は深さ23cmで、位置から出入口の施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- |         |                      |         |                   |
|---------|----------------------|---------|-------------------|
| 1 褐 色   | ロームブロック中量, 炭化材微量     | 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐 色   | ロームブロック多量            | 6 褐 色   | ロームブロック多量         |
| 3 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒 褐 色 | ローム粒子少量           |
| 4 褐 色   | ロームブロック多量            |         |                   |

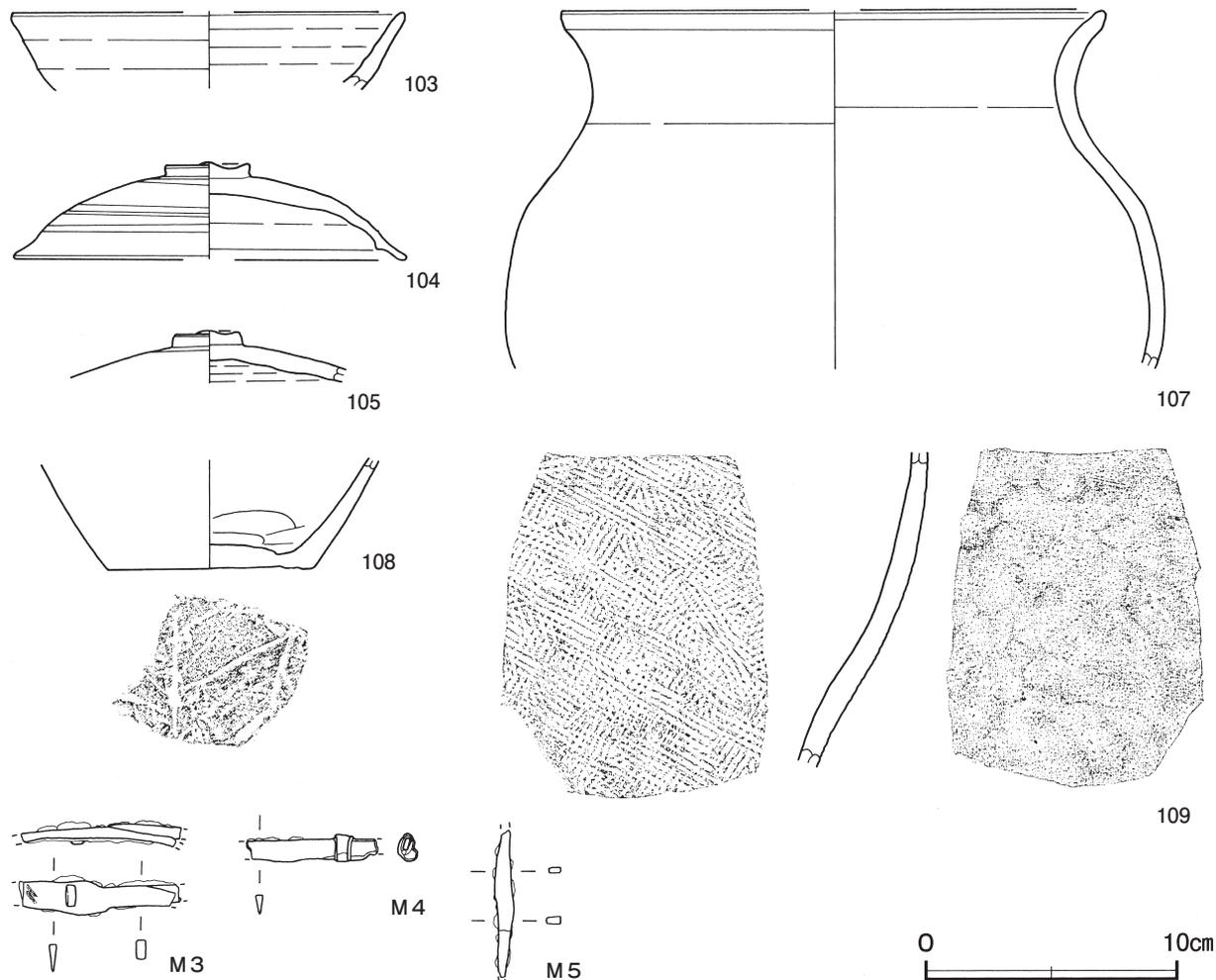
覆土 9層に分層できる。レンズ状の堆積をしており、自然堆積である。第10～15層は、貼床の構築土である。

土層解説

- |         |                        |          |                          |
|---------|------------------------|----------|--------------------------|
| 1 黒 褐 色 | 焼土粒子微量                 | 9 黒 褐 色  | 焼土粒子・粘土粒子微量              |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐 色   | ローム粒子多量, 炭化粒子微量(貼床構築土)   |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック微量              | 11 明 褐 色 | ロームブロック多量(貼床構築土)         |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量         | 12 橙 色   | ローム粒子少量, 炭化粒子微量(貼床構築土)   |
| 5 黒 褐 色 | ローム粒子微量                | 13 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量(貼床構築土) |
| 6 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量          | 14 にぶい褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量(貼床構築土)   |
| 7 灰 褐 色 | 砂質粘土ブロック少量, 炭化物微量      | 15 黒 褐 色 | ロームブロック少量(貼床構築土)         |
| 8 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      |          |                          |

遺物出土状況 土師器片300点(坏4, 壺2, 甕294), 須恵器片29点(坏15, 蓋7, 高坏1, 甕6), 石器3点(敲石2, 砥石1), 鉄製品3点(刀子2, 鎌カ1)が出土している。104は竈左側, 101は竈右側のそれぞれ床面から出土している。102は北西隅近くの覆土下層から, M 3は中央部付近, M 5は西側壁近くのそれぞれ覆土下層から, 106は南側の覆土上層から出土している。いずれも、埋没過程で投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定される。



第 32 図 第 26 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 26 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 31・32 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
101	須恵器	坏	[14.6]	4.2	11.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	横ナデ 底部右回りの回転ヘラ削り	床面	60% PL 6 新治窯
102	須恵器	坏	[15.5]	3.7	[10.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	横ナデ 底部右回りの回転ヘラ削り	覆土下層	30% 新治窯
103	須恵器	坏	[15.6]	(3.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	横ナデ	覆土上層	10% 新治窯
104	須恵器	蓋	[15.3]	3.9	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	横ナデ 天井部右回りの回転ヘラ削り つまみ 接合	床面	70% PL 6 新治窯
105	須恵器	蓋	-	(2.2)	-	長石・石英・針状物質	にぶい黄橙	普通	天井部右回りの回転ヘラ削り つまみ接合	覆土上層	10% 木葉下窯
106	須恵器	高坏	-	(4.0)	[6.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	接合部丁寧な横ナデ	覆土上層	40% PL 6 泉外産カ
107	土師器	甕	[21.7]	(14.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 体部内面横位ヘラナデ	覆土上層	10%
108	土師器	甕	-	(4.5)	8.2	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面横位ヘラ削り後ナデ 内面ナデ 底部木葉痕	覆土中	10%
109	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英	灰	普通	外面擬格子状叩き目 内面無文の当て具痕	覆土下層	木葉下窯カ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 3	刀子	(6.5)	1.3	0.3~0.4	(7.6)	鉄	鍔カが一部残存 両閃	覆土下層	PL 8
M 4	刀子	(5.2)	0.9	0.3	(5.1)	鉄	鍔カが残存 片閃	覆土下層	PL 8
M 5	鎌カ	(6.0)	0.8	0.4	(3.6)	鉄	鎌身部欠損	覆土下層	PL 8

第 27 号 竪穴建物跡 (第 33 図, PL 5)

位置 調査区北部 (L 区) の F 2 f3 区, 標高 27 m ほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 西部及び北部が調査区域外へ延びており, 南北軸は 2.77 m, 東西軸は 0.63 m しか確認できなかった。平面形は方形または長方形で, 南北軸方向は N-3°-W と推定される。壁は高さ 45~66cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 壁際を除き踏み固められている。貼床は, ロームブロックを多く含む褐色土を主体とした第 8・9 層を埋土して構築されている。確認された壁下には, 幅 20~25cm, 深さ 10cm 前後の壁溝が巡っている。

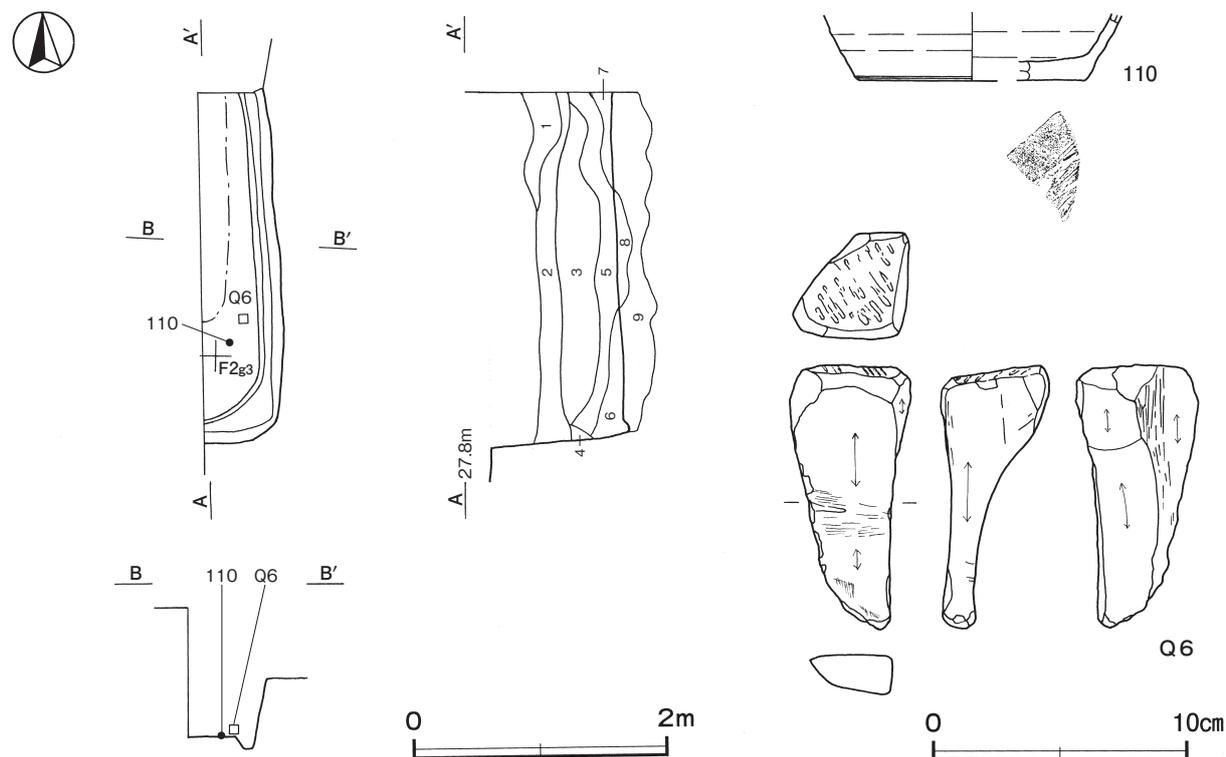
覆土 7 層に分層できる。レンズ状の堆積をしており, 自然堆積である。第 8・9 層は, 貼床の構築土である。

土層解説

- |       |                   |        |                   |
|-------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量      | 6 黒褐色  | ローム粒子少量           |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量   | 7 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量      |
| 3 黒褐色 | 黒色土ブロック・ローム粒子少量   | 8 褐色   | ロームブロック多量 (貼床構築土) |
| 4 褐色  | ロームブロック多量         | 9 極暗褐色 | ロームブロック中量 (貼床構築土) |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・黒色土ブロック少量 |        |                   |

遺物出土状況 土師器片 12 点 (坏 1, 甕 11), 須恵器片 2 点 (坏, 甕), 石器 1 点 (砥石) が出土している。110 は南東隅近くの床面から, Q 6 は東側壁近くの覆土下層から, それぞれ投棄された状態で出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀代と考えられる。



第 33 図 第 27 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 27 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 33 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
110	須恵器	甕	-	(2.7)	[8.8]	長石・石英・針状物質	褐灰	普通	水挽き 底部に圧痕	床面	10% 木葉下窯
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 6	砥石	10.5	4.7	4.3	163.0	流紋岩	砥面 4 面	上端部に擦痕		覆土下層	PL 8

表3 奈良・平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	出入口	ピット	炬・竈	貯蔵穴				
21	J 3 h1	N - 15° - W	[方形・長方形]	4.09 × (1.03)	56 ~ 75	平坦	全周	-	-	-	-	-	人為 自然		9世紀中葉	
23	J 3 d1	N - 16° - W	[方形・長方形]	4.97 × (1.66)	55 ~ 78	貼床 平坦	全周	1	-	4	-	-	人為 自然		8世紀中葉	
24	H 2 b9	N - 19° - W	[方形・長方形]	4.58 × (1.62)	25 ~ 32	貼床 平坦	全周	1	1	-	北壁	-	自然		8世紀代	
25	G 2 h8	N - 0°	[方形・長方形]	2.91 × (1.73)	52	貼床 平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀代	
26	F 2 h3	N - 13° - E	[方形]	5.22 × (4.35)	16 ~ 26	貼床 平坦	全周	4	1	1	北壁	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀前葉	
27	F 2 f3	N - 3° - W	[方形・長方形]	(2.77) × (0.63)	45 ~ 66	貼床 平坦	全周	-	-	-	-	-	自然		8世紀代	

4 その他の遺構と遺物

時期が明確でない掘立柱建物跡1棟, 土坑5基, 溝跡3条, ピット群2か所を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

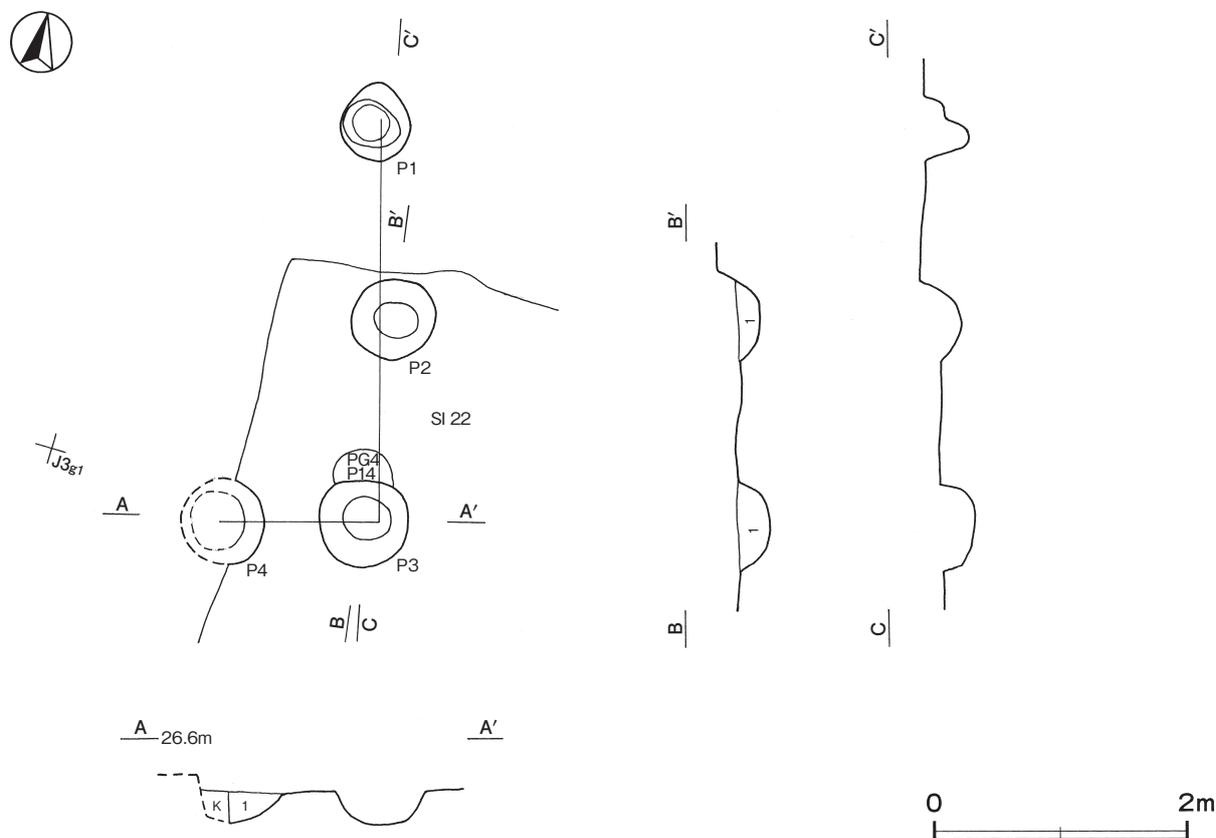
(1) 掘立柱建物跡

第11号掘立柱建物跡 (第34図, PL 1)

位置 調査区南部 (I区) の J 3 f1 ~ J 3 g1 区, 標高27 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第22号竪穴建物跡, 第4号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状 桁行方向がN - 16° - Wの南北棟と考えられる。北西部が調査区域外に延びているため, 桁行



第34図 第11号掘立柱建物跡実測図

は2間以上、梁行は1間以上の側柱建物跡で、確認できた規模は、桁行 3.20 m、梁行 1.27 mである。柱間寸法は桁行 1.60 m、梁行 1.20 mである。

**柱穴** 4か所。平面形は円形または楕円形で、長径は 61～72cm、短径は 56～63cm である。深さは 26～37cm である。P 2～P 4 の覆土はいずれも単一層で、少量のローム粒子を含む黒色土である。

**柱穴土層解説 (P 2～P 4 共通)**

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量

**遺物出土状況** 縄文土器片 4点が出土しているが、細片のため、図示できない。

**所見** 伴なう土器がないため、時期は不明である。

(2) 土坑

時期や性格が明確でない土坑 5基については、実測図(第 35 図)及び一覧表を掲載する。

**第 26 号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック多量

**第 27 号土坑土層解説**

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

**第 28 号土坑土層解説**

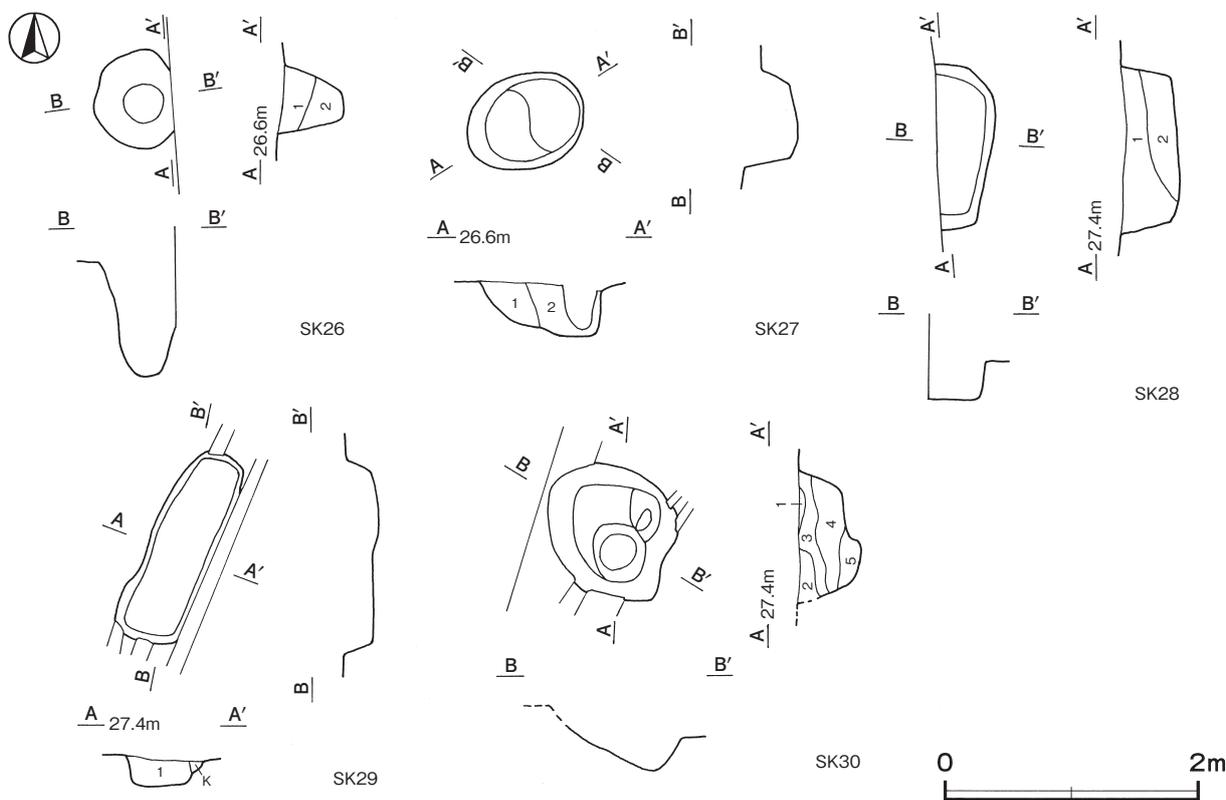
- 1 黒 褐 色 ロームブロック多量, 黒色土ブロック中量
- 2 黒 褐 色 黒色土ブロック中量, ロームブロック少量

**第 29 号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック・黒色土ブロック少量

**第 30 号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 黒色土ブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ロームブロック多量
- 5 褐 色 ロームブロック少量, 黒色土ブロック微量



第 35 図 土坑実測図

表4 時期不明土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
26	K 3 a2	N - 6° - E	[楕円形]	0.83 × (0.64)	91	U字状	直立	自然	-	
27	J 3 f1	N - 68° - E	楕円形	0.97 × 0.75	39	平坦	外傾 ほぼ直立	人為	-	本跡→PG 4 P12
28	F 2 a3	N - 5° - E	[楕円形]	1.31 × (0.43)	35	平坦	直立	人為	-	
29	E 2 j3	N - 26° - E	[長方形]	1.62 × (0.53)	26	平坦	ほぼ直立	人為	-	
30	E 2 j2	N - 54° - W	[楕円形]	(1.09) × 1.01	46	平坦	外傾	人為	-	

(3) 溝跡

時期や性格が明確でない溝跡3条については、実測図（第36図・付図）及び一覧表を掲載する。

第5号溝跡土層解説

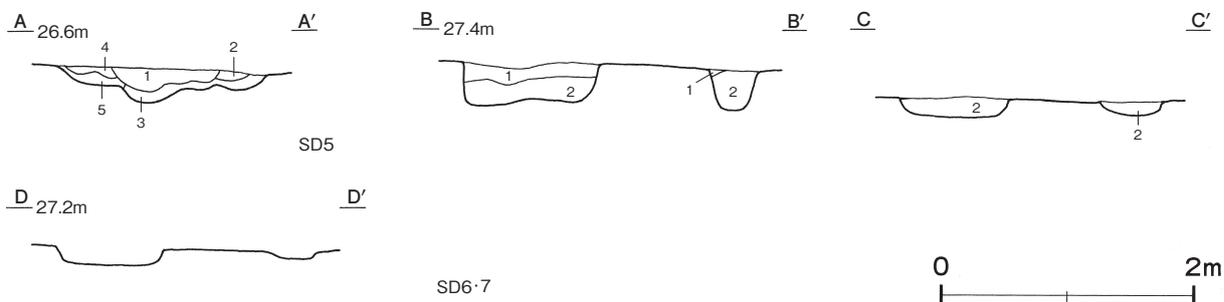
- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 白色粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量, 白色粒子少量

第7号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第6号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量



第36図 第5・6・7号溝跡実測図

表5 時期不明溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
5	K 3 a1 ~ K 3 b2	N - 30° - E	直線	(4.36)	(1.18 ~ 1.82)	(1.10 ~ 1.82)	16 ~ 28	皿状	外傾	自然	-	本跡→PG4P8 ~ 10
6	F 2 j3 ~ F 2 j4	N - 65° - E	直線	(3.74)	0.82 ~ 1.01	0.72 ~ 0.84	12 ~ 14	逆台形	外傾	人為	-	
7	F 2 j3	N - 68° - E	直線	(2.17)	0.33 ~ 0.49	0.20 ~ 0.84	5 ~ 7	逆台形	外傾	人為	-	

(4) ピット群

時期や性格が明確でなく、建物跡も想定できないピット群2か所については、(付図)及び計測表を掲載する。

第4号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	J 3j2	[円形・楕円形]	32	(11)	53
2	J 3j1	円形	31	31	17
3	J 3j2	[円形・楕円形]	35	(25)	37
4	J 3i1	楕円形	39	33	26
5	J 3i1	円形	35	35	33
6	J 3g1	楕円形	37	32	14
7	J 3g1	楕円形	43	38	49

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
8	K 3a1	楕円形	35	27	18
9	K 3a2	円形	34	33	12
10	K 3b2	円形	33	31	23
11	J 3f1	楕円形	37	31	31
12	J 3f1	楕円形	24	21	32
13	J 3f1	楕円形	32	29	19
14	J 3f1	[円形]	49	[47]	17

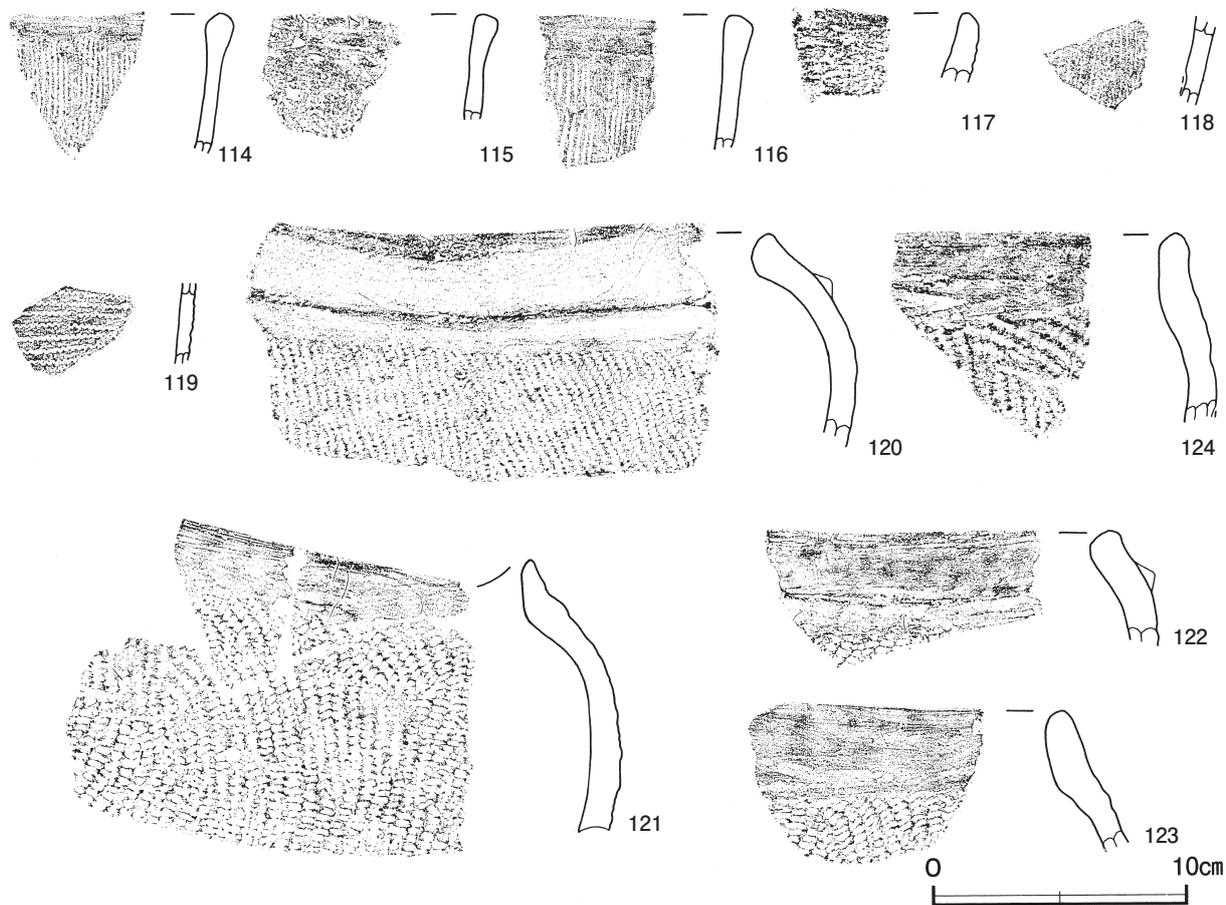
第5号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	F 2d3	[楕円形]	33	(30)	27
2	F 2d3	[楕円形]	53	(34)	18
3	F 2c3	楕円形	29	24	15
4	F 2c3	楕円形	37	30	11
5	F 2c3	楕円形	63	50	33

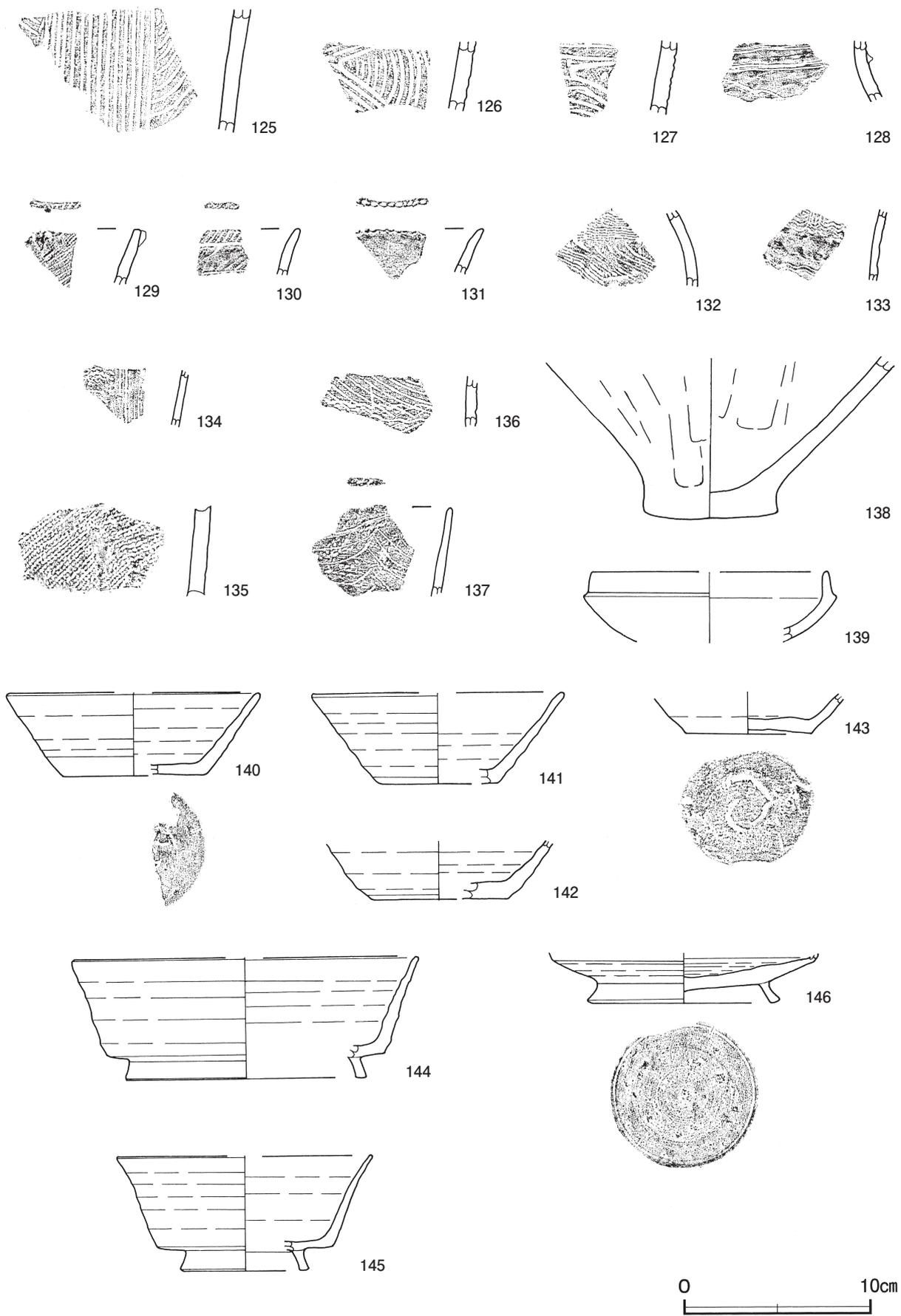
番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
6	F 2c3	[楕円形]	60	(37)	52
7	F 2b3	[楕円形]	67	(35)	53
8	F 2b3	[楕円形]	67	(46)	42
9	F 2a3	[楕円形]	43	(22)	50

(5) 遺構外出土遺物

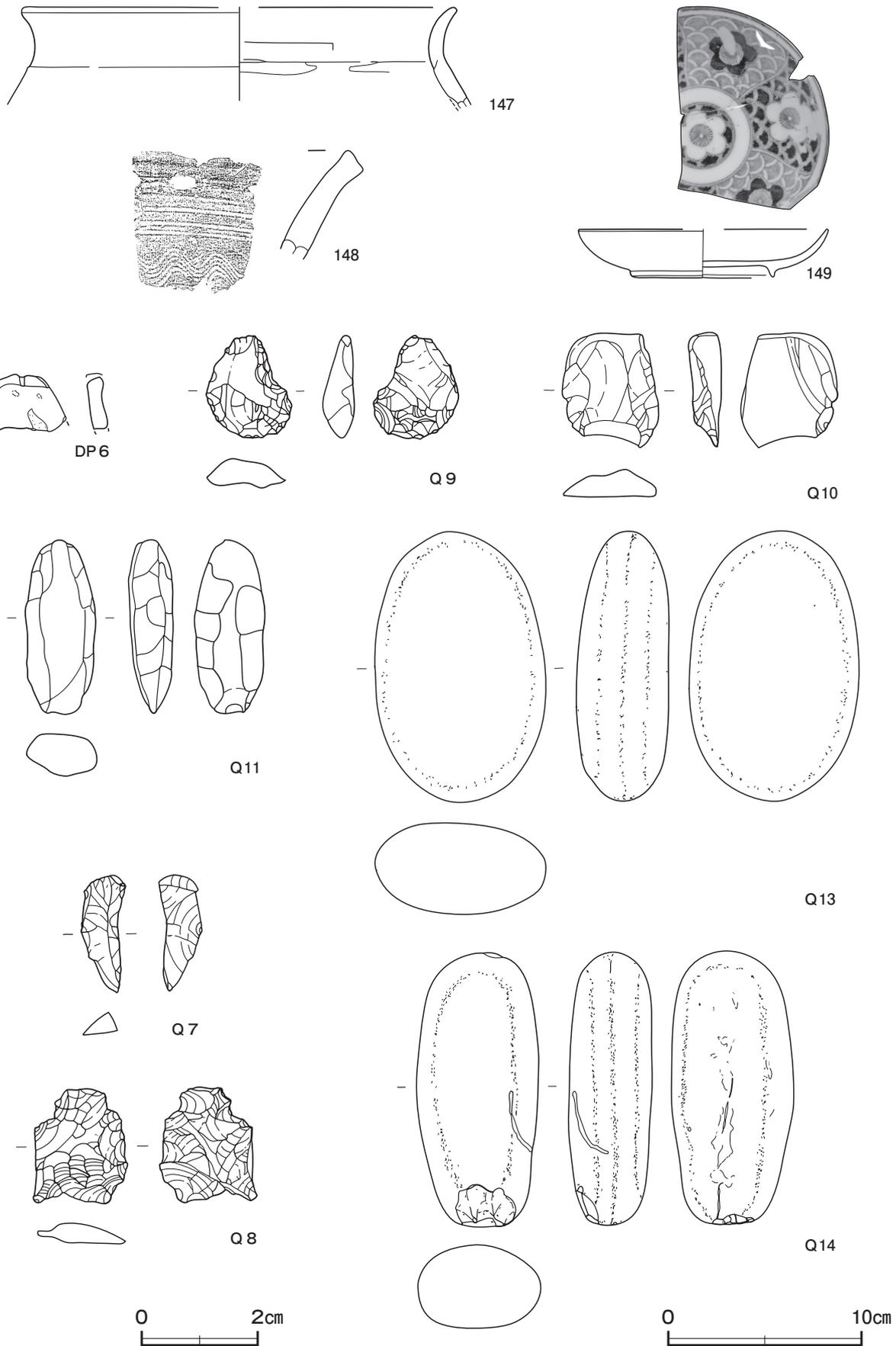
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図（第37～40図）と観察表を掲載する。



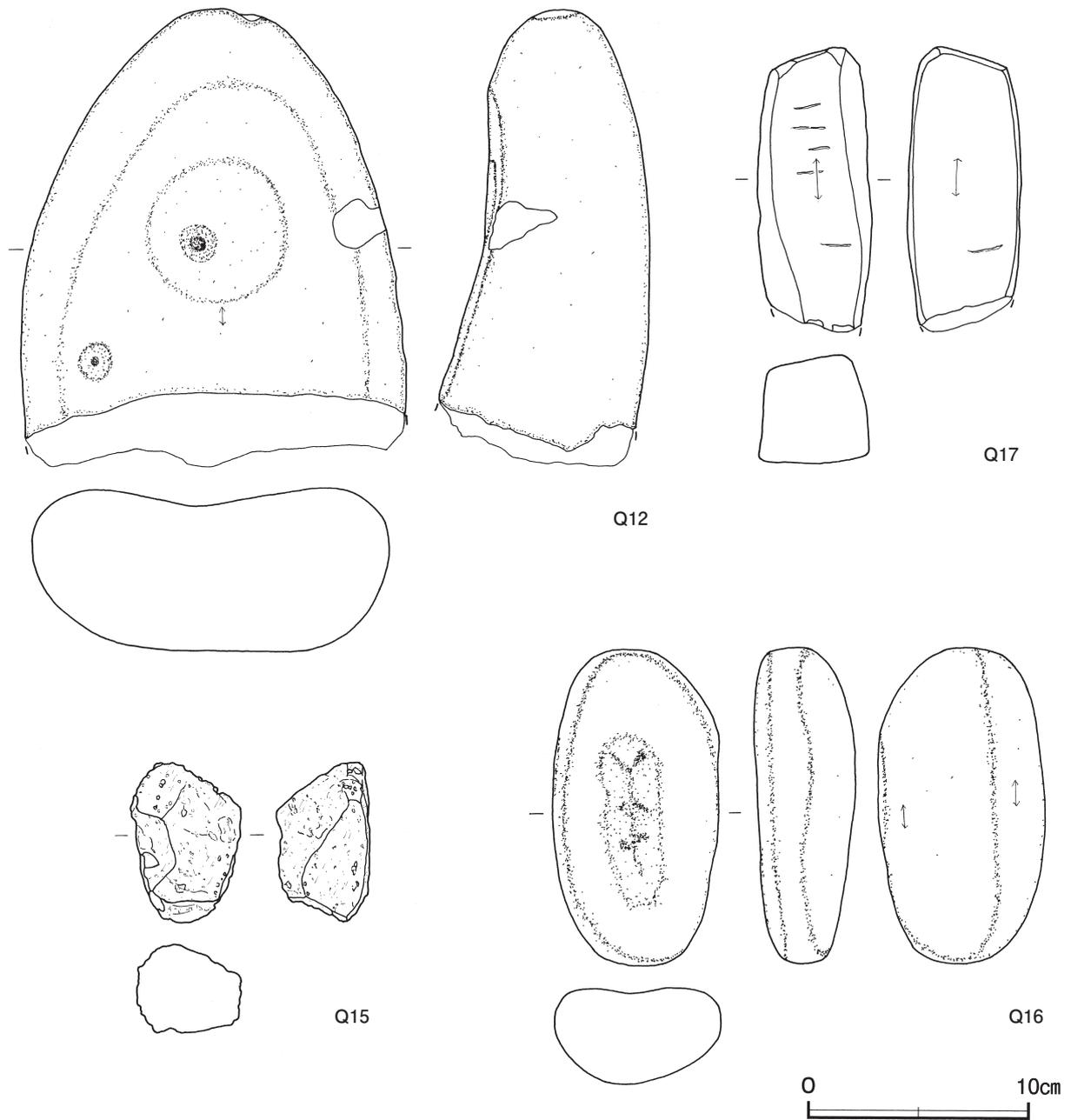
第37図 遺構外出土遺物実測図（1）



第 38 图 遺構外出土遺物実測図 (2)



第39図 遺構外出土遺物実測図(3)



第40図 遺構外出土遺物実測図(4)

遺構外出土遺物観察表(第37~40図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
114	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	縦走る擦糸文	SI18	PL 8
115	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	縦走る粗い擦糸文	SI20	PL 8
116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	縦走る擦糸文	表土	PL 8
117	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	無文	SI18	PL 8
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	縦走る粗い擦糸文	SI18	PL 8
119	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	貝殻腹縁文	SI18	PL 8
120	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁下位に断面三角の隆帯を貼付け単節縄文RL(斜位)	HD	PL 8
121	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁外面の細い無文帯下に単節縄文RL(横) 下位の縄文は斜位	HD	PL 8

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁下位に断面三角の隆帯を貼付け下位に単節縄文RL(横)	HD	
123	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁外面を無文 単節縄文RL(横)	HD	
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	単節縄文RL(横) 内面口縁下に稜	HD	PL 8
125	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文施文後縦位の14条の平行沈線と左右に弧状沈線	SI26	PL 8
126	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	斜行する平行沈線と連続する弧状沈線	SI26	PL 8
127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	平行沈線と区画内の蛇行沈線 地文は細い単節縄文LR	SI26	PL 8
128	弥生土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	横走する断面三角の隆帯の下位に連続弧状文	SI19	PL 8
129	弥生土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇外面に貼瘤 口唇部に縄文原体押圧 外面に単節縄文LR(横)	SI18	PL 8
130	弥生土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁外面に附加条一種(付加2条)横 口唇部に同一原体による押圧	SI18	PL 8
131	弥生土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁外面無文 口唇部に押圧	SI18	PL 8
132	弥生土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	頸部に櫛による波状文(櫛歯は5本) 胴部に附加条一種縄文(付加2条)	SI19	PL 8
133	弥生土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	中位に横走する低い隆帯 上位に横位櫛描波状文後に縦の櫛描 下位に横位波状文	HD	PL 8
134	弥生土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	竹管による縦位の条線と押圧文	SI18	PL 8
135	弥生土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文RL反撚りした原体を縦位に回転	SI19	PL 8
136	弥生土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	附加条二種縄文(横)	SI18	PL 8
137	弥生土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面に無節Rの原体を粗く押圧 ヘラ先による弧状沈線 口唇に押圧	HD	PL 8
138	弥生土器	広口壺	-	(8.8)	7.2	細礫・長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外・内面縦位のヘラ磨き	SI22	20%
139	土師器	坏	[12.6]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 底部内面ナデ	HD	10%
140	須恵器	坏	[13.6]	4.5	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後一部手持ちヘラ削り	HD	10% 木葉下窯カ
141	須恵器	坏	[13.4]	4.9	[6.4]	長石・石英・針状物質	暗灰黄	普通	ロクロナデ	SF2	15% 木葉下窯
142	須恵器	坏	-	(3.2)	[7.2]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	HD	20% 木葉下窯カ
143	須恵器	坏	-	(2.2)	6.8	長石・石英・針状物質	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	SF2	15% 木葉下窯
144	須恵器	高台付坏	[18.6]	6.5	[13.0]	長石・石英	褐灰	普通	高台貼付け	HD	10% 木葉下窯カ
145	須恵器	高台付坏	[13.7]	6.2	[6.9]	長石・石英	灰	普通	高台貼付け	SI20	20% 木葉下窯カ
146	須恵器	盤	-	(2.7)	10.4	長石・石英・針状物質	灰黄褐	普通	底部右回りの回転ヘラ削り後高台貼付け	HD	60% 木葉下窯
147	土師器	甕	[22.4]	(5.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 体部内面ヘラナデ	HD	10%
148	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	口縁部外面に5条1単位の波状文と沈線	SI20	PL 8

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
149	磁器	皿	[12.8]	2.5	[7.2]	緻密 灰白	外縁の6区画内と見込みに青海波と梅花文を陰陽で表現	透明	肥前系	HD	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 6	土器片錘	(3.0)	(4.5)	(1.1)	(12.8)	長石・石英・雲母	にぶい褐	表面剥離	HD	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	剥片	3.1	1.2	0.6	1.8	瑪瑙	横断面三角形	SF2	
Q 8	剥片	3.0	2.5	0.6	3.3	瑪瑙	片面が自然面	HS	
Q 9	剥片	5.4	4.5	1.7	38.1	粘板岩	二次加工	HS	
Q 10	剥片	6.0	5.0	1.8	64.3	粘板岩	上部に自然面を残す	SI20	
Q 11	磨製石斧	9.1	3.7	2.3	111.9	砂岩	外面剥離 刃部の一部に磨面	HD	
Q 12	石皿	(21.0)	17.6	9.6	(4055.0)	砂岩	皿部中央と背面に磨痕	SI20	
Q 13	磨石	14.1	8.9	4.9	826.0	砂岩	両面に磨痕	HD	
Q 14	敲石	14.3	6.4	4.3	581.5	砂岩	下端に敲打痕 側面に磨痕	HD	
Q 15	浮子	7.3	5.0	4.2	35.2	軽石	一部に整形痕	SI19	
Q 16	凹石	14.6	7.6	4.6	735.0	砂岩	中央に細長い凹部 背面に磨跡 両端に敲打痕	SI18	
Q 17	砥石	(13.1)	5.3	5.0	(600.3)	砂岩	砥面2面	SI20	

## 第4節 ま と め

### 1 はじめに

当遺跡は、平成22年度に発掘調査が行われ、その成果は平成23年度に『当財団調査報告』第354集として報告されている<sup>1)</sup>。その内容は、遺構と遺物について詳細な分析がなされており、今回の調査成果に通じる点が多い。

当遺跡が立地する台地の南側には、中丸川と本郷川によって形成された沖積地が広がっている。この沖積地は、縄文海進時には入江になっており<sup>2)</sup>、その後の海退によって形成されて現在にいたったと考えられる。そして、弥生時代以降は水田として開発され、この地に暮らした人々の生活を支えてきた。

今回の調査で確認した遺構や遺物について、前回の調査成果とともに概観し、時期ごとに若干の考察を加えてまとめとしたい。

### 2 縄文時代・弥生時代

縄文時代の遺物には、早期前半の撚糸文系の土器(114～118)が見られる。この時期の遺物の出土範囲は、調査区南部のH区に限られており、平成22年度の調査でもH区の南側に位置するAブロックに限定されていたことから、台地南部付近に当時の生活域が存在すると考えられる。調査区南東部のI区で確認された中期末葉の第22号竪穴建物跡から、石錘(Q1)が出土している。前回の調査でも、調査区域南部から石錘が出土している。この2点が同一時期の遺物であると断定はできないが、縄文時代のこの地で漁労活動が行われていたことは明らかである。第22号竪穴建物跡の時期(中期末葉)にはすでに海退が始まっていたが、その時期まで近辺に漁ができる水域が残されていたことを示している。

弥生時代の遺物としては、中期(128～131・137)から後期(132～134・136)にかけての土器が見られるが、量的には少ない。前回の調査では中期(足洗式期)の竪穴建物跡1棟が確認されており、集落が営まれていたことが明らかになっている。この時期には水田稲作が行われていた。しかし、当時の技術で水田として開発できたのは、台地の南側に広がる沖積地ではなく、台地に解析された谷底の沖積地という限られた範囲であり<sup>3)</sup>、当遺跡では大規模な集落を形成するには生産力が小さく、小規模な集落が営まれたに過ぎないと考えられる。

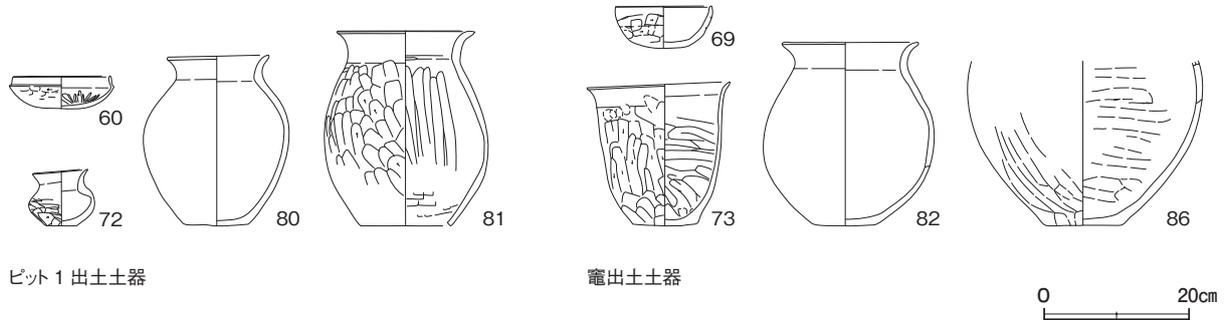
### 3 古墳時代

古墳時代前期・中期の遺構・遺物は見られない。同じ台地上の山崎遺跡<sup>4)</sup>で前期の建物跡が確認されており、中期の集落は確認されていないものの、集落が移動していたと考えられる。

後期の遺物は量が多い。建て替えが行われた建物跡も確認され、建物の大型化と居住の長期化が考えられる。また、柱穴と竈からの出土遺物には祭祀の痕と見られる状況が認められる。技術の向上とともに沖積地の水田化が進み、台地面に拓かれた畑<sup>5)</sup>と併せて生産力が向上して豊かな生活をもたらしたのであろう。また、「生産物の流通<sup>6)</sup>」を通して他地域との交流が進み、それらが人々の精神生活にまで影響を与えていたのであろうか。

祭祀の例は、建物と竈の廃絶に伴うものと推定され、「今後は使用しない」ことを明確に示したと考えられる。住居では柱を抜き取り、大きさが合わず実際には使用できない甕(80)と甗(81)を組み合わせ

て建物としては使用しないことを示したと推定される。竈では、底部があるため甑としては使用できない甑型の土器(73)と甕(82)を組み合わせ、半割して使用できなくなった甕を伏せて煙道を塞ぎ、竈として使用しないことを示したと推定される。



第41図 第20号竪穴建物跡出土土器

#### 4 奈良・平安時代

奈良・平安時代の竪穴建物跡は、前回の調査を含めると13棟(建て替えのため時期が不明確な1棟を除く)になる。これらは同時に存在したのではなく、8世紀前葉3棟、中葉1棟、後葉2棟、8世紀代2棟、9世紀前半1棟、中葉3棟、後半1棟、というように、9世紀後半まで、数棟ずつが比定されている。調査範囲が狭いため断定はできないが、古墳時代後期以降、集落が継続して営まれ、前回の調査で「拠点的な集落にみられる遺構や遺物<sup>7)</sup>」が出土したように、物質的に豊かな集落であったと推定される。

#### 5 おわりに

限られた範囲の調査であったが、前回の調査に引き続き一定の成果を上げることができた。水田稲作の開始以降、技術の向上に伴って沖積地の開発が進み、高い生産力と他地域との交流によって豊かな生活が営まれていたと考えられる。前回の調査成果として報告された「拠点的な集落に見られる遺構や遺物」は、その結果としてもたらされたのであろう。

しかし、明らかにできたことは遺跡全体のごく一部分に過ぎない。今後の調査によって、当遺跡の全体像が明らかになることを期待したい。

#### 註

- 1) 大久保隆史「宮後遺跡 部田野西原遺跡 一般国道245号道路拡幅事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第354集 2012年3月
- 2) 勝田市史編さん委員会『勝田市史』勝田市 1981年9月
- 3) 八賀晋「水田土壌と立地」『弥生文化の研究2 生業』雄山閣 1988年3月
- 4) 宮崎修士「常陸那珂有料道路事業地内埋蔵文化財調査報告書 山崎遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第105集 1995年9月
- 5) 群馬県黒井峯遺跡(6世紀中葉)では、建物の周囲に畑が確認され、しかも高度な農業が行われていたことが明らかになっている。  
石井克己「黒井峯遺跡-日本のポンペイ-」『日本の古代遺跡を掘る4』読売新聞社 1994年10月
- 6) 註1に同じ
- 7) 註1に同じ

写 真 图 版



第20号豎穴建物跡出土土器





第22号豎穴建物跡  
第11号掘立柱建物跡



第18号豎穴建物跡  
遺物出土狀況



第18号豎穴建物跡

PL2



第19A号竖穴建物跡  
遺物出土状況



第19A号竖穴建物跡



第19A号竖穴建物跡掘方  
第19B号竖穴建物跡

第20号竖穴建物跡  
ピット 1  
遺物出土状況



第20号竖穴建物跡竈  
遺物出土状況



第20号竖穴建物跡



PL4



第21号竖穴建物跡



第23号竖穴建物跡



第24号竖穴建物跡



第25号竖穴建物跡

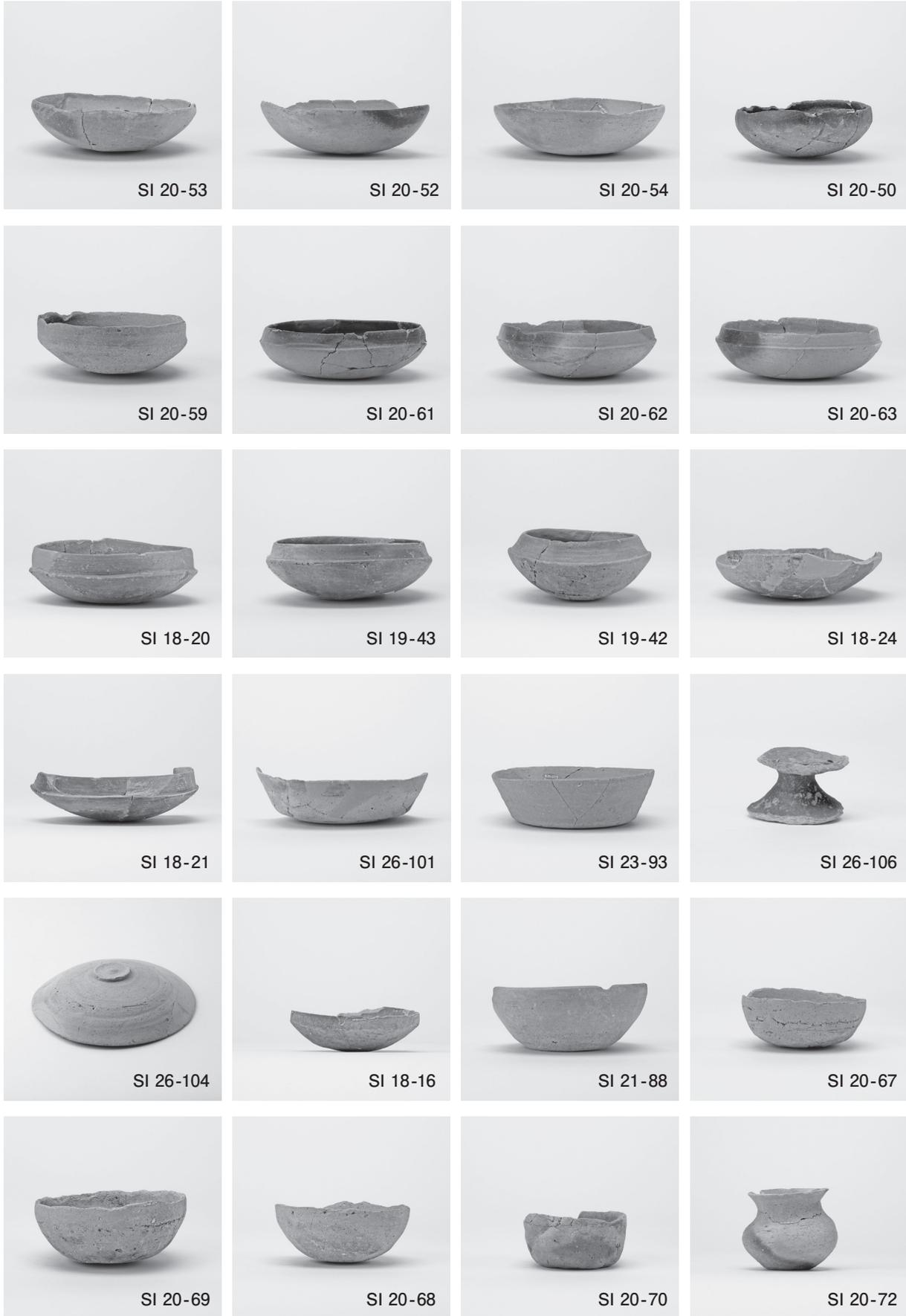


第26号竖穴建物跡



第27号竖穴建物跡

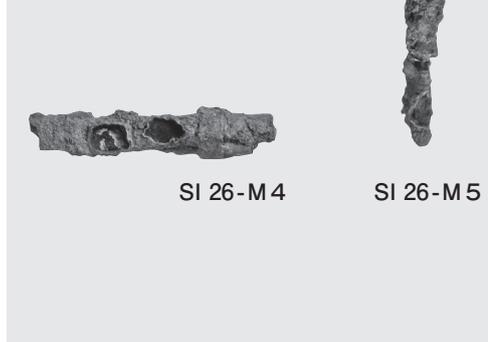
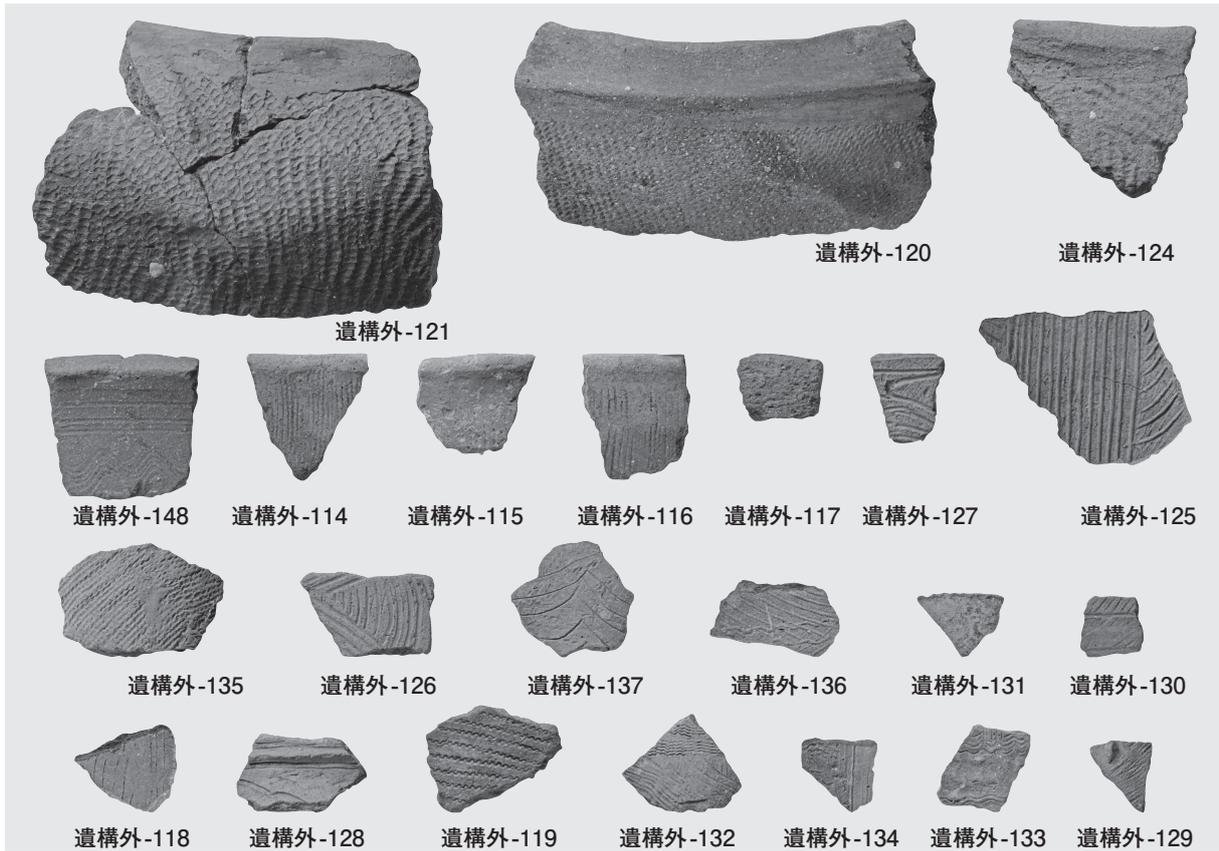
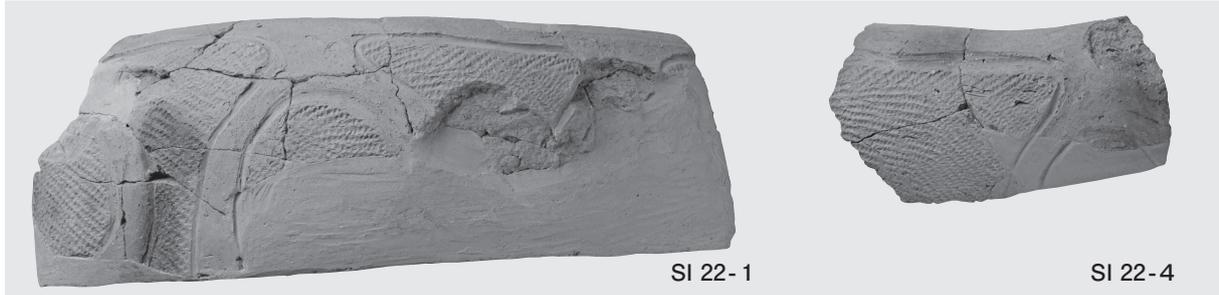
PL6



第18~21・23・26号竖穴建物跡出土土器



第18・20号竖穴建物跡出土土器



# 抄 録

ふりがな	みやごいせき2							
書名	宮後遺跡2							
副書名	一般国道245号道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第422集							
著者名	根本康弘							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2017(平成29)年3月17日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
宮後遺跡	茨城県ひたちなか市部田野1,745番地ほか	08221   229	36度 23分 45秒	140度 34分 54秒	26 ~ 27m	20150401 ~ 20150630	1,864 m <sup>2</sup>	一般国道245号道路改築事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
宮後遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡 1棟		縄文土器(深鉢), 石器(石錘・石皿・磨石・敲石・浮子)		古墳時代の竪穴建物跡の中には、建て替えられた例があった。また、建物の廃絶時に祭祀を行った痕が見られた。	
		古墳	竪穴建物跡 3棟		土師器(坏・高坏・鉢・甕・甗), 土製品(土玉・管状土錘・支脚), 石器(敲石・砥石), 金属製品(刀子・鏃カ)			
		奈良 平安	竪穴建物跡 6棟		土師器(坏・甕・甗), 須恵器(坏・高台付坏・蓋・盤・甕), 石器(砥石), 金属製品(刀子・鏃カ)			
	その他	時期不明	掘立柱建物跡 1棟 土坑 5基 溝跡 3条 ピット群 2か所					
要約	当遺跡は、縄文時代から奈良・平安時代にかけての複合遺跡である。							

## 印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Home Premium ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS6
	図版作成	Adobe Illustrator CS5
	写真調整	Adobe Photoshop CS6
	Scanning	EPSON ET-X980
	図面類	RICOH imagio MP W4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS6でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第422集

### 宮後遺跡 2

一般国道245号道路改築事業  
地内埋蔵文化財調査報告書

平成29（2017）年 3月15日 印刷

平成29（2017）年 3月17日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 山三印刷株式会社

〒311-4153 水戸市河和田町4433の33

TEL 029-252-8481